

授 業 科 目 名		スポーツ科学リテラシー特講		授業形態	講義	授業科目区分	共通科目 (共通領域)
担 当 教 員 名		研究科教務委員会・前田明・中垣内真樹・森司朗・金高宏文・堀内雅弘・北村尚浩・山本正嘉・山田理恵・森克己・高橋仁大・隅野美砂輝・廣津匡隆				補助担当者名	
単 位 数		2単位	履修年次	—		受け入れ人数	—
授 業 の 概 要 及 び 達 成 目 標		本講義は、スポーツ科学における総合科学（応用科学、実践科学等）、人文・社会科学、自然・生命科学の各研究領域について、今日までの研究動向や最先端の研究成果、さらに主な研究の考え方（研究哲学を含む）やその有効性や限界性等を各専門分野の教員が概説する。これにより、様々なスポーツ科学分野の研究を理解し、実践や研究で活用する基礎的な能力（リテラシー）の修得を目指す。					
成績評価の方法		研究領域毎に30点を配し（30点×3領域＝90点）、各領域とも出欠・授業への取り組み・レポート等により総合的に評価する。残りの10点は、授業1、2、5回目の授業の出席等により総合的に評価する。なお、成績評価の概ねの割合は、授業への取組み状況（50％）、レポート等の提出状況（50％）とする。					
成績評価の基準		成績評価の条件として出席は2/3以上を求める。授業の取組み状況は授業での質疑応答の回数やその明瞭度やレポート等は、その課題に対する説明度より評価する。					
テキスト、教材 参考書		随時提供する。					
履修条件・ 関連科目		特になし		備考（教員メッセージ含む）			
オフィスアワー		担当教員ごとに要予約（相談）					
授 業 計 画							
回	担当教員名	授 業 内 容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	研究科教務委員会	スポーツ科学リテラシー総論				レポート1時間	
2	〃	PROGテスト				レポート1時間	
3	山本 正嘉	スポーツ総合科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論1（トレーニング科学）				レポート1時間	
4	前田 明	スポーツ総合科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論2（スポーツパフォーマンス研究）				レポート1時間	
5	金高 宏文	スポーツ総合科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論3（コーチング、コツ・カン等の研究）				レポート1時間	
6	高橋 仁大	スポーツ総合科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論4（競技スポーツ等の各種分析に関する研究）				レポート1時間	
7	北村 尚浩	スポーツ文化・社会科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論1（身体スポーツ活動への社会的アプローチ）				レポート1時間	
8	森 克己	スポーツ文化・社会科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論2（スポーツ法学の研究手法とリテラシー）				レポート1時間	
9	山田 理恵	スポーツ文化・社会科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論3（身体運動文化と人文科学的アプローチ）				レポート1時間	
10	隅野美砂輝	スポーツ文化・社会科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論4（スポーツマネジメントリテラシー）				レポート1時間	
11	堀内 雅弘	スポーツ生命科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論1（運動生理学・バイオメカニクス領域の研究遂行に要するリテラシー）				レポート1時間	
12	廣津 匡隆	スポーツ生命科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論2（スポーツ健康科学論）				レポート1時間	
13	中垣内真樹	スポーツ生命科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論3（高齢者の運動処方）				レポート1時間	
14	森 司朗	スポーツ生命科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論4（スポーツ行動科学論）				レポート1時間	
15	研究科教務委員会	まとめ					

授 業 科 目 名		スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習		授業形態	演習	授業科目区分	共通科目 (共通領域)
担 当 教 員 名		研究科教務委員会・前田明・竹中健太郎・堀内雅弘・北村尚浩・山本正嘉・山田理恵・田巻弘之・吉田剛一郎・中村夏実・松村勲・高井洋平・坂中美郷・村田宗紀				補助担当者名	
単 位 数		2単位	履修年次	—		受け入れ人数	—
授 業 の 概 要 及 び 達 成 目 標		本演習は、スポーツ科学における総合科学（応用科学、実践科学等）、人文・社会科学、自然・生命科学の各研究領域における学術論文作成やプレゼンテーション等に必要な手法や方法について概説・演習する。 具体的には、各領域における実験方法、調査方法並びに統計処理方法やデータベース作成法、プレゼンテーション方法等について行う。さらに、研究室における実験器具やデータの管理、研究室内の運営方法（研究記録の記載方法、安全管理方法、外部資金獲得方法、知的財産の保護方法等）についても行う。 これにより、受講生は修士論文作成のための準備と方略やマネジメント力を得ることができる。					
成績評価の方法		授業時間毎に7点を配し（7点×14回＝98点）、各領域とも出欠・授業への取り組み・レポート等により総合的に評価する。残りの2点は、授業1回目の授業の出席等により総合的に評価する。なお、成績評価の概ねの割合は、授業への取り組み状況（50%）、レポート等の提出状況（50%）とする。					
成績評価の基準		成績評価の条件として出席は2/3以上を求める。授業の取り組み状況は授業での質疑応答の回数やその明晰度やレポート等は、その課題に対する説明度より評価する。					
テキスト、教材 参考書		随時提供する。					
履修条件・ 関連科目		特になし		備考（教員メッセージ含む）			
オフィスアワー		担当教員ごとに要予約（相談）					
授 業 計 画							
回	担当教員名	授 業 内 容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	研究科教務委員会	大学院における研究室と研究組織				レポート1時間	
2	堀内 雅弘	研究室管理・運営 1（倫理規定、安全管理）				レポート1時間	
3	堀内 雅弘	研究室管理・運営 2（研究記録の作成、知的財産の保護）				レポート1時間	
4	田巻 弘之	研究室管理・運営 3（予算、外部資金獲得）				レポート1時間	
5	高井 洋平	スポーツ総合科学分野における実験方法と調査方法 1（トレーニング科学領域における実例から）				レポート1時間	
6	竹中健太郎	スポーツ総合科学分野における実験方法と調査方法 2（武道領域における事例から）				レポート1時間	
7	山田 理恵	スポーツ文化・社会科学分野における資料収集と調査方法 1（資料の収集と整理・吟味）				レポート1時間	
8	北村 尚浩	スポーツ文化・社会科学分野における資料収集と調査方法 2（社会調査）				レポート1時間	
9	前田 明	スポーツ生命科学分野における実験方法と調査方法 1（バイオメカニクス）				レポート1時間	
10	吉田 剛一郎	スポーツ生命科学分野における実験方法と調査方法 2（健康科学）				レポート1時間	
11	村田 宗紀	データ処理方法 1（時系列データの扱い方）				レポート1時間	
12	〃	データ処理方法 2（時系列処理における微分法・積分法）				レポート1時間	
13	中村 夏実 松村 勲 坂中 美郷	プレゼンテーション 1（実践と他者評価）				レポート1時間	
14	〃	プレゼンテーション 2（実践と自己評価）				レポート1時間	
15	山本 正嘉	学術論文作成方法				レポート1時間	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ科学セミナー (211A0-3102)		授業形態	講義・演習	授業科目区分	共通科目 (共通領域)
担当教員名	研究科教務委員会				補助担当者名	
単位数	1 単位		履修年次	－		受け入れ人数 －
授業の概要 及び達成目標	本授業は、スポーツ科学における最先端の研究成果を幅広く理解するとともに、研究におけるプレゼンテーションスキルやコミュニケーションスキルを理解・修得することを狙っている。 そのために、学外講師招聘等による「特別講義」への参画、「修士論文中間発表会」と「修士課程学位論文発表会」への参画やPROGテストの受験をとおして、学生自身の専門性を深化するとともに他の専門領域との関係性や相違性を鮮鋭化することを期待している。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（ % ） ■授業への取組み、準備状況（18%） ■レポート等の提出状況（82%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取組み （特別講義（1点×6回）、修士論文中間発表会（1点×5回）、修士課程学位論文発表会（5点×1回）、PROGテスト解説会（2点×1回）） 講義レポート （特別講義（7点×6回）、修士論文中間発表会（4点×5回）、修士課程学位論文発表会（20点×1回）） 課題に対する真摯な取組み及び説明力で評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜、必要に応じて配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	特別講義については特に、時間割として定められている曜日・時限に開講されるものは必ず受講すること。		
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	研究科教務委員会	特別講義（6回）の出席をすること 修士論文中間発表会、修士課程学位論文発表会、PROGテスト解説会 ：それぞれ参加すること				
2	”	”				
3	”	”				
4	”	”				
5	”	”				
6	”	”				
7	”	”				
8	”	”				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ科学英語特講Ⅰ (211A0-3103)		授業形態	講義・演習	授業科目区分	共通科目 (共通領域)
担当教員名	エルメス デイビット				補助担当者名	
単位数	1 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	21世紀の「スポーツ科学」は、人文・社会科学と自然科学分野の諸科学が体系的に融合しながら、学際的な複合新領域として発展する方向にあり、その人材養成のニーズは多様化の一途を辿っている。21世紀を担う体育・スポーツのリーダーには、「スポーツ活動を通じて、全世界の人々が健康で安定な生活を享受できる社会の構築に貢献する。」ことに加えて、21世紀のボーダーレスの時代とともに時事刻々とリアルタイムで変化する世界情勢に即応するため、国際的な視野と感覚を有し、「スポーツ活動と健康・文化に関する様々な世界的課題を即座に解決する能力」が求められている。現在、国際社会の様々な舞台で用いられている共通言語は「英語」であり、英語を通じて相互のコミュニケーションが図られている。したがって、21世紀を担うスポーツ科学のリーダーには、英語をコミュニケーション・ツールの1つとして利用して全世界の情報を収集するとともに、自らの研究成果を発信する能力が必要不可欠である。スポーツ科学英語は、21世紀の体育・スポーツのリーダーとなる人材育成を目的としたグローバル教育の一貫として実施する。 スポーツ科学英語特講Ⅰ（必修科目）については、様々なスポーツ科学領域に関係する科学英語論文の特徴を理解し、論文内容の読解及び必要な表現方法を学習し、関連する学術雑誌（修士論文を含む。）のabstractを英語で執筆することが可能となる英語能力の取得を到達目標とする。					
成績評価の方法	■学期末試験の成績（40％） ■授業への取り組み状況（20％） ■レポート等の提出状況（40％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に判断・評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	プリントを配布します					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)	このクラスの為のノート、フォルダー、英和・和英辞典を用意してください。	
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	エルメス デイビット	Introduction（講義内容・進行方法の概略）			Homework: Review; Researching/Reading English abstracts	
2	〃	科学英語の基礎知識Ⅰ（科学論文の構成、固有の単語、等）"What is the importance of your research?"; Research question/statement; Paragraph writing			Finish Paragraph writing activity; Researching/Reading English abstracts (1時間)	
3	〃	科学英語の基礎知識Ⅱ（科学論文の特異的表現方法、等）"What problem does this work attempt to solve?"; Key words & Research examples			固有の単語（例文作成）; Review; Researching/Reading English abstracts (1時間)	
4	〃	論文執筆の修辭法（主語、時制、冠詞、等）"What methods did you use?"; research verbs			動詞リスト: Verb worksheet; Researching/Reading English abstracts (1時間)	
5	〃	論文執筆の修辭法（単数・複数、接続詞、関係代名詞、等）Reading for reference: 'Good news for coffee drinkers'			Review; Researching/Reading English abstracts (1時間)	
6	〃	Abstract執筆の実際Ⅰ；"What are the implications of your answer?" / "How does your work add to the knowledge of the topic?" （abstractの意味、abstractに記述する内容、表現方法、等）			アウトライン（今までのMe）; Review; Researching/Reading English abstracts (1時間)	
7	〃	Abstract執筆の実際Ⅱ（執筆したabstractの添削Ⅰ）Test/Outline Preparation			アウトライン（スポーツ科学）；Review, Researching/Reading English abstracts (1時間)	
8	〃	Abstract執筆の実際Ⅲ（執筆したabstractの添削Ⅱ）、まとめ				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ科学英語特講Ⅱ (211B0-1304)		授業形態	講義	授業科目区分	共通科目 (共通領域)
担当教員名	吉重 美紀・国重 徹				補助担当者名	なし
単位数	2 単位		履修年次	1 年次	受け入れ人数	10人
授業の概要 及び達成目標	社会のグローバル化に伴い、英語でプレゼンテーションをする機会は益々増えてきた。本講義・演習は英語で考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーション技術を育成するに留まらず、授業内外での多読・多聴等による英語力の向上を目標とする。今まで蓄積した英語をベースに、授業中のタスクをしながら、提案や説得ができる (persuasive)、あるいは効果的に情報伝達ができる(informative)英語力を養いつつ、プレゼンテーションの技術も徐々にアップできるよう学習を進める。プレゼンテーションの作成にあたり、英語でのパラグラフ・ライティングについても学ぶ。本授業を通して、本学の教育目標やカリキュラムポリシーにおける「国内はもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力」の涵養が期待される。なお、新型コロナウイルスの感染状況により、対面授業が難しいと判断した場合は、オンラインによる遠隔授業とする。					
成績評価の方法	ほぼ毎時間行う英語によるプレゼンテーション (70%) 授業への取り組み状況 (20%) レポート等の提出状況 (10%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記事項をふまえて、総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	教材は、毎回の授業で配布します。遠隔授業の場合は、WebClassに資料を提示します。 参考図書：『使える理系英語の教科書――ライティングからプレゼン、ディスカッションまで』 (森村久美子著、2012、東京大学出版会)					
履修条件・ 関連科目	国重が行っているオンラインによるマンツーマン英会話にできるだけ参加していただきたい。 吉重：プレゼンテーションの原稿は、WebClassのレポートを使って授業前日までに提出ください。		備考(教員メッセージ含む)	使える英語のプレゼンテーション技術を身につけられるよう、一緒に学びましょう。		
オフィス・アワー	国重：木曜日 昼休み及び12:40～13:00、吉重：木曜日 昼休み及び16:00～17:00					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	国重 徹	授業のオリエンテーション、 Introduction, An example of informative presentation: Japan's Education System			今回の授業の復習、発表準備、多読多聴 (60分)	
2	〃	An example of persuasive presentation: Exercise and Physical Fitness			今回の授業の復習、発表準備、多読多聴 (60分)	
3	〃	Preparation of the first presentation of your own: My Hometown			今回の授業の復習、発表準備、多読多聴 (60分)	
4	〃	Giving your own presentation (First round): My Hometown			今回の授業の復習、発表原稿、スライドの修正、発表準備、多読多聴 (120分)	
5	〃	Giving your own presentation (Second round): My Hometown Preparation of the second presentation of your own: My research			今回の授業の復習、次回のプレゼンの発表準備、多読多聴 (120分)	
6	〃	Giving your own presentation (First round): My Research			今回の授業の復習、発表原稿、スライドの修正、発表準備、多読多聴 (120分)	
7	〃	Giving your own presentation (Second round): My Research Review			今回の授業の復習、多読多聴 (60分)	
8	吉重 美紀	後半の進め方と評価、 プレゼンテーションスキルと構成等、 informative presentationの実際 (DVD)、次回テーマのブレイン・ストーミング			Informative Presentation(time order)の発表準備:原稿作成、P.P.作成等(1.5時間)	
9	〃	Informative presentation: The History of 原稿のピア・レビュー、修正、発表、 Effective Visualsとは? 次回発表課題 (My Laboratory)のブレイン・ストーミング			The History of 発表原稿のfinal draft作成、次回発表(My Laboratory)準備(1.5時間)	
10	〃	Informative presentation :My Laboratoryのピア・レビュー、修正、発表、 海外からの訪問者に研究室を紹介できるよう。			前回発表原稿のfinal draft作成、My Laboratoryをゼミ室で実際に発表(2時間)	
11	〃	Informative presentation : Classification分類に関するブレイン・ストーミング			前回発表原稿のfinal draft作成、分類の発表準備: 原稿作成、P.P.作成等 (2時間)	
12	〃	Presentaion : classification／gruouping原稿のPeer Review、修正、発表。 Problem and Solution(問題と解決) によるpersuasive presentationについてブレイン・ストーミング			前回課題発表原稿のfinal draft作成、Problem and Solution発表準備 (2時間)	
13	〃	Persuasive presentation :Problem and Solution(例 : Exercise and Fitness)原稿の pereview、発表、 Comparison比較・対照法によるpersuasive presentationについて			前回課題のfinal draft作成、比較・対照法による発表準備(2時間)	
14	〃	Persuasive presentation:Comparison原稿のピアレビュー、発表 Persuasive Presentationsに必要なもの(DVD), Cause and Effect(原因と結果) によるpersuasive presentationについて			前回課題発表原稿のfinal draft作成、6つの論理展開から最終発表の準備 (3時間)	
15	〃	Last Presentation (Informative or Persuasive) 本授業のまとめ			最終発表原稿の修正と提出 (1.5時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	インストラクションデザイン演習 (211A0-2305)		授業形態	講義	授業科目区分	共通科目 (共通領域)
担当教員名	研究科教務委員会・ヨーコ ゼッターランド				補助担当者名	
単位数	1 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	本演習はスポーツ界における様々なジャンルについて取り上げ、問題点や改善点について概説・演習する。主に大学スポーツ、指導者養成問題、メディアとスポーツ等を扱う。各トピックについてのディスカッション、また「メディアとスポーツ」ではアスリートのメディア対応法として「メディア・トレーニング」を学び、プレゼンテーションの実戦を行う。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（30%） ■レポート等の提出状況（70%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業の取り組み状況は授業での質疑応答の回数やその明晰度やレポート等は、その課題に対する説明度より評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	随時提供する。					
履修条件・ 関連科目	特になし。			備考(教員メッセージ含む)	特になし。	
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	ヨーコ ゼッターランド	ガイダンス 日本のスポーツを取り巻く環境～現状と課題～				
2	〃	スポーツ指導者養成の重要性 ～プレイヤーとアントラージュ～				
3	〃	スポーツ指導における「プレイヤーズセンタード」				
4	〃	ダイバーシティ&インクルージョン ～2020東京五輪を契機として～				
5	〃	女性とスポーツ～これまでとこれから～				
6	〃	スポーツ界に見る「ジェンダー問題」 ～「ジェンダー平等」を考える～				
7	〃	スポーツと社会貢献 ～スポーツを通じて社会問題を解決する～				
8	〃	メディア・トレーニング～講義と実践～				

授業科目名 (ナンバリングコード)	キャリアデザイン演習 (211A0-3306)		授業形態	講義・演習	授業科目区分	共通科目 (共通領域)
担当教員名	研究科教務委員会・川島 克介				補助担当者名	
単位数	1 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本授業では、ビジネスキャリアをスタートする前段階で、目指すべき将来像を漠然としたものから、「自分はどんな職業人を目指そうとしているのか」へと具体化する。 また、その将来像には何が必要で、在学中に準備していくことがあることを明らかにする。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70%） ■レポート等の提出状況（30%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	ディスカッションや教員への質問などの積極性を重視する。 また、レポートによる授業の学習の理解度も評価するものとする。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜、授業で紹介する。					
履修条件・ 関連科目	集中講義2日間の参加		備考(教員メッ セージ含む)	演習を中心とした参加型の授業です。社会人向けの実際の 研修内容をベースにした内容を提供します。		
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	川島 克介	オリエンテーション、教員自己紹介 キャリアとは、キャリア理論の紹介			参考書籍の予習（3時間）	
2	〃	自分のこれまでの軌跡を分析する				
3	〃	将来像を明らかにする				
4	〃	仕事に関する価値観を言語化する				
5	〃	社会人に必要な能力を考える			参考資料の予習（2時間）	
6	〃	職場におけるコミュニケーションとは				
7	〃	職場を取り巻く環境変化				
8	〃	2日間の振り返りとレポート「自らのキャリアデザイン」作成			自らのキャリアデザインについての情報収集作業 (3時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コープ特講演習・実習（フィールドワーク型：30時間）		授業形態	演習・実習	授業科目区分	共通科目 (共通領域)
担当教員名	梶　ちか子・研究科教務委員会				補助担当者名	
単位数	2　単位		履修年次	－	受け入れ人数	2～3
授業の概要 及び達成目標	今日、小学校における体育科教育では、教師の「実践的指導力」の向上が求められている。また、文部科学省は、小学校高学年において「教科担任制」の導入を進めており、「体育」も対象教科となっている。 本授業では、大学内で行う演習等で身につけた知識や指導スキルを活用し、大学外で実際に小学校の体育授業の指導補助や授業支援を行う。学校現場での複数回の指導補助や授業支援の実習を通して、小学校における教員のニーズに対応した、体育科教育における学習支援（コーディネート）を行えることを目標としている。 本演習・実習は、事前・事後学修と大学外の集中的な実習先（原則、鹿屋市内の小学校）での活動が中心になる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％）　■授業（演習・実習）への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％）　を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業・打ち合わせへの積極的な取り組み，レポート，実習（模擬授業）の内容により総合的に判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜，提示する。					
履修条件・ 関連科目	中学校の保健体育科の教員免許状を有していること			備考(教員メッ セージ含む)	フィールドワーク型の演習・実習を実施する受入先は、原則、鹿屋市内の小学校とする。	
オフィス・アワー	随時：研究棟7階，703教員室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	梶　ちか子	オリエンテーション コープ実習の目的・意義・内容			授業の復習(30分)	
2	〃	事前学修（理論学習，模擬授業，教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
3	〃	事前学修（理論学習，模擬授業，教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
4	〃	事前学修（理論学習，模擬授業，教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
5	〃	事前学修（理論学習，模擬授業，教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
6	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察 ※演習・実習の期間 ・実習30コマ（30時間：積み上げ） ・実習60コマ（60時間：積み上げ）			実習の準備と整理(120分)	
7	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
8	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
9	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
10	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
11	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
12	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
13	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
14	〃	小学校体育授業補助体験の実践発表①			発表の準備(60分)	
15	〃	小学校体育授業補助体験の実践発表②			発表の振り返り(60分)	
16	〃	全体省察				

授業科目名 (ナンバリングコード)	コア特講演習・実習（インターンシップ型：60時間）		授業形態	演習・実習	授業科目区分	共通科目 (共通領域)
担当教員名	金高 宏文・研究科教務委員会				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	2-3
授業の概要 及び達成目標	本演習・実習は、修士課程の学生を対象とし、「国民のニーズに応じた適切なスポーツ指導指導やプログラム開発及びマネジメント、トップアスリートに対する科学的なトレーニング指導やメニュー開発ができる能力を備えた高度専門職業人として中核的な役割を担う人材を養成する」ために、大学内で身につけた知識や指導・研究スキルを活用し、大学外で実際に指導、研究、実務の実習を行うものである。産業界（研究機構を含む）と連携するものは「インターンシップ型」の実習では、大学外で実際に研究・開発機関等で研究・開発補助や研究・開発支援を行う。研究・開発機関での研究・開発補助や研究・開発支援の実習を通して、研究・開発機関等のニーズに対応した、研究・開発等を行えることを目標とする。 本演習・実習は、事前・事後学修と大学外の集中的な実習先での活動が中心になる。修得できる単位は最大4単位とし、その場合の実習は90時間以上とする。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（％） ☒ 授業（演習・実習）への取り組み状況（60％） ☒ レポート等の提出状況（40％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	・事前学習、大学と実習先との往還で行う演習活動、実習活動、事後活動を総合的に判断して評価する。 ・実習先での実習者の資質・能力も評価も加える。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜、提示する。					
履修条件・ 関連科目	インターンシップ型の演習・実習する研究・開発機関等で求められる資質・能力の要件があると研究指導教員が認める学生であること。		備考(教員メッセージ含む)	インターンシップ型の演習・実習する受入先は、原則、国内の研究・開発機関等とする。		
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	研究科教務委員会	オリエンテーション コア実習の目的・意義・内容			授業の復習と演習・実習計画等の立案(60分)	
2	〃	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)			事前学修の準備と復習(60分)	
3	〃	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)			事前学修の準備と復習(60分)	
4	〃	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)			事前学修の準備と復習(60分)	
5	〃	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)			事前学修の準備と復習(60分)	
6	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修 ※演習・実習の期間 ・2単位の場合は、実習60コマ（60時間：2週間） ・4単位の場合は、実習90コマ（90時間：3週間）			・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
7	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修			・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
8	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修			・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
9	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修			・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
10	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修			・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
11	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修			・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
12	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修			・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
13	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修			・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
14	〃	インターンシップ型の実習の取組発表			発表の準備(60-120分)	
15	〃	インターンシップ型の実習の取組の振り返り 総括			発表の振り返り(60分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ヘルスサイエンス特講 (221A2-1300)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	中垣内 真樹・安田 修・藤井 康成・廣津 匡隆・モハモド モニルル イスラム・沼尾 成晴				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	運動が健康づくりの一助になるという考え方が支持され、中高齢者においても運動の効用が期待されている。しかし、加齢とともに体力が低下することは明らかであり、効果に個人差が大きいことも知られている。本講義では、中高齢者に対して運動による健康づくり、自立維持の視点から先行研究を総括するとともに至適な運動方法についてその具体的なあり方を考究する。運動による健康づくりに関わる要因について分析できるようになる。また、運動の有用性や限界に対する理解と高齢者を含む長いスパンの中での健康管理のあり方を考えることができるようになる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	学習内容のプレゼンテーションとディスカッションを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて配布する、もしくは指示する。 参考書：「健康華齢のためのスマートライフ」（公益財団法人日本スポーツ協会監修、(株)サンライフ企画、2019年、3080円）					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時 中垣内 研究棟407研究室 沼尾 研究棟406研究室 安田 保健管理センター 藤井 保健管理センター イスラム 研究棟509研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	中垣内 真樹 沼尾 成晴	日本の健康づくり施策、介護予防施策の現状について			文献の予習・復習（1時間）	
2	”	減量に関する運動の効果について			文献の予習・復習（1時間）	
3	”	生活習慣病予防に関する運動の効果について			文献の予習・復習（1時間）	
4	”	中高齢者の身体機能に関する運動の効果について			文献の予習・復習（1時間）	
5	”	中高齢者の認知機能に関する運動の効果について			文献の予習・復習（1時間）	
6	安田 修 藤井 康成 廣津 匡隆	スポーツ・リハビリテーション医学における内科・整形外科の疾患の予防・運動療法			内科・整形外科の疾患の予防・運動療法の予習、復習（1時間）	
7	”	女性・小児・中高年者に対する運動処方方法			女性・小児・中高年者に対する運動処方方法の予習、復習（1時間）	
8	”	腰痛・関節疾患・骨粗鬆症例に対する運動処方方法			腰痛・関節疾患・骨粗鬆症例に対する運動処方方法の予習、復習（1時間）	
9	”	スポーツ傷害後の部位別リハビリテーション（頭部・体幹）			リハビリテーション（頭部・体幹）の予習、復習（1時間）	
10	”	スポーツ傷害後の部位別リハビリテーション（上・下肢）			リハビリテーション（上・下肢）の予習、復習（1時間）	
11	モハモド モニルル イスラム	介護予防のために必要な体力について (Independence in activities of daily living in old age)			左記の予習と配布資料の復習（60分）	
12	”	虚弱な高齢者のための適切な身体運動について (Elderly friendly physical exercises)			左記の予習と配布資料の復習（60分）	
13	”	高齢者における身体運動時の安全性について (Risk management of exercise gerontology)			左記の予習と配布資料の復習（60分）	
14	”	途上国の重要な健康問題について (Major public health issues of developing countries)			左記の予習と配布資料の復習（60分）	
15	”	疫学研究方法に関する基礎知識について (Basics of epidemiological research)			左記の予習と配布資料の復習（60分）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	健康教育学特講 (221A2-1301)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	安田 修				補助担当者名	石神 睦子
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	【講義の概要】健康教育とは、個人と社会環境に影響を及ぼし、健康行動を改善させ、健康とQOLを高める広い意味での戦略である（「健康行動と健康教育—理論、研究、実践」、医学書院、2006年）。本講義では、健康を維持する生理的メカニズムと健康に影響する要因について学ぶ。さらに、健康行動の研究理論として重要な行動理論について学習する。 【達成目標】健康を維持するメカニズムを理解し、個人の健康に影響を与えている要因を分析することができるようになる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記の基準で総合的に評価する。授業への取り組み状況は、自分の考えを簡潔に表現できるかを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	テキストは使用しない。 授業の資料はWebClassに掲載する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)	講義は質問や討論を行いながら進める。	
オフィス・アワー	健康行動学実験室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	安田 修	序論：健康と健康管理、授業の基礎となる学問領域			WebClassによる 予習と復習 1時間	
2	〃	健康を維持するメカニズム1：ホメオスタシス			WebClassによる 予習と復習 1時間	
3	〃	健康を維持するメカニズム2：アロスタシス			WebClassによる 予習と復習 1時間	
4	〃	健康に影響する要因1：ストレス刺激とストレス反応			WebClassによる 予習と復習 1時間	
5	〃	健康に影響する要因2：ストレスとコーピング			WebClassによる 予習と復習 1時間	
6	〃	健康に影響する要因3：生活習慣			WebClassによる 予習と復習 1時間	
7	〃	健康に影響する要因4：パーソナリティ			WebClassによる 予習と復習 1時間	
8	〃	健康行動			WebClassによる 予習と復習 1時間	
9	〃	行動理論			WebClassによる 予習と復習 1時間	
10	〃	行動変容法			WebClassによる 予習と復習 1時間	
11	〃	疾病と予防：心身医学、心身症			WebClassによる 予習と復習 1時間	
12	〃	疾病と予防：心療内科について			WebClassによる 予習と復習 1時間	
13	〃	疾病と予防：スポーツに関連する心身症（摂食障害）			WebClassによる 予習と復習 1時間	
14	〃	疾病と予防：うつ病			WebClassによる 予習と復習 1時間	

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動処方論特講 (221A2-1302)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	藤田 英二				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	肥満の解消、有酸素能力の向上、筋力・持久力・筋パワーの増強、柔軟性の改善を目的とした運動処方について、学会誌に掲載されている論文に基づき、性・年齢・目的に応じた適切な運動処方の内容について考究する。また、授業内容に応じたテーマを各自が設定し、それに関連する先行研究の内容を要旨としてまとめ発表することで、プレゼンテーションおよびディスカッションの能力の向上をめざす。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（ %） ■授業への取り組み状況（40%） ■レポート等の提出状況（60%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み、発表要旨・プレゼンテーションの内容とその「できばえ」、ディスカッションへの参加および質疑応答の的確さ等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	国内外の学会誌等に掲載されている運動処方およびトレーニング科学に関連する論文					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時：まずはメールで相談を（fujita@nifs-k.ac.jp）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	藤田 英二	オリエンテーション				
2	〃	運動処方の原理・原則			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
3	〃	ウェイトコントロール①			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
4	〃	ウェイトコントロール②			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
5	〃	呼吸循環機能の運動処方①			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
6	〃	呼吸循環機能の運動処方②			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
7	〃	筋機能・運動機能の運動処方①			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
8	〃	筋機能・運動機能の運動処方②			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
9	〃	柔軟性の運動処方①			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
10	〃	柔軟性の運動処方②			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
11	〃	バランス能力の運動処方①			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
12	〃	バランス能力の運動処方②			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
13	〃	骨密度と運動処方①			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
14	〃	骨密度と運動処方②			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
15	〃	障害予防を目的とした運動処方			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
16	〃	試験は実施しない				

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学特講 (221A2-1303)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	高井 洋平・山本 正嘉・中本 浩揮・幾留 沙智				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本講義は、トレーニングが身体（身体トレーニング領域）および心理（メンタルトレーニング領域）に及ぼす影響について、領域横断的に知識を習得し、トレーニングの本質および特異性を理解することを目指す。 （身体トレーニング領域）様々なトレーニング理論や考え方を横断的に学ぶことによって、トレーニングの本質や種目の特異性を理解することを目指す。 また、種々のトレーニング理論に関する知識を整理し、それらを合理的に統合できる能力を身に付ける。 （メンタルトレーニング領域）スポーツ心理学の様々な領域の知見に基づいた総合的トレーニングをメンタルトレーニングとして位置づけ、発達、動機づけ、学習、知覚・認知および注意といった心理学独自のテーマから心理的トレーニング理論と方法について理解を深める。					
成績評価の方法	（身体トレーニング領域）授業への取り組み状況、発表の内容と討論への参加状況を総合的に評価する。 （メンタルトレーニング領域）授業への取り組み状況、発表・レポート等の状況を総合的に評価する。					
成績評価の基準	（身体トレーニング領域）上記事項を踏まえて総合的に判断・評価する。 （メンタルトレーニング領域）上記事項を踏まえて総合的に判断・評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	（身体トレーニング領域） 高井：適宜、資料を配布する。 山本：山本正嘉 著「アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学」（市村出版）を参考書として用いる。 （メンタルトレーニング領域）Developing Sport Expertise: research & coaches put theory into practice. D. Farrow, J Baker, & C. MacMahon/Routledge. Sport Psychology: Contemporary themes. D. Lavallee et al. / Palgrave 他					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	（身体トレーニング科学領域）発表はパワーポイントで行うこととする。		
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 (山本：スポーツトレーニング教育研究センター2階・センター長室、yamamoto@nifs-k.ac.jp) (高井：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp) (中本：研究棟7階・707教員研究室、nakamoto@nifs-k.ac.jp) (幾留：研究棟6階・603教員研究室、ikudome@nifs-k.ac.jp)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	山本 正嘉	科学とは何か？ 科学的なトレーニングとは何か？			授業の復習（1時間）	
2	〃	科学的なトレーニングの具体例（その1）			資料等の復習および予習（1時間）	
3	〃	科学的なトレーニングの具体例（その2）			資料等の復習および予習（1時間）	
4	高井 洋平	スポーツ・体育分野に関連するトピックを提供し、そのトピックに肯定派または反対派に分かれて討論をする			各トピックに対する情報を収集しておく（1時間）	
5	〃	例）体育教師・スポーツ指導者は必要か？			関連情報の整理および授業の復習（1時間）	
6	〃	例）発育期のフィジカルトレーニングは必要か？			関連情報の整理および授業の復習（1時間）	
7	〃	例）データを使ったトレーニングは有効か？			関連情報の整理および授業の復習（1時間）	
8	中本 浩揮	スポーツにおける熟達化研究			授業の復習（1時間）	
9	〃	熟達と発達 ―コーチはジュニア期の練習をどのようにデザインするべきか―			授業の復習（1時間）	
10	〃	熟達と知覚① ―主観的知覚と客観情報の乖離―			授業の復習（1時間）	
11	〃	熟達と知覚② ―スポーツ選手の視覚探索ストラテジー―			授業の復習（1時間）	
12	幾留 沙智	自己調整学習を通じたメンタルトレーニング①			授業の復習（1時間）	
13	〃	自己調整学習を通じたメンタルトレーニング②			授業の復習（1時間）	
14	〃	自己調整学習を通じたメンタルトレーニング③			授業の復習（1時間）	
15	〃	自己調整学習を通じたメンタルトレーニング④			授業の復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講 (221A1-1304)	授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	金高 宏文			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	1	受け入れ人数	10
授業の概要 及び達成目標	日本におけるスポーツ等のコーチの現状と課題について理解し、プレーヤーズセンタードコーチングが行える資質・能力を高める。さらに、将来にわたってコーチの資質・能力を高めることや、コーチのコーチ（コーチ・デベロッパー）としての資質・能力を高めるために、コーチング・ケーススタディの行い方を指導者へのインタビュー、そして発表・討論等を通して身につける。				
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％）を総合的に評価する。				
成績評価の基準	毎回の課題の実施と討論への参画・貢献の充実度や積極性（3×15点+加点15点）、プレゼンテーション（20点）及び総括レポート（20点）の充実度が評価尺度となる。				
テキスト、教材 参 考 書	その都度、教員または受講者が準備する、必要とする参考資料は適時紹介、配付する。詳しい資料は「Web-Class」より授業後にダウンロードすること。 参考図書として、「コーチング学への招待（大修館書店、@2,700円）」「指導者のためのスポーツ運動学（大修館書店、@2,100円）」「Reference Book（JSPQ、@4,000円）」「球技のコーチング学（大修館書店、@2,700円）」推薦する。				
履修条件・ 関連科目	現在または将来、スポーツ等の指導を行うことを前提としていること。	備考(教員メッセージ含む)	コーチング・ケーススタディーでは、経験豊かな指導者の「私のコーチング」について受講生達がインタビューし、まとめ、スポーツパフォーマンス研究に投稿できればと考えています。		
オフィス・アワー	金高：月曜日 15:00～16:00(大学院棟3階 教員室4)				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	金高 宏文	オリエンテーション、日本におけるスポーツ等のコーチ養成の現状と課題（1）		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
2	〃	日本におけるスポーツ等のコーチ養成の現状と課題（2）		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
3	〃	スポーツ等のコーチに求められる資質・能力（1）		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
4	〃	スポーツ等のコーチに求められる資質・能力（2）		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
5	〃	スポーツ等のコーチを取り巻く環境における現状と課題（1）		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
6	〃	スポーツ等のコーチを取り巻く環境における現状と課題（2）		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
7	〃	コーチング・ケーススタディの行い方（1）		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
8	〃	コーチング・ケーススタディの行い方（2）		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
9	〃	コーチング・ケーススタディ（1）インタビュー		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
10	〃	コーチング・ケーススタディ（1）発表・討議		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
11	〃	コーチング・ケーススタディ（2）インタビュー		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
12	〃	コーチング・ケーススタディ（2）発表・討議		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
13	〃	コーチング・ケーススタディ（3）インタビュー		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
14	〃	コーチング・ケーススタディ（3）発表・討議		復習と予習：当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備（60分）	
15	〃	授業の振り返りとまとめ		総括レポートの作成（120分）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道指導論特講 (221A11305)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	前阪 茂樹・小澤 雄二				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	我が国の伝統文化として世界に発信されている武道について、歴史・人物・文化・競技等の様々な側面から俯瞰し、武道教育の中心となる柔道と剣道の分野における高度な専門知識・技術・指導の教授研究能力を養うことを目標とする。					
成績評価の方法	前阪担当分50%、小澤担当分50%で評価					
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に評価する。 授業への意欲、プレゼンテーション能力、レポート等により総合的に判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	近代剣道名著大系全集 近代剣道書選集（本の友社） 武道を生きる 随時資料を配布する。					
履修条件・ 関連科目	武道の経験を有し（必須）、研究を志している者			備考(教員メッ セージ含む)	関連行事、関連学会への参加を望む。	
オフィス・アワー	随時 前阪：506研究室 小澤：502研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	前阪 茂樹 小澤 雄二	オリエンテーション				
2	小澤 雄二	柔道論			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
3	〃	柔道の指導方法論			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
4	〃	柔道の心理学			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
5	〃	柔道の技術論			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
6	〃	柔道の体力トレーニング学			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
7	〃	柔道のスポーツ医学			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
8	〃	柔道指導の総括 発表（第2～7講のテーマを総括して…）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
9	前阪 茂樹	歴史／文化について 「剣道史概観」			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
10	〃	思想／哲学について 「殺人刀 活人剣」			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
11	〃	技術体系について 「形と竹刀剣道」			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
12	〃	修行について 「生涯剣道」			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
13	〃	試合について「近代スポーツとの比較」			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
14	〃	指導について 「勝負論と上達論」			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
15	〃	剣道指導の総括 発表（第9～14講のテーマを総括して…）				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツパフォーマンス学特講 (221A1-1306)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	高橋 仁大・前田 明・金高 宏文・山本 正嘉・竹中 健太郎・藤井 雅文・山口 大貴				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツパフォーマンス学とは、スポーツ現場の実践知を記述・説明・予測・操作できるようにし、実践研究論文として学術的に形式知化するための方法論を学ぶ学問である。自身でも実践研究の論文の作成ができるようになるため、当該研究の発表の場である『スポーツパフォーマンス研究』に掲載された過去の論文を購読し、それを題材として実践研究とは何か、またどのように論文をまとめるべきかについて理解を深める。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への積極的な参加態度および各授業者から提出された課題（5題×20点）の達成度から総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	テキスト：『体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方』福永哲夫・山本正嘉編著、市村出版（2018） 参考書：『アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学』山本著（市村出版、2021）、『スポーツパフォーマンス研究』（http://www.sports-performance.jp/）にこれまでに掲載された研究論文					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	随時 事前にアポイントをとること 高橋（研究棟8階809教員研究室） 金高（大学院棟3階 4教員室） 山本（スポーツトレーニング 教育研究センター2階センター長室） 竹中（研究棟5階507教員研究室） 藤井（研究棟8階804教員研究室） 山口（研究棟8階803教員研究室） 前田(明)（研究棟4階405教員研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高橋 仁大	スポーツパフォーマンス学の考え方			講義内容の予習と復習（1時間）	
2	山本 正嘉	スポーツパフォーマンス研究の実例（トレーニング①）			講義内容の予習と復習（1時間）	
3	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（トレーニング②）			講義内容の予習と復習（1時間）	
4	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（その他）			講義内容の予習と復習（1時間）	
5	山口 大貴	スポーツパフォーマンス研究の実例（自転車競技ほか）①			講義内容の予習と復習（1時間）	
6	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（自転車競技ほか）②			講義内容の予習と復習（1時間）	
7	金高 宏文	スポーツパフォーマンス研究の実例（陸上競技）			講義内容の予習と復習（1時間）	
8	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（コツ・カンの分析）			授業の振り返りと発表資料の作成（1時間）	
9	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（その他）			授業の振り返りと発表資料の作成（2時間）	
10	竹中 健太郎	スポーツパフォーマンス研究の実例（剣道）			授業の振り返りとレポートの作成（1時間）	
11	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（武道）			講義内容の予習と復習（1時間）	
12	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（その他）			講義内容の予習と復習（1時間）	
13	藤井 雅文	スポーツパフォーマンス研究の実例（野球ほか）①			講義内容の予習と復習（1時間）	
14	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（野球ほか）②			講義内容の予習と復習（1時間）	
15	高橋 仁大 前田 明	スポーツパフォーマンス研究の実例（その他・まとめ）			講義内容の予習と復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学特講【夜間】	授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	高井 洋平・山本 正嘉			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	身体組成、呼吸循環機能、筋力・持久力・筋パワー、柔軟性の改善を目的としたトレーニングの方法と効果ついて、学会誌に掲載されている論文をトビックスとして扱い、性・年齢・目的に応じた適切なトレーニングの内容について考究する。また、授業内容に応じたテーマを各自が設定し、それに関連する先行研究の内容を要旨としてまとめ発表することで、プレゼンテーションおよびディスカッションの能力の向上をめざす。				
成績評価の方法	□学期末試験の成績（ %） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。				
成績評価の基準	授業への取り組み、発表要旨・プレゼンテーションの内容とその「できばえ」、ディスカッションへの参加および質疑応答の的確さ等を総合的に評価する。				
テキスト、教材 参 考 書	国内外の学会誌等に掲載されているトレーニング科学に関連する論文 山本：山本正嘉 著「アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学」（市村出版）をテキストとして用いる。				
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 (山本：スポーツトレーニング教育研究センター2階・センター長室、yamamoto@nifs-k.ac.jp) (高井：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp)				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)
1	高井 洋平 山本 正嘉	オリエンテーション			資料等の復習および予習（1時間）
2	〃	トレーニングの原理・原則			資料等の復習および予習（1時間）
3	〃	身体組成のトレーニング①			資料等の復習および予習（1時間）
4	〃	身体組成のトレーニング②			資料等の復習および予習（1時間）
5	〃	呼吸循環機能のトレーニング①			資料等の復習および予習（1時間）
6	〃	呼吸循環機能のトレーニング②			資料等の復習および予習（1時間）
7	〃	筋力・筋持久力・筋パワーのトレーニング①			資料等の復習および予習（1時間）
8	〃	筋力・筋持久力・筋パワーのトレーニング②			資料等の復習および予習（1時間）
9	〃	柔軟性のトレーニング①			資料等の復習および予習（1時間）
10	〃	柔軟性のトレーニング②			資料等の復習および予習（1時間）
11	〃	複合トレーニング①			資料等の復習および予習（1時間）
12	〃	複合トレーニング②			資料等の復習および予習（1時間）
13	〃	プレゼンテーション&ディスカッション①			資料等の復習および予習（1時間）
14	〃	プレゼンテーション&ディスカッション②			資料等の復習および予習（1時間）
15	〃	プレゼンテーション&ディスカッション③			資料等の復習および予習（1時間）
16	〃	試験は実施しない			

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特講【夜間】		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	永原 隆・下川 美佳				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	コーチングの概念について理解し、コーチングに必要な知識や理論を身に付ける。また、自身や他者の経験と授業で学んだ知識や理論を関連付け、議論することを通してコーチングの実践を振り返り、理解を深めるとともにコーチング実践能力の向上を図る。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	自らが積極的に目標を作り、自らが考えること、課題を理論的にまとめることを基準にする。その充実度や積極性が評価尺度となる。					
テキスト、教材 参 考 書	その都度、教員または受講生が準備する。必要とする参考資料は随時紹介、配布する。詳しい資料は「WebClass」より授業後にダウンロードすること。 参考図書として「Reference Book(日本印刷株式会社、@4,000円)」					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	指導者に相応しい幅広い知識の習得を心掛けること。		
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 永原：随時 大学院棟3階 教員室1 下川：随時 研究棟 5F 505教員研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	永原 隆 下川 美佳	オリエンテーション				
2	〃	コーチングとは			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
3	〃	コーチの役割と求められる知識およびスキル			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
4	〃	コーチングにおける対他者力と対自己力			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
5	〃	スポーツの意義と価値			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
6	〃	コーチや選手をとりまく環境と問題			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
7	〃	スポーツ指導者の法的責任とスポーツ倫理			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
8	〃	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
9	〃	各種トレーニング			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
10	〃	スポーツと栄養			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
11	〃	スポーツに関する医学的知識			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
12	〃	アンチ・ドーピング			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
13	〃	コーチング環境の特徴			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
14	〃	スポーツ組織のマネジメント			授業の振り返りと総括レポートの準備(60分)	
15	〃	補足とまとめ			授業の振り返りと総括レポートの作成(120分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ史・運動文化論特講 (222A3-1300)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	山田 理恵・中村 勇				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本講義では、スポーツ史研究の方法を修得するとともに、近接分野であるスポーツ文化人類学的研究の方法および研究成果も援用しながら、伝統スポーツをテーマにスポーツ文化の展開について考察し、現代の体育・スポーツに関する諸問題を検討する。 これにより、スポーツの歴史学的研究、運動文化論研究の理論と方法および専門的知識を身につけることができる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70%） ■レポート等の提出状況（30%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	課題の成績、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書は適宜紹介する。また必要に応じて資料を配付する。					
履修条件・ 関連科目	「スポーツ史・運動文化論特講演習」と併せて受講することが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	山田：随時（705研究室） 中村：随時（503研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	山田 理恵	スポーツ史研究の目的と意義			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
2	〃	スポーツ史研究の対象			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
3	〃	先行研究と問題意識			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
4	〃	スポーツ史研究と史料			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
5	〃	日本体育・スポーツ史研究①			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
6	〃	日本体育・スポーツ史研究②			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
7	中村 勇	日本体育・スポーツ史研究③			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
8	山田 理恵	外国体育・スポーツ史研究			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
9	〃	スポーツ文化人類学的研究法の援用①			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
10	〃	スポーツ文化人類学的研究法の援用②			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
11	〃	日本の伝統スポーツの展開			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
12	〃	日本の伝統スポーツの現代的意義と課題			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
13	中村 勇	日本の伝統武道の変遷			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
14	〃	日本の伝統武道の国際化と課題			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
15	山田 理恵	総括：体育・スポーツと現代			参考書・資料等の予習および復習、まとめ（40分以上）	
16	〃	学期末試験は行わない。				

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道論特講 (222A1-1301)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	前阪 茂樹				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	武道が世界に誇る日本文化として成立した過程やその発展について概観するとともに近世に記された武道伝書の内容に触れ、武道の固有性について、その構造を考究し、専門的知識を得ることを目標とする。					
成績評価の方法	■授業への取り組み状況 (80%) ■レポート等の提出状況 (20%)					
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に判断、評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	事前に読んでおく参考書、文献： 今村嘉雄 編集『日本武道大系』（同朋舎） その他適宜資料等を配布する。					
履修条件・ 関連科目	武道の経験を有する者が望ましい			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時：506研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	前阪 茂樹	ガイダンス、授業の進め方				
2	”	日本武道史の概説（原始～古代）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
3	”	日本武道史の概説（中世）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
4	”	日本武道史の概説（近世）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
5	”	日本武道史の概説（近代～現代）			次回発表資料の作成（約3時間）	
6	”	発表「武道の歴史を俯瞰する」				
7	”	武道伝書に触れる1（五輪書）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
8	”	武道伝書に触れる1（五輪書）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
9	”	武道伝書に触れる1（五輪書）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
10	”	武道伝書に触れる2（不動智神妙録）			授業内容の復習と予習	
11	”	武道伝書に触れる2（不動智神妙録）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
12	”	武道伝書に触れる2（不動智神妙録）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
13	”	武道伝書に触れる3（兵法家伝書）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
14	”	武道伝書に触れる3（兵法家伝書）			本講義の振り返りと次回への準備（約1時間）	
15	”	武道伝書に触れる3（兵法家伝書）			本講義の振り返り（約30分）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ法・倫理特講 (222A3-1302)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	森 克己				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1年次	受け入れ人数	5名程度
授業の概要 及び達成目標	スポーツ法学及びスポーツ倫理に関する研究の意義と課題を概観するとともに、スポーツ法学及びスポーツ倫理に関する国内外の重要文献・資料を購読することにより、スポーツ選手の人権問題などスポーツの分野における法学及びスポーツ倫理に関する研究の重要課題についての知識・考え方を修得する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（20％） ■レポート等の提出状況（80％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	毎回の授業時に課されるレポートへの取り組み状況、授業への取組状況を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	テキスト：森克己ほか著『標準テキスト・スポーツ法学』（エイデル研究所） 参考書：小笠原正・諏訪伸夫監修、森克己ほか著『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい）『憲法と教育人権』（日本評論社）、『スポーツ法学入門』（体育施設出版）					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時（508研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 克己	オリエンテーション：学習の目的、内容、方法、評価のしかた			履修要項の予習（30分以上）	
2	〃	スポーツ法学及びスポーツの倫理に関する研究の意義（総論）			テキスト・参考書の予習・復習（30分以上）	
3	〃	スポーツ法学の体系・法源①			参考書・資料等の予習・復習（30分以上）	
4	〃	スポーツ法学の体系・法源②			参考書・資料等の予習・復習（30分以上）	
5	〃	スポーツ基本法の概要			参考書・資料等の予習・復習（30分以上）	
6	〃	スポーツの権利性			参考書・資料等の予習・復習（30分以上）	
7	〃	スポーツ団体と競技者の法的諸問題（総論）			参考書・資料等の予習・復習（30分以上）	
8	〃	スポーツ選手の人権問題とスポーツ仲裁制度			参考書・資料等の予習・復習（30分以上）	
9	〃	スポーツにおけるチャイルド・プロテクション①			参考書・資料等の予習・復習（30分以上）	
10	〃	スポーツにおけるチャイルド・プロテクション②			参考書・資料等の予習・復習（30分以上）	
11	〃	スポーツにおけるアスリート保護の国際的取組の現状と課題①			参考書・資料等の予習・復習（30分以上）	
12	〃	スポーツにおけるアスリート保護の国際的取組の現状と課題②			資料等の予習・復習（30分以上）	
13	〃	ドーピング問題の現状と課題			資料等の予習・復習（30分以上）	
14	〃	スポーツ選手の肖像権・パブリシティ権保障の現状と課題①			資料等の予習・復習（30分以上）	
15	〃	スポーツ選手の肖像権・パブリシティ権保障の現状と課題②			資料等の予習・復習（30分以上）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ学特講 (222A3-1303)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	前田 博子・北村 尚浩				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	生涯スポーツについてその概念、研究内容、現状分析、国際的動向及び研究課題を総合的に考究する。具体的には、生涯スポーツに関することについての講義、文献検索（英語も含む）、研究講義を行い、今後の生涯スポーツや健康づくり政策の在り方についての基本的な知識を学ぶ。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出及び授業への取り組みを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	授業配布の各種資料					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	前田：研究棟6階 606研究室（予約制） 北村：研究棟6階 610研究室（予約制）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	前田 博子 北村 尚浩	生涯スポーツの基本概念			シラバスによる予習（1時間）講義内容の復習（1時間）	
2	〃	生涯スポーツ政策と生涯スポーツムーブメント			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
3	〃	諸外国の生涯スポーツ政策			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
4	〃	生涯スポーツ学研究の方法Ⅰ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
5	〃	生涯スポーツ学研究の方法Ⅱ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
6	〃	総合型地域スポーツクラブ政策			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
7	〃	コミュニティ・スポーツクラブのマネジメント			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
8	〃	健康づくりにおける生涯スポーツの役割（縦断的研究に関する論文から）			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
9	〃	健康づくり政策の現状と課題（健康づくりのための運動指針2006）			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
10	〃	ライフステージから見た生涯スポーツのあり方について			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
11	〃	スポーツ（運動）の習慣化のための行動変容技法について			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
12	〃	スポーツ（運動）の習慣化のための教材（ツール）の開発について			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
13	〃	障害者と生涯スポーツ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
14	〃	高齢者と生涯スポーツ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
15	〃	まとめ・定期レポート作成			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
16	〃	まとめ・定期レポート作成			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	野外教育論特講 (222A3-1304)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	坂口 俊哉				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	野外教育研究やレジャー・レクリエーション研究の分野で扱われてきた研究トピックについて紹介する。 それぞれのトピックが、野外教育の場でどのような重要性を持っているのか。 また、研究目的と研究方法はマッチしているのか。批判的な立場から、国内外のジャーナルを中心に、先行研究のレビューを行っていく。最終的には野外教育の実践例を評価する作業を行う。					
成績評価の方法	■ 最終プレゼンテーション (20%) ■ 授業への取り組み状況 (40%) ■ レポート等の提出状況 (40%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業での発表内容、配布資料の作成内容などについて総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じてプリントを配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時、事前にメールでアポイントを取ることをお勧めします。 E-mail:tsakaguc@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	坂口 俊哉	ガイダンス			野外教育関連雑誌のタイトルを確認。リストを作成して提出。(60分)	
2	〃	野外教育関連ジャーナルと論文			指定されたキーワードで検索しヒットした海外の研究論文をコピーしておくこと。アブストラクトの日本語化。(60分)	
3	〃	野外教育研究に関する文献抄読①			担当者発表①準備(120分)	
4	〃	野外教育研究に関する文献抄読②			担当者発表②準備(120分)	
5	〃	野外教育研究に関する文献抄読③			担当者発表③準備(120分)	
6	〃	野外教育研究に関する文献抄読④			担当者発表④準備(120分)	
7	〃	野外教育研究に関する文献抄読⑤			担当者発表⑤準備(120分)	
8	〃	野外教育研究の目的と方法①			野外教育の周辺領域において行われてきた先行研究の目的と方法についてまとめる(60分)	
9	〃	野外教育研究の目的と方法②			野外教育の周辺領域において行われてきた先行研究の目的と方法についてまとめる(60分)	
10	〃	野外教育研究の目的と方法③			野外教育の周辺領域において行われてきた先行研究の目的と方法についてまとめる(60分)	
11	〃	野外教育の企画と実践①			組織キャンプの実施例に関して情報を収集し企画内容を整理する。(60分)	
12	〃	野外教育の企画と実践②			組織キャンプの実施例に関して情報を収集し企画内容を整理する。(60分)	
13	〃	野外教育の企画と実践③			組織キャンプの実施例に関して情報を収集し企画内容を整理する。(60分)	
14	〃	野外教育の企画と実践④			アイスブレイク・プログラムの企画をまとめる(60分)	
15	〃	野外教育の企画と実践⑤			アイスブレイク・プログラムの評価基準をまとめる(60分)	
16	〃	実践例の評価レポートとプレゼンテーション			プレゼンテーションの準備(60分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ社会学特講 (222A3-1305)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	北村 尚浩				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	体育・スポーツの現状と課題について、社会学的視点から考察する。スポーツと個人、社会の関係をこれまでの社会学的研究動向を概観し、その理論的立場から、批判的かつ実証的にその現象を記述、説明、分析しながら課題と展望について考究する。社会学的研究論文の国内外の研究成果と動向を習得する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出及び授業への取り組みを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	池田勝、守能信次、川西正志他著 「講座スポーツの社会科学シリーズスポーツ社会学」 授業時配布の資料					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	北村：研究棟6階 610研究室（予約制）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	北村 尚浩	スポーツ社会学とは			文献抄読（1時間）	
2	〃	社会学的研究法－問題意識と理論的枠組み			文献抄読（1時間）	
3	〃	社会学的研究法－ケーススタディーと社会調査			文献抄読（1時間）	
4	〃	スポーツへの社会化			文献抄読（1時間）	
5	〃	スポーツ・プレイ・ゲーム論			文献抄読（1時間）	
6	〃	遊びの社会文化的側面			文献抄読（1時間）	
7	〃	スポーツの国際比較－指導者資格			文献抄読（1時間）	
8	〃	スポーツの国際比較－スポーツ政策			文献抄読（1時間）	
9	〃	スポーツの国際比較－スポーツ集団			文献抄読（1時間）	
10	〃	身体活動と加齢の社会学－社会学的問題意識と背景			文献抄読（1時間）	
11	〃	身体活動と加齢の社会学－研究動向			文献抄読（1時間）	
12	〃	スポーツレジャー行動とライフスタイル研究			文献抄読（1時間）	
13	〃	スポーツレジャー行動とQOL研究			文献抄読（1時間）	
14	〃	スポーツ社会学研究の課題と展望			文献抄読（1時間）	
15	〃	プレゼンテーション			発表準備（1時間以上）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コミュニティ・スポーツ論特講 (222A3-1306)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	前田 博子				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	現代社会においてスポーツは市民生活に広く取り入れられている。それらの実態をさまざまな文献およびデータから理解し、またコミュニティ政策、スポーツ政策との関連からその背景を学ぶ。 授業では学んだ知識や理論をまとめ、言葉や文章で説明することを求める。そして、これまでの自らの経験や、収集した情報を、知識や理論を用いて、その意味を再定義できるようになる能力を身につけることを目指す。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70%） ■レポート等の提出状況（30%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業に出席し、教材を積極的に読みこなし、発言をすること、その態度と内容で評価する（出席状況）。予習・復習にあたる課題の準備と提出の状況、できばえを評価する（授業への取り組み）。課題レポートにおいて文献等の扱い、論旨、表現方法等から出来栄を評価する（レポート等）。					
テキスト、教材 参 考 書	文献、教材は適宜指定もしくは配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時（606研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	前田 博子	授業の概要、コミュニティ・スポーツ論とは			シラバスによる予習（1時間）講義内容の復習（1時間）	
2	〃	コミュニティ政策 地方自治の方向性			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
3	〃	コミュニティ・スポーツの実態			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
4	〃	政策立案の背景			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
5	〃	コミュニティ・スポーツ政策の概要			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
6	〃	コミュニティ・スポーツの現代的課題			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
7	〃	パブリックコメントとは スポーツに関わる動向			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
8	〃	コミュニティの概念			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
9	〃	コミュニティ意識			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
10	〃	コミュニティ組織の動向			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
11	〃	スポーツの公共性			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
12	〃	コミュニティ・スポーツ施設			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
13	〃	コミュニティ・ビジネス			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
14	〃	コミュニティにおけるスポーツの意義			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
15	〃	まとめ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツマネジメント論特講 (222A3-1307)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	隅野 美砂輝・関 朋昭				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本講義では、現代のスポーツについて、マネジメントの視点から捉えることを目的とする。さらに今後のスポーツマネジメントにおける展望を考察する。授業を通して、スポーツに関する価値や効用と実際のビジネスや産業に関する知識を理解する。					
成績評価の方法	□授業への取り組み状況（70%） □レポート等の提出状況（30%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記評価の他、授業時間内の課題発表なども入れて総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	その都度指示する。					
履修条件・ 関連科目			備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	関：604教員室、隅野：501教員室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	隅野 美砂輝 関 朋昭	オリエンテーション			予習1時間＋復習1時間	
2	隅野 美砂輝	スポーツマネジメントとスポーツマーケティング1			予習1時間＋復習1時間	
3	〃	スポーツマネジメントとスポーツマーケティング2			予習1時間＋復習1時間	
4	〃	スポーツマーケティングの基礎			予習1時間＋復習1時間	
5	〃	スポーツスポンサーシップ1			予習1時間＋復習1時間	
6	〃	スポーツスポンサーシップ2			予習1時間＋復習1時間	
7	〃	スポーツマーケティング（環境分析）			予習1時間＋復習1時間	
8	〃	スポーツマーケティング（マーケティングミックス）			予習1時間＋復習1時間	
9	関 朋昭	経営学と経済学			予習1時間＋復習1時間	
10	〃	スポーツと組織理論			予習1時間＋復習1時間	
11	〃	スポーツと経営理論			予習1時間＋復習1時間	
12	〃	スポーツマネジメントと哲学（概念と定義）			予習1時間＋復習1時間	
13	〃	スポーツマネジメントと倫理（勝利至上主義）			予習1時間＋復習1時間	
14	〃	スポーツマネジメントと功利主義（価値論）			予習1時間＋復習1時間	
15	〃	まとめ			予習1時間＋復習1時間	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ史・運動文化論特講【夜間】		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	山田 理恵・森 克己・真田 久				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	ここで対象とするスポーツは、イギリスやアメリカなどで生まれて世界に広まったいわゆる近代スポーツのみではなく、特定の民族や地域に限定された民族スポーツ（伝統スポーツ）も含むものであり、それらの文化的意味を学習することで、国際スポーツを相対化していく。 近代スポーツ、国際スポーツ以外に、地域や民族に限定して行われる多くのスポーツ文化が存在することを歴史人類学の方法により学習する。また、日本のスポーツ文化の形成に貢献した嘉納治五郎の功績についても学習する。 それらによって、スポーツの歴史人類学的研究の理論および専門的知識を身につけることができる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70%） ■レポート等の提出状況（30%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	随時課す課題および発表の成績、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書：真田久『19世紀のオリンピック競技祭』（明和出版、2011年） その他参考書は適宜紹介する。必要に応じて資料を配布する。					
履修条件・ 関連科目	「スポーツ史・運動文化論特講演習【夜間】」と併せて履修することが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	真田：山田を通して調整 山田：随時（705研究室） 森：随時（506研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	山田 理恵 真田 久	スポーツ歴史人類学におけるスポーツとその研究視角			参考書・資料等の復習および予習	
2	真田 久	儀礼とスポーツ			参考書・資料等の復習および予習	
3	〃	オリンピック競技祭とエケケイリア			参考書・資料等の復習および予習	
4	〃	聖火リレーの歴史人類学			参考書・資料等の復習および予習	
5	〃	ネメア祭の復興			参考書・資料等の復習および予習	
6	山田 理恵 真田 久	オリンピック競技の復興			参考書・資料等の復習および予習	
7	真田 久	嘉納治五郎と柔道、学校体育			参考書・資料等の復習および予習	
8	〃	嘉納治五郎と国民スポーツ			参考書・資料等の復習および予習	
9	〃	嘉納治五郎とオリンピック			参考書・資料等の復習および予習	
10	森 克己	スポーツの法とアスリート			参考書・資料等の復習および予習	
11	〃	日本におけるスポーツの法と倫理			参考書・資料等の復習および予習	
12	〃	イギリスにおけるスポーツの法と倫理			参考書・資料等の復習および予習	
13	山田 理恵	日本の伝統スポーツ			参考書・資料等の復習および予習	
14	〃	鹿児島島の伝統スポーツ			参考書・資料等の復習および予習	
15	〃	戦争とスポーツ			参考書・資料等の復習および予習	
16	〃	学期末試験は行わない。				

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ学特講【夜間】		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	前田 博子・北村 尚浩・宮地 元彦				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	生涯スポーツについてその概念、研究内容、現状分析、国際的動向及び研究課題を総合的に考究する。具体的には、生涯スポーツに関することについての講義、文献検索（英語も含む）、研究講義を行い、今後の生涯スポーツや健康づくり政策の在り方についての基本的な知識を学ぶ。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出及び授業への取り組みを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	授業配布の各種資料					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	前田：研究棟6階 606研究室（予約制） 北村：研究棟6階 610研究室（予約制）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	前田 博子 北村 尚浩	生涯スポーツの基本概念			シラバスによる予習（1時間）講義内容の復習（1時間）	
2	〃	生涯スポーツ政策と生涯スポーツムーブメント			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
3	〃	諸外国の生涯スポーツ政策			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
4	〃	生涯スポーツ学研究の方法Ⅰ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
5	〃	生涯スポーツ学研究の方法Ⅱ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
6	〃	総合型地域スポーツクラブ政策			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
7	〃	コミュニティ・スポーツクラブのマネジメント			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
8	〃	健康づくりにおける生涯スポーツの役割（縦断的研究に関する論文から）			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
9	〃	健康づくり政策の現状と課題（健康づくりのための運動指針2006）			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
10	〃	ライフステージから見た生涯スポーツのあり方について			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
11	〃	スポーツ（運動）の習慣化のための行動変容技法について			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
12	〃	スポーツ（運動）の習慣化のための教材（ツール）の開発について			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
13	〃	障害者と生涯スポーツ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
14	〃	高齢者と生涯スポーツ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
15	〃	まとめ・定期レポート作成			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
16	〃	まとめ・定期レポート作成			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ社会学特講【夜間】		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	北村 尚浩				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	体育・スポーツの現状と課題について、社会学的視点から考察する。スポーツと個人、社会の関係をこれまでの社会学的研究動向を概観し、その理論的立場から、批判的かつ実証的にその現象を記述、説明、分析しながら課題と展望について考究する。社会学的研究論文の国内外の研究成果と動向を習得する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出及び授業への取り組みを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	池田勝、守能信次、川西正志他著 「講座スポーツの社会科学シリーズスポーツ社会学」 授業時配布の資料					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	北村：研究棟6階 610研究室（予約制）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	北村 尚浩	スポーツ社会学とは			文献抄読（1時間）	
2	〃	社会学的研究法－問題意識と理論的枠組み			文献抄読（1時間）	
3	〃	社会学的研究法－ケーススタディーと社会調査			文献抄読（1時間）	
4	〃	スポーツへの社会化			文献抄読（1時間）	
5	〃	スポーツ・プレイ・ゲーム論			文献抄読（1時間）	
6	〃	遊びの社会文化的側面			文献抄読（1時間）	
7	〃	スポーツの国際比較－指導者資格			文献抄読（1時間）	
8	〃	スポーツの国際比較－スポーツ政策			文献抄読（1時間）	
9	〃	スポーツの国際比較－スポーツ集団			文献抄読（1時間）	
10	〃	身体活動と加齢の社会学－社会学的問題意識と背景			文献抄読（1時間）	
11	〃	身体活動と加齢の社会学－研究動向			文献抄読（1時間）	
12	〃	スポーツレジャー行動とライフスタイル研究			文献抄読（1時間）	
13	〃	スポーツレジャー行動とQOL研究			文献抄読（1時間）	
14	〃	スポーツ社会学研究の課題と展望			文献抄読（1時間）	
15	〃	プレゼンテーション			発表準備（1時間以上）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツマネジメント論特講【夜間】		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	関 朋昭・隅野 美砂輝				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	本講義では、現代のスポーツについて、マネジメントの視点から捉えることを目的とする。さらに今後のスポーツマネジメントにおける展望を考察する。授業を通して、スポーツに関する価値や効用と実際のビジネスや産業に関する知識を理解する。					
成績評価の方法	☐ 授業への取り組み状況（ 70%） ☐ レポート等の提出状況（ 30%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記評価の他、授業時間内の課題発表なども入れて総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	その都度指示する。					
履修条件・ 関連科目			備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	関：604教員室、隅野：501教員室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	隅野 美砂輝	オリエンテーション			予習1時間＋復習1時間	
2	〃	スポーツマネジメントとスポーツマーケティング1			予習1時間＋復習1時間	
3	〃	スポーツマネジメントとスポーツマーケティング2			予習1時間＋復習1時間	
4	〃	スポーツマーケティングの基礎			予習1時間＋復習1時間	
5	〃	スポーツスポンサーシップ1			予習1時間＋復習1時間	
6	〃	スポーツスポンサーシップ2			予習1時間＋復習1時間	
7	〃	スポーツマーケティング（環境分析）			予習1時間＋復習1時間	
8	〃	スポーツマーケティング（マーケティングミックス）			予習1時間＋復習1時間	
9	関 朋昭	経営学と経済学			予習1時間＋復習1時間	
10	〃	スポーツと組織理論			予習1時間＋復習1時間	
11	〃	スポーツと経営理論			予習1時間＋復習1時間	
12	〃	スポーツマネジメントと哲学（概念と定義）			予習1時間＋復習1時間	
13	〃	スポーツマネジメントと倫理（勝利至上主義）			予習1時間＋復習1時間	
14	〃	スポーツマネジメントと功利主義（価値論）			予習1時間＋復習1時間	
15	〃	まとめ			予習1時間＋復習1時間	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ心理学特講 (223A1-1300)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	森 司朗				補助担当者名	亀井 誠生
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツの指導者として必要な心理学的知識を獲得するために、「スポーツ参加とライフスキル」、「身体活動・運動と健康」、「運動の学習と運動制御」、「競技力向上と心理的サポート」について、包括的に検討していく。授業に関しては演習形式で行なう。 本特講の達成目標は、スポーツ心理学に関して包括的な知識を獲得することにある。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（20%） ■レポート等の提出状況（80%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	スポーツ心理学の各分野での基本的な考え方の理解程度に関して、プレゼンテーション及び質疑で評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	最新 スポーツ心理学—その軌跡と展望（日本スポーツ心理学会編）					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時：7 0 2 研究室、体育心理学実験室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗	オリエンテーション：心理学の研究とは				
2	〃	スポーツ参加とライフスキル (1)			授業の予習と復習（1時間）	
3	〃	スポーツ参加とライフスキル (2)			授業の予習と復習（1時間）	
4	〃	スポーツ参加とライフスキル (3)			授業の予習と復習（1時間）	
5	〃	スポーツ参加とライフスキル (4)			レポート（1時間）	
6	〃	身体活動・運動と健康(1)			授業の予習と復習（1時間）	
7	〃	身体活動・運動と健康(2)			授業の予習と復習（1時間）	
8	〃	身体活動・運動と健康(3)			レポート（1時間）	
9	〃	運動の学習と制御(1)			授業の予習と復習（1時間）	
10	〃	運動の学習と制御(2)			授業の予習と復習（1時間）	
11	〃	運動の学習と制御(3)			レポート（1時間）	
12	〃	競技力向上と心理的サポート(1)			授業の予習と復習（1時間）	
13	〃	競技力向上と心理的サポート(2)			授業の予習と復習（1時間）	
14	〃	競技力向上と心理的サポート(3)			授業の予習と復習（1時間）	
15	〃	競技力向上と心理的サポート（4）			レポート（1時間）	
16	〃	レポート提出				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ医科学特講 (223A2-1301)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	安田 修・廣津 匡隆				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	スポーツが心臓に及ぼす影響を理解するために必要な心電図、心エコー図の基礎と応用を講義する。（対話・討論型）					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（80％） ■レポート等の提出状況（20％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記を合計して判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	心電図を学ぶ人のために、心電図のＡＢＣ，心エコー図のＡＢＣ					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	10時～11時30分 保健管理センター					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	安田 修 廣津 匡隆	心電図を学ぶための心臓の解剖と生理・心臓の電気的活動 正常心電図：心電図波形の名称と意義・正常波形・正常値 心臓電気軸と臨床的意義：軸偏位の定め方			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
2	〃	左胸心および心房負荷：心房負荷心電図の名称と分類 心室肥大心電図：左室肥大・右室肥大・両室肥大 脚ブロック：脚ブロックの分類 右脚ブロック・左脚ブロック			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
3	〃	冠不全、心筋虚血の心電図：ＳＴ、Ｔ波の異常・運動負荷心電図など 心筋梗塞の特徴的心電図所見：異常Ｑ波・ＳＴ上昇・冠性丁波			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
4	〃	電解質異常：カリウムと心電図・カルシウムと心電図			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
5	〃	不整脈：不整脈の分類・正常洞調律および洞リズムの異常 洞不全症候群および上室性期外収縮			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
6	〃	心室性期外収縮：成因・臨床的意義・心電図所見 発作性上室頻拍・心房細動・心房粗動・心室頻拍・心室細動			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
7	〃	房室ブロック：分類と心電図所見 心室早期興奮症候群：概念・心電図所見・WPW・LGL			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
8	〃	スポーツマンによく見られる心電図所見			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
9	〃	特殊心電図：ホルター心電図法・ベクトル心電図・ヒス束電位図法・ 体表面電位図			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
10	〃	ビデオによる心電図の総復習			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
11	〃	心エコー図の基礎（原理・装置）Mモード法，断層法，ドプラー法			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
12	〃	心機能評価；ドプラー法による心拍出量測定など			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
13	〃	頸動脈などの血管エコー心機能評価；ドプラー法による心拍出量測定など			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
14	〃	上腕動脈の内皮機能検査			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
15	〃	ビデオによる心エコー図の総復習			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ生理学特講 (223A2-1302)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	堀内 雅弘				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	身体の生理機能は、内外部からの刺激に対してすばやく応答する動物性機能（感覚系、筋運動系、これらを制御する中枢神経機能系）と、それ以外の生命維持に必須な基本的条件を維持する植物性機能（自律神経系、循環系、呼吸系、消化系、内分泌系等）に大別できる。一過性の身体活動やトレーニング、あるいは低圧、高・低温、水中（無重力）などの特殊環境に曝露されると、安静時の生体内の恒常性は破綻をきたす。しかしながら、これらの生体諸機能は、瞬時のうちに、あるいは長時間にわたって合目的に亢進、抑制されることによって、生体内が状況に対してバランス良く応答・適応する。本講義では、運動・トレーニング、特殊環境曝露に対する生理学的諸機能の制御とそのメカニズム、エネルギー代謝特性、および生体の恒常性維持、身体動作制御に関連した脳・神経系の機能について概説する。これによって、体育学研究科の学生として、スポーツ生理学の中でも、動物性機能、植物性機能、各々の領域における最低限の知識を習得することが期待できる。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（％） ☒ 授業への取り組み状況（60％） ☒ レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	一過性の運動、および継続的なトレーニングに対する動物性機能、植物性機能からみた生体適応について、最低限基礎レベルは理解していること、さらに専門分野においては研究レベルで理解していることを評価の基準とし、授業での発表態度・内容、レポートなどから総合的に評価する。 尚、スポーツ生理学、トレーニング科学など関連学会で発表する、あるいは学術誌へ投稿した論文が受諾掲載された場合は、上記のレベルにあるとみなす。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書 運動生理学の基礎と発展（春日規克・竹倉宏明編著、フリースペース、2300円） 運動生理学概論（浅野勝巳編著、杏林書院、2800円） 新運動生理学上・下巻（宮村実晴編、真興交易（株）医書出版部、各13000円） パワーズ運動生理学（内藤久ら日本語監修、メディカル・サイエンスインターナショナル、10000円） その他随時紹介					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)	スポーツ生理学特講演習と合わせて履修することが望ましい	
オフィス・アワー	あらかじめ連絡をしてもらえれば随時対応。 研究棟3階 303研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	堀内 雅弘	オリエンテーション（スポーツ生理学概論）			配付資料をもとに、次週の予習（1時間）	
2	〃	スポーツ活動とエネルギー供給系の関係			各エネルギー供給系の特徴とスポーツ活動との関連について復習する（1時間）	
3	〃	スポーツ活動時のエネルギー供給動態（1） 持続的運動			持続的運動の運動持続時間と代謝特性の関係について復習する（1時間）	
4	〃	スポーツ活動時のエネルギー供給動態（2） 間欠的運動			間欠的運動の運動持続時間と代謝特性の関係について復習すると同時に、スポーツ活動時のエネルギー供給動態についてレポートをまとめる（3時間）	
5	〃	運動トレーニングの効果（1） 呼吸循環系応答の変化			運動トレーニングに対する呼吸循環器の形態的・機能的適応について復習する（1時間）	
6	〃	運動トレーニングの効果（2） 筋線維タイプの変化			運動トレーニングに対する骨格筋の形態的・代謝的適応について復習する（1時間）	
7	〃	運動トレーニングの効果（3） 筋疲労の改善			運動トレーニングに対する筋疲労遅延のメカニズムについて復習する（1時間）	
8	〃	運動トレーニングの効果（4） トレーニング強度の影響			運動トレーニングに対する運動強度の影響（誘発適応の変化）について復習する。	
9	〃	運動トレーニングの効果（5） 効果の特異性			運動トレーニング・脱トレーニングに対する効果の持続性について復習すると同時に、運動トレーニングの効果についてレポートをまとめる（3時間）	
10	〃	特殊環境下でのスポーツ活動に対する身体応答（1） 暑熱環境			暑熱環境が生理的応答に及ぼす影響について復習する（1時間）	
11	〃	特殊環境下でのスポーツ活動に対する身体応答（2） 寒冷環境			寒冷環境が生理的応答に及ぼす影響について復習する（1時間）	
12	〃	特殊環境下でのスポーツ活動に対する身体応答（3） 低酸素環境1			低酸素環境が運動時エネルギー供給動態について復習する（1時間）	
13	〃	特殊環境下でのスポーツ活動に対する身体応答（4） 低酸素環境2			低酸素環境下での高強度運動トレーニングの効果について復習する（1時間）	
14	〃	特殊環境下でのスポーツ活動に対する身体応答（4） 低酸素環境3			低酸素環境下での運動が認知機能等に及ぼす影響について復習する（1時間）	
15	〃	エネルギー供給能力向上を目指した最新トレーニング情報			授業全体を通じて学んだことを参考に、自ら実験をデザインしてみる（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体科学論特講 (223A2-1303)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	田巻 弘之・與谷 謙吾				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	本科目では、からだの動きに関する生理や運動刺激による生体応答メカニズムに関する基礎的知識を備えるため、運動器（骨格筋、骨、神経）や関節を中心に、運動（機械的）刺激や不動による生体反応の原理を学ぶ。なぜ、どのように、からだが強くなり、または萎縮し、痛くなるのかなど、科学的根拠を得る。本授業では、典型的な病理写真や表、グラフをみながら、読み取れる情報や傾向について学生間で意見するアクティブなプロセスを通して、組織細胞の微細構造の変化がその機能変化に重大な影響を及ぼすことを理解することができる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（ ％） ■授業への取り組み状況（70％） ■プレゼンテーション/レポート等の発表状況（30％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	担当する発表の内容、質疑応答状況、課題等の提出により点数を加算して総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	（参考書）1) 神経科学, 加藤宏司監訳, 西村書店、ISBN:978-4890133567, 2) 関節可動域制限一病態の理解と治療の考え方, 沖田実編集, 三輪書店, 2013, ISBN:978-4895904353, 3) Skeletal muscle damage and repair, Tiidus, PM編集, Human Kinetics, (2008), ISBN:978-0736058674, 4) 「筋の科学事典一構造・機能・運動」（福永哲夫 編集、朝倉書店）, 5) 「計測法入門一計り方, 計る意味」（内山靖、小林武、間瀬教史 編集、協同医書出版社）, 6) 「これから論文を書く若者のために大改訂増補版」（酒井聡樹 著、共立出版）, 7) 「入門 運動神経生理学 市村出版」					
履修条件・ 関連科目			備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	田巻：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです） 研究棟3階 305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp 與谷：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです） 研究棟3階 306研究室 yotani@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	田巻 弘之	オリエンテーション、PubMed、EndNoteの使い方、骨格筋の構成要素と筋線維の超微細構造			参考書1の第13章を一読する。またPubMed及びEndNoteの使い方について復習する。（2時間）	
2	〃	骨格筋の萎縮と運動刺激の効果ー筋収縮と生体活性物質のはたらきー			参考書2の第2章を一読し、筋収縮やマイオカインに関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
3	〃	筋損傷と再生、筋肥大、筋痛との関連性ー損傷と炎症は悪か？ー			参考書3を一読し、筋損傷と再生、痛みに関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
4	〃	筋膜（結合組織）の種類と不動及び加齢変化の特徴、筋組織のスティフネスー筋組織の硬さ/柔らかさを決めるものー			参考書2の第2章第3節を一読し、筋膜に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
5	〃	腱及び靱帯の粘弾性と運動・不動及び加齢変化の特徴ー伸びやすい/伸びにくいを決めるものー			参考書2の第2章第4節を一読し、腱・靱帯の特性に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
6	〃	骨及び軟骨の微細構造と力学的刺激の重要性、関節の痛みー使いすぎても壊れるが、使わなくても壊れるー			参考書2の第2章第5節を一読し、関節構成体に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
7	〃	骨芽細胞、破骨細胞、骨細胞の働きと不動、加齢の影響ー骨をつくる/壊すを調節している司令塔は一見働いていないー			骨関連細胞に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
8	〃	不動、加齢による関節可動域制限と運動・物理療法の効果ーストレッチングや電気磁気刺激処方の効き目ー			参考書2の第3章を一読し、筋骨格系に対する運動・物理療法の効果に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
9	與谷 謙吾	随意運動に関わる基本的神経機構：中枢・末梢神経系の可塑性			参考書7の第1章を一読し、神経系に関する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
10	〃	運動学習に関する神経生理学			参考書7の第2章を一読し、運動学習に関する高次中枢系の文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
11	〃	随意運動：熟練スポーツ動作の神経ー筋活動①			参考書7の第17章を一読し、筋活動を主とする文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
12	〃	随意運動：熟練スポーツ動作の神経ー筋活動②			参考書7の第18章を一読し、神経系を主とする文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
13	〃	敏捷性に関わる神経制御機構：反応時間の短縮と遅延について			参考書7の第20章を一読し、反応時間に関する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
14	〃	高次中枢（大脳運動野）の促進・抑制機構と操作法			参考書7の6ー7部を一読し、磁気刺激に関する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
15	〃	運動イメージ中の運動野の興奮性			参考書7の6ー10部を一読し、イメージに関する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツバイオメカニクス特講 (223A2-1304)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	村田 宗紀・前田 明・和田 智仁				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	生物の運動を力学的に解析するバイオメカニクスは、スポーツ指導や臨床現場など、幅広い領域で活用される基礎分野である。本授業では、動作分析の基礎について学ぶ。特に、実際のデータを基に議論を行うことや、座学を通じ、主にkinematicsやkineticsについて理解するとともに、人の身体運動を分析する際の着眼点を学ぶ。なお、履修生のレベルと理解に応じて、適宜進度を変更する。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（0％） ☐ 授業への取り組み状況（10％） ☒ レポート等の提出状況（90％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポートによって評価する。議論の質および態度も評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	教科書 『スポーツバイオメカニクス20講』阿江通良，藤井範久，朝倉書店（2002） 参考書 『バイオメカニクスと動作分析の原理』【著】Iwan W. Griffiths【訳】石毛勇介，川本竜史，NAP（2008） 『バイオメカニクス 人体運動の力学と制御』【著】David A. Winter【訳】長野明紀，吉岡伸輔，ラウンドフラット（2011）					
履修条件・ 関連科目	スポーツバイオメカニクス特講演習とセットで受講することが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)	・授業で用いる数学・力学に関する知識が不足する場合は、授業時間外に各自で補うこと。 ・初回授業時までに各自MathWorksアカウント（スボ情HP参照）を作成しておくこと。	
オフィス・アワー	村田：随時 研究棟4階 404教員研究室 和田：事前連絡 研究棟4階 401研究室 前田：事前連絡 研究棟4階 405研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	村田 宗紀 和田 智仁	バイオメカニクス総論・研究方法論 イントロダクション			授業内容についての予習・復習（1時間）	
2	〃	バイオメカニクスの分析の概要（下準備）			課題動作について調べ、理解すること（1時間） バイオメカニクスにおける分析手法、分析手順について調べてくること（1時間）。	
3	〃	Kinematics的分析①			位置・速度・加速度の関係を予習・復習すること。	
4	〃	Kinematics的分析②			授業の内容を再考すること（1時間）。	
5	〃	Kinematics的分析③			・角度、角速度、角加速度について理解してくること（1時間）。 ・関節角度や関節角速度について理解してくること（1時間）。	
6	〃	Kinematics的分析④			授業の内容を再考すること（1時間）。	
7	〃	Kinematics的分析⑤			授業の内容を再考すること（1時間）。	
8	〃	Kinematics的分析⑥			レポート作成（1時間）	
9	〃	KineticsおよびEnergetics的分析①			質量や慣性モーメントについて学び、速度・角速度と角運動量・運動量の関係について理解すること（1時間）。	
10	〃	KineticsおよびEnergetics的分析②			授業の内容を再考すること（1時間）。	
11	〃	KineticsおよびEnergetics的分析③			授業の内容を再考すること（1時間）。	
12	〃	KineticsおよびEnergetics的分析④			授業の内容を再考すること（1時間）。	
13	〃	KineticsおよびEnergetics的分析⑤			力学的エネルギーと仕事、パワーについて理解しておくこと。	
14	〃	KineticsおよびEnergetics的分析⑥			レポート作成（1時間）	
15	村田 宗紀 前田 明 和田 智仁	バイオメカニクスによるスポーツパフォーマンス研究への貢献			授業内容についての予習・復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動生化学・分子細胞生物学特講 (223A2-1305)	授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	吉田 剛一郎・町田 修一			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	(吉田担当分) 分子と化学反応を基礎にして、生命現象を考えるのが生化学である。運動にともなうからだの変化について、栄養素の異化によるエネルギー代謝をテーマに、生化学、分子細胞生物学的な面から関連づけて講じる。最終的に、生体内代謝に基づく科学的な考察が行えることを目標とする。 (町田担当分) 各種トレーニングが生体、特に骨格筋に及ぼす影響について、マクロだけでなく、ミクロレベルでの現象について学習する。そして、スポーツの実践や指導に分子・細胞レベルの知識を応用することの意義を理解する。 授業の到達目標は、3つの領域ごとに以下のとおりとする。 ・認知的領域：運動（トレーニング）が生体、特に骨格筋に及ぼす影響について、組織レベルでの表現型（適応 現象）を分子および細胞レベルの視点で把握し、そのメカニズムを説明できる。 ・情意的領域：予習課題や復習に意欲的に取り組み、討論での積極的な発言など、新しい知識の獲得に努めようとする。 ・技能的領域：分子・細胞生物学の知識を生かして、新規なトレーニング方法等を考案することができる。				
成績評価の方法	(吉田担当分) □学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70％） ■レポート等の提出状況（30％）を総合的に評価する。 (町田担当分) ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％）を総合的に評価する。				
成績評価の基準	(吉田担当分) 理解度を基準とする。 (町田担当分) 課題や復習に意欲的に取り組み、討論で積極的な発言が認められ、スポーツの実践や指導に分子・細胞レベルの知識を応用することの意義が理解できていると判断できるレポートが提出された場合は合格とする。				
テキスト、教材 参 考 書	(吉田担当分) 入村達郎 訳『ストライヤー生化学』（トッパン） 上代淑人 訳『ハーバー生化学』（丸善） (町田担当分) 毎回、講義内容（パワーポイント）に関する資料を配付する。 【参考書】 改訂版 運動生理学の基礎と発展、春日規克/竹倉宏明編集、フリースペース スポーツ現場に生かす運動生理・生化学、樋口満編集、市村出版 運動とタンパク質・遺伝子、柳原大/内藤久士編集、ナッブ				
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	(吉田担当分) 必要に応じて論文抄読会を行う。 (町田担当分) 分子・細胞生物学の知識をスポーツ科学に 応用してほしいです。	
オフィス・アワー	随時 307研究室(吉田) 集中講義期間中のお昼休みもしくは放課後(町田)				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	吉田 剛一郎	糖質代謝1（解糖系・クエン酸回路）		解糖系・クエン酸回路を復習する。（1時間）	
2	〃	糖質代謝2（電子伝達系・糖新生経路）		電子伝達系・糖新生経路を復習する。（1時間）	
3	〃	脂質代謝1（カルニチンとβ酸化）		カルニチンとβ酸化を復習する。（1時間）	
4	〃	脂質代謝2（機能する脂質）		機能する脂質を復習する。（1時間）	
5	〃	タンパク質代謝1（アミノ酸の利用）		アミノ酸の利用を復習する。（1時間）	
6	〃	タンパク質代謝2（尿素回路）		尿素回路を復習する。（1時間）	
7	〃	遺伝情報1（遺伝子のはたらきとタンパク質合成）		遺伝子のはたらきとタンパク質合成を復習する。 （1時間）	
8	〃	遺伝情報2（トレーニングと遺伝子発現）		トレーニングと遺伝子発現を復習する。（1時間）	
9	町田 修一	骨格筋を分子・細胞レベルで紐解く、研究最前線について紹介する		これまで学んだ骨格筋について復習する（1時間）	
10	〃	筋線維タイプ1（スポーツ科学からの理解）		筋線維タイプの復習（1時間）	
11	〃	筋線維タイプ2（分子レベルで理解する）		筋線維タイプの復習（1時間）	
12	〃	筋肥大のメカニズム1（筋肥大と遺伝子発現）		筋肥大に関する資料内容を予習する（1時間）	
13	〃	筋肥大のメカニズム2（筋肥大と筋サテライト細胞）		筋肥大に関する講義内容を復習する（1時間）	
14	〃	運動と遺伝子、タンパク質（遺伝子の構造、発現調節、転写）		運動と遺伝子発現について復習する（1時間）	
15	〃	運動と分子・細胞生物学（分子・細胞生物学をトレーニングに応用）		新規なトレーニング方法等を考案する（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ栄養学特講 (223A2-1306)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	吉田 剛一郎				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	栄養学の基礎的な学習を行い、栄養素摂取、食生活など、体育・スポーツの面から関連づけて講じる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70％） ■レポート等の提出状況（30％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み、レポートの内容を重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	テキスト（授業時に配布する）					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	必要に応じて論文抄読会を行う。		
オフィス・アワー	随時307・302研究室・メール					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	吉田 剛一郎	糖質の摂取			糖質の摂取を復習する。（1時間）	
2	〃	脂質の摂取			脂質の摂取を復習する。（1時間）	
3	〃	タンパク質・アミノ酸の摂取			タンパク質・アミノ酸の摂取を復習する。（1時間）	
4		糖質の役割と身体活動との関係			糖質の役割と身体活動との関係を復習する。（1時間）	
5	〃	タンパク質の役割と身体活動との関係			タンパク質の役割と身体活動との関係を復習する。 。（1時間）	
6	〃	脂質の役割と身体活動との関係			脂質の役割と身体活動との関係を復習する。（1時間）	
7	〃	ビタミンの役割と身体活動との関係			ビタミンの役割と身体活動との関係を復習する。 （1時間）	
8	〃	ミネラルの役割と身体活動との関係			ミネラルの役割と身体活動との関係を復習する。 （1時間）	
9	〃	貧血とパフォーマンスとの関係			貧血とパフォーマンスとの関係について復習する (1時間)	
10	〃	カルシウムと骨形成について			カルシウムと骨形成について復習する（1時間）	
11	〃	女性の身体と女性アスリートの諸問題			女性の身体と女性アスリートの諸問題を復習する。 。（1時間）	
12	〃	論文抄読（女性アスリート）			論文抄読（女性アスリート）を復習する。（1時間）	
13	〃	身体活動と食に関する論文抄読（高齢者）			身体活動と食に関する論文抄読（高齢者）を復習する。 。（1時間）	
14	〃	身体活動と食に関する論文抄読（子ども）			身体活動と食に関する論文抄読（子ども）を復習する。 （1時間）	
15	〃	まとめ			まとめを復習する。（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ心理学特講【夜間】		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	森 司朗				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	ジュニア期からの効果的な運動指導の在り方について、心理学的な立場から指導の基礎となる知識と理論を提供することを目的にした科目である。具体的には、「運動学習・指導」と「モチベーション」の2つの主なテーマに関して講義を進めていく。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40%） ■レポート等の提出状況（60%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	各テーマでの基本的な知識や考え方の理解ならびに一歩踏み込んだ問題意識の深さを基準にして評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	「運動指導の心理学－運動学習とモチベーションからの接近－」杉原隆 大修館書店					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗	オリエンテーション				
2	〃	運動に対する動機づけ1			授業の予習と復習（1時間）	
3	〃	運動に対する動機づけ2			授業の予習と復習（1時間）	
4	〃	内発的動機づけ1			授業の予習と復習（1時間）	
5	〃	内発的動機づけ2			授業の予習と復習（1時間）	
6	〃	内発的動機づけに関するプレゼンテーション			プレゼンテーションの作成（1時間）	
7	〃	メンタルトレーニング1			授業の予習と復習（1時間）	
8	〃	メンタルトレーニング2			授業の予習と復習（1時間）	
9	〃	メンタルトレーニングに関するプレゼンテーション			プレゼンテーションの作成（1時間）	
10	〃	運動行動の構造からみた運動学習1			授業の予習と復習（1時間）	
11	〃	運動行動の構造からみた運動学習2			授業の予習と復習（1時間）	
12	〃	運動行動の構造からみた運動学習3			授業の予習と復習（1時間）	
13	〃	運動行動からみた運動学習に関してのプレゼンテーション			プレゼンテーションの作成（1時間）	
14	〃	運動学習理論の背景			授業の予習と復習（1時間）	
15	〃	運動学習理論に関するプレゼンテーション			プレゼンテーションの作成（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	体力科学特講【夜間】		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	田巻 弘之・與谷 謙吾				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	本科目では、身体活動による生体の応答機序を基盤とした健康増進や体力の維持向上に寄与するため、体力の構成要素、特に行動体力の要素に関する加齢変化の特徴や運動効果の現れ方について学び、ディスカッションする。本授業により、体力の構成要素を類別し、筋力、持久力、敏捷性、調整力などの各要素 について、機能と構造の観点から運動刺激の効果を述べることができる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70%） ■レポート等の提出状況（30%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み状況、課題等を複数教員によって判定する。					
テキスト、教材 参 考 書	（参考書）1）健康・体力のための運動生理学，石河利寛著，杏林書院，ISBN:978-4764410435、 （資料）適宜配布する					
履修条件・ 関連科目			備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	田巻：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです） 研究棟3階 305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp 與谷：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです） 研究棟3階 306研究室 yotani@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	田巻 弘之	オリエンテーション：体力の定義と構成要素			今後の予定を確認し、次回の講義(キーワード)について予習を行う (2時間)	
2	〃	全身持久力①：幼少期から成人までの経年変化			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。(2時間)	
3	〃	全身持久力②：呼吸・循環器系の発達			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。(2時間)	
4	〃	全身持久力③：トレーニング強度の影響			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。(2時間)	
5	〃	全身持久力④：トレーニング効果と特異性			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。(2時間)	
6	〃	筋力：骨格筋の経年変化			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。(2時間)	
7	〃	支持組織：骨の経年変化			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。(2時間)	
8	〃	筋力と骨①：除神経による骨への影響			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。(2時間)	
9	〃	筋力と骨②：除神経による筋への影響			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。(2時間)	
10	〃	筋力と骨③：電気刺激による影響			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。(2時間)	
11	與谷 謙吾	神経系①：敏捷性・調節力の経年変化			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。(2時間)	
12	〃	神経系②：反応時間に関する幼少期から成人までの経年変化			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。(2時間)	
13	〃	反応時間①：反応動作に関する神経系、筋系、動作系の時間要素			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。(2時間)	
14	〃	反応時間②：神経系のトレーニング頻度			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、次回の講義(キーワード)について情報を集める。(2時間)	
15	〃	反応時間③：神経系のトレーニングピリティー			本講義のテーマに関する文献をPubMed等で調べて精読し、これまでの講義内容をまとめる。(2時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツバイオメカニクス特講【夜間】		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	村田 宗紀・前田 明・和田 智仁				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	生物の運動を力学的に解析するバイオメカニクスは、スポーツ指導や臨床現場など、幅広い領域で活用される基礎分野である。本授業では、動作分析の基礎について学ぶ。特に、実際のデータを基に議論を行うことや、座学を通じ、主にkinematicsやkineticsについて理解するとともに、人の身体運動を分析する際の着眼点を学ぶ。なお、履修生のレベルと理解に応じて、適宜進度を変更する。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（0％） ☐ 授業への取り組み状況（10％） ☒ レポート等の提出状況（90％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポートによって評価する。議論の質および態度も評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	教科書 『スポーツバイオメカニクス20講』阿江通良，藤井範久，朝倉書店（2002） 参考書 『バイオメカニクスと動作分析の原理』【著】Iwan W. Griffiths【訳】石毛勇介，川本竜史，NAP（2008） 『バイオメカニクス 人体運動の力学と制御』【著】David A. Winter【訳】長野明紀，吉岡伸輔，ラウンドフラット（2011）					
履修条件・ 関連科目	スポーツバイオメカニクス特講演習とセットで受講することが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)	・授業で用いる数学・力学に関する知識が不足する場合は、授業時間外に各自で補うこと。 ・初回授業時までに各自MathWorksアカウント（スボ情HP参照）を作成しておくこと。	
オフィス・アワー	村田：随時 研究棟4階 404教員研究室 和田：事前連絡 研究棟4階 401研究室 前田：事前連絡 研究棟4階 405研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	村田 宗紀 和田 智仁	バイオメカニクス総論・研究方法論 イントロダクション			授業内容についての予習・復習（1時間）	
2	”	バイオメカニクスの分析の概要（下準備）			課題動作について調べ、理解すること（1時間） バイオメカニクスにおける分析手法、分析手順について調べてくること（1時間）。	
3	”	Kinematics的分析①			位置・速度・加速度の関係を予習・復習すること。	
4	”	Kinematics的分析②			授業の内容を再考すること（1時間）。	
5	”	Kinematics的分析③			・角度、角速度、角加速度について理解してくること（1時間）。 ・関節角度や関節角速度について理解してくること（1時間）。	
6	”	Kinematics的分析④			授業の内容を再考すること（1時間）。	
7	”	Kinematics的分析⑤			授業の内容を再考すること（1時間）。	
8	”	Kinematics的分析⑥			レポート作成（1時間）	
9	”	KineticsおよびEnergetics的分析①			質量や慣性モーメントについて学び、速度・角速度と角運動量・運動量の関係について理解すること（1時間）。	
10	”	KineticsおよびEnergetics的分析②			授業の内容を再考すること（1時間）。	
11	”	KineticsおよびEnergetics的分析③			授業の内容を再考すること（1時間）。	
12	”	KineticsおよびEnergetics的分析④			授業の内容を再考すること（1時間）。	
13	”	KineticsおよびEnergetics的分析⑤			力学的エネルギーと仕事、パワーについて理解しておくこと。	
14	”	KineticsおよびEnergetics的分析⑥			レポート作成（1時間）	
15	村田 宗紀 前田 明 和田 智仁	バイオメカニクスによるスポーツパフォーマンス研究への貢献			授業内容についての予習・復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ栄養学特講【夜間】		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	鈴木 志保子				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	栄養学の基礎的な復習を行い、身体活動量と栄養素摂取、食事、食生活の関係について学ぶ。また、食品に関するトピックを取り上げ、学ぶ。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（60%） ■レポート等の提出状況（40%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	ゼミ方式で授業を行う。授業中の発言等によって取り組みを判断指標化する。また、課題レポートの考察を中心に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	授業ごとに資料を配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	鈴木 志保子	栄養学とは			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
2	〃	現代の食生活に対する問題と課題について			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
3	〃	糖質の役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
4	〃	糖質の役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
5	〃	タンパク質の役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
6	〃	タンパク質の役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
7	〃	脂質の役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
8	〃	脂質の役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
9	〃	ビタミンの役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
10	〃	ビタミンの役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
11	〃	ミネラルの役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
12	〃	ミネラルの役割と身体活動との関係			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
13	〃	食事・食生活の考え方			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
14	〃	保健指導について			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
15	〃	機能性食品・食材について			レポート作成（1時間）	
16	〃	まとめ				

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特講Ⅰ【KR】 (223A2-1311)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	飯干 明・未 定・井福 裕俊・森 司朗・金高 宏文・中本 浩揮・藤田 英二・高井 洋平・塩瀬 圭佑・幾留 沙智・石走 知子				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1年次		受け入れ人数 5名
授業の概要 及び達成目標	身体の特⼣（身体性）について理解を深めるとともに、身体を教育するための様々な手段について、心・技・体の観点から学び、生涯にわたって身体を育てていくための基礎的な能力を身につける。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記の条件で総合的に評価する。授業への取組⼢状況の評価は、自分の考えを適切に表現できるかを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	テキストは使用しない。資料を適宜、配布する。					
履修条件・ 関連科目	連携教育プログラム履修生は、同時開講予定の「身体教育特講演習Ⅰ【KR】」を履修すること。			備考(教員メッセージ含む)	本講義は、連携教育プログラム履修生の必修科目。原則として夏期休業中の約1週間程度とし、開講時期については、連携プログラム履修生の都合を優先する。なお、講義の順序が変更になる場合もある。	
オフィス・アワー	集中講義の期間中に各教員が対応する。					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	飯干 明	身体の特⼣（身体性）について			身体の特⼣（身体性）についての復習（30分以上）	
2	〃	身体教育の手段について			身体教育の手段についての復習（30分以上）	
3	森 司朗	動機づけ等について			動機づけ等についての復習（30分以上）	
4	中本 浩揮 幾留 沙智	心のトレーニングについて			心のトレーニングについての復習（30分以上）	
5	飯干 明	運動指導とバイオメカニクスについて			運動指導とバイオメカニクスについての復習（30分以上）	
6	金高 宏文	運動指導とコツ・カンについて			運動指導とコツ・カンについての復習（30分以上）	
7	井福 裕俊	体力について			体力についての復習（30分以上）	
8	高井 洋平	アスリートの体力トレーニングについて			体力トレーニングについての復習（30分以上）	
9	塩瀬 圭佑	健康と生活習慣について			健康と生活習慣についての復習（30分以上）	
10	藤田 英二	健康づくりのための運動処方について			運動処方についての復習（30分以上）	
11	未 定	栄養について			栄養についての復習（30分以上）	
12	石走 知子	休養について			休養についての復習（30分以上）	
13	飯干 明	コンディショニングについて			コンディショニングについての復習（30分以上）	
14	〃	自然環境の活用について			環境刺激の活用についての復習（30分以上）	
15	〃	まとめ			課題レポートの作成（3時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特講Ⅱ A【KR】 (223A2-1312)		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	井福 裕俊・坂本 将基				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツや運動を身体教育として捉え、かつそれらの分野に関する研究の視点を得るためには、スポーツや運動に対する学際的な理解が重要となる。 本授業では、随意運動制御、運動時の循環調節などについて概説し、幅広く理解できるようになる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） □出席状況（％） ■授業への取り組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート課題の成績と授業への取り組みから総合的に判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考資料等は事前に配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	担当教員ごとに要予約（相談）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	井福 裕俊 坂本 将基	オリエンテーション				
2	坂本 将基	随意運動制御の概説（1）脊髄			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
3	”	随意運動制御の概説（2）小脳			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
4	”	随意運動制御の概説（3）大脳基底核			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
5	”	随意運動制御の概説（4）骨格筋			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
6	”	随意運動制御の概説（5）大脳皮質1			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
7	”	随意運動制御の概説（6）大脳皮質2			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
8	”	随意運動制御の概説（7）運動学習			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
9	井福 裕俊	運動時の循環調節の概説（1）心臓			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
10	”	運動時の循環調節の概説（2）血圧			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
11	”	運動時の循環調節の概説（3）微小循環			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
12	”	運動時の循環調節の概説（4）圧受容器反射			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
13	”	運動時の循環調節の概説（5）セントラルコマンド			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
14	”	運動時の循環調節の概説（6）運動昇圧反射			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
15	”	総合討論				

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特講ⅡB【KR】		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	塩瀬 圭佑				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	本特講では、生涯にわたる健康の保持増進における生活習慣の重要性を理解するために、特に運動、食事、睡眠と健康の関連について学習する。また個人の健康のみでなく、公衆衛生的な視点から地域・社会等の健康についても理解する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） □出席状況（％） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	現代の健康課題について理解し、健康の保持増進のための運動などの生活習慣の重要性について説明できる。					
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて資料を配布・紹介する。					
履修条件・ 関連科目			備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	適宜指定する。					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	塩瀬 圭佑	オリエンテーション			予習1.5時間	
2	〃	健康の成り立ち・現代の健康課題			復習0.5時間、予習1時間	
3	〃	健康調査の方法			復習0.5時間、予習1時間	
4	〃	運動と健康I			復習0.5時間、予習1時間	
5	〃	運動と健康II			復習0.5時間、予習1時間	
6	〃	食事と健康I			復習0.5時間、予習1時間	
7	〃	食事と健康II			復習0.5時間、予習1時間	
8	〃	睡眠・休養習慣と健康			復習0.5時間、予習1時間	
9	〃	健康づくり政策			復習0.5時間、予習1時間	
10	〃	ライフステージ別の健康課題と対策I			復習0.5時間、予習1時間	
11	〃	ライフステージ別の健康課題と対策II			復習0.5時間、予習1時間	
12	〃	ライフステージ別の健康課題と対策III			復習0.5時間、予習1時間	
13	〃	ライフステージ別の健康課題と対策IV			復習0.5時間、予習1時間	
14	〃	健康づくりと運動処方			復習0.5時間、予習1時間	
15	〃	まとめ			レポート課題（3時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ヘルスサイエンス特講演習（健康運動学） (224B2-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	中垣内 真樹・沼尾 成晴			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	国内外で実践されてきた身体運動による健康づくりの研究成果を学ぶとともに内外の学術誌から抄読を行ない、最新の研究成果の把握と問題点を学習する。関連する研究の手法を習得する。				
成績評価の方法	□学期末試験の成績（ ％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。				
成績評価の基準	学習内容のプレゼンテーションとディスカッションを重視する。				
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて配付する、もしくは指示する。 参考書：「健康幸福のためのスマートライフ」（公益財団法人日本スポーツ協会監修、(株)サンライフ企画、2019年、3080円）				
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)	講義は、質問や討論を行いながら進める。		
オフィス・アワー	随時 中垣内：研究棟407研究室 沼尾：研究棟406研究室				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	中垣内 真樹 沼尾 成晴	オリエンテーション		文献の予習（1時間）	
2	”	MedlineまたはPubMedを使った文献検索		文献の予習・復習（1時間）	
3	”	健康づくりに関する文献講読－1		文献の予習・復習（1時間）	
4	”	健康づくりに関する文献講読－2		文献の予習・復習（1時間）	
5	”	健康づくりに関する文献講読－3		文献の予習・復習（1時間）	
6	”	健康づくりに関する文献講読－4		文献の予習・復習（1時間）	
7	”	健康づくりに関する文献講読－5		文献の予習・復習（1時間）	
8	”	運動と健康づくりに関する文献講読－1		文献の予習・復習（1時間）	
9	”	運動と健康づくりに関する文献講読－2		文献の予習・復習（1時間）	
10	”	運動と健康づくりに関する文献講読－3		文献の予習・復習（1時間）	
11	”	運動と健康づくりに関する文献講読－4		文献の予習・復習（1時間）	
12	”	運動と健康づくりに関する文献講読－5		文献の予習・復習（1時間）	
13	”	介入研究の方法1 計画立案と進め方		文献の予習・復習（1時間）	
14	”	介入研究の方法2 分析と考察		文献の予習・復習（1時間）	
15	”	まとめ		レポート（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ヘルスサイエンス特講演習（スポーツ・リハビリテーション医学） (224B2-2301)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	廣津 匡隆・安田 修・藤井 康成				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	スポーツ・リハビリテーション医学における、整形外科的な予防と運動療法などについて述べる。また、テーピング、スポーツマッサージ、PNF（神経筋促通手技）トレーニングなどに関して講義と演習を行い、スポーツ現場において実際に役立つ実学に供する（双方向型）。 また、整形外科的疾患における予防・リハビリテーション・運動（理学）療法と関連して、テーピング、スポーツマッサージ、PNFトレーニングの方法・手技などについて学習する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	提出されたレポートの内容を評価する。また、出席・授業への取り組み状況を、複数教員により適時に判定する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書・・・「スポーツ外傷・障害からみたテーピングの実技と理論」山本郁榮他編（文光堂）、「イラストでみるスポーツマッサージ」ジョアン・ジョンソン著（大修館書店）、「競技力向上と障害予防に役立つスポーツPNFトレーニング」覚張秀樹他著（大修館書店）					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	廣津：水曜日10時30分～11時30分 研究棟3階 304研究室（要予約） 安田：火曜日11時50分～12時40分保健管理センター（要予約） 藤井：水曜日10時～11時30分保健管理センター（要予約）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	廣津 匡隆 安田 修 藤井 康成	スポーツ外傷・障害の予防			スポーツ外傷・障害予防についての資料を読む。 (1時間)	
2	〃	スポーツ傷害における内科的対処法			疾患への内科的対処法についての資料を読む。(1時間)	
3	〃	スポーツ傷害における整形外科的対処法			傷害への整形外科的対処法についての資料を読む。 (1時間)	
4	〃	テーピング（理論と方法）			テーピングについての資料を読む。(1時間)	
5	〃	筋力トレーニング（理論と方法）			筋力トレーニングについての資料を読む。(1時間)	
6	〃	ストレッチ（理論と方法）			ストレッチについての資料を読む。(1時間)	
7	〃	PNF			PNFについて資料を読む。(1時間)	
8	〃	疾患別対処法：腰痛			腰痛についての資料を読む。(1時間)	
9	〃	疾患別対処法：膝前十字靱帯損傷			膝前十字靱帯損傷についての資料を読む。(1時間)	
10	〃	疾患別対処法：下腿、足のスポーツ傷害			下腿、足のスポーツ傷害についての資料を読む。 (1時間)	
11	〃	疾患別対処法：足関節疾患			足関節疾患について資料を読む。(1時間)	
12	〃	着地動作のバイオメカニクス			着地動作についての資料を読む。(1時間)	
13	〃	疾患別対処法：投球障害肩			投球障害肩についての資料を読む。(1時間)	
14	〃	姿勢制御能力（バランス能力）の評価法			姿勢制御についての資料を読む。(1時間)	
15	〃	本授業のまとめとレポート			ヘルスサイエンス（スポーツ・リハビリテーション医学）に関するレポートを作成し提出する。 (2時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ヘルスサイエンス特講演習（ヘルスサイエンス） (224B2-2302)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (ｽﾎｰﾌﾟ総合科学)
担当教員名	モハモド モニルル イスラム				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	ある国の総人口に対する高齢人口の割合が7%を超えると加齢化社会、14%を超えると高齢社会という。日本は、すでに高齢社会である。日常生活時の自立度の改善あるいはそれを維持するため、高齢者に対する運動療法は欠かせない。体育学専攻者は、運動に関する知識が高く、高齢者における健康づくりや疾病予防に対してより重要な役割を担っていると考えられる。そのため、加齢とともに発症する身体的・精神的な健康問題に関する知識を把握することが必要であり、その内容が本授業のひとつの目標である。 老年学に関する研究を行うために、関連がある先行論文を抄読する必須であることから、PubMedなどによる論文検索後、国内外学術誌を演習形式で学ぶことが本授業のもう一つの目標である。 また、学術誌を抄読するには統計学的知識が必須であることから、統計学を演習・理解することが本授業の別の目標である。加えて、国際的な視点に立って、諸外国での公衆衛生など、特に老年学の実践活動や健康への取り組みも知り、ヘルスプロモーションの考え方を習得する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%） を総合的に評価し、60点以上のものを合格とする。					
成績評価の基準	学習内容に関するディスカッションを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	毎回授業前に資料を配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	教員研究室509号（内線: 4962）にて随時（但し、事前に申し出ること）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レﾊﾟｰﾄ等課題の指示)	
1	モハモド モニルル イスラム	高齢者の運動療法について、また関連する論文の検索			左記の予習と配布資料の復習（60分）	
2	〃	高齢者における転倒予防法について、また関連する論文の検索			左記の予習と配布資料の復習（60分）	
3	〃	高齢者の身体運動時の安全性について、また関連する論文の検索			左記の予習と配布資料の復習（60分）	
4	〃	高齢者における高血圧と糖尿病の管理について、また関連する論文の検索			左記の予習と配布資料の復習（60分）	
5	〃	高齢者における脳血管疾患、虚血性心疾患等の管理について、また関連する論文の検索			左記の予習と配布資料の復習（60分）	
6	〃	食べられない高齢者の栄養管理について、また関連する論文の検索			左記の予習と配布資料の復習（60分）	
7	〃	食高齢者におけるコミュニケーション障害の原因と対策について、また関連する論文の検索			左記の予習と配布資料の復習（60分）	
8	〃	高齢者における腰痛やその他の関節痛について、また関連する論文の検索			左記の予習と配布資料の復習（60分）	
9	〃	高齢者におけるもの忘れや認知症について、また関連する論文の検索			左記の予習と配布資料の復習（60分）	
10	〃	統計学演習I（データベース作成方法）について			左記の予習と配布資料の復習（60分）	
11	〃	統計学演習II（度数分布、平均値、中央値、最頻値、標準偏差、標準誤差など）について			左記の予習と配布資料の復習（60分）	
12	〃	統計学演習III（t検定、分散分析など）について			左記の予習と配布資料の復習（60分）	
13	〃	統計学演習IV（相関と回帰、相対的危険とオッズ比など）について			左記の予習と配布資料の復習（60分）	
14	〃	国際保健および緊急時の救援医療（国際保健の意義、国際保険医療協力先進国と途上国保険制度、世界保健機関等および心肺蘇生法、救急法、水難救助等の事故防止）			左記の予習と配布資料の復習（60分）	
15	〃	抄読会・ディスカッション				

授業科目名 (ナンバリングコード)	健康教育学特講演習 (224B2-2303)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (ｽﾎｰﾌﾟ総合科学)
担当教員名	安田 修				補助担当者名	石神 睦子
単位数	2 単位		履修年次	一	受け入れ人数	一
授業の概要 及び達成目標	【講義の概要】健康教育とは、個人と社会環境に影響を及ぼし、健康行動を改善させ、健康とQOLを高める広い意味での戦略である（「健康教育―理論、研究、実践」、医学書院、2006年）。この講義では、健康行動を実践した結果である健康状態を、心身両面から評価する方法を学習する。また、実際に心理テスト、健康関連QOL、自律神経機能検査などの測定を行い、それらの結果の解釈法について学ぶ。 【達成目標】健康状態を心身両面から総合的に評価する方法を理解できるようになる。代表的な質問紙票・心理テスト・生理的検査機器を用いて、健康行動に対する介入結果を評価できるようになる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記の条件で総合的に評価する。授業への取り組み状況の評価は、自分の考えを簡潔に表現できるかを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	テキストは使用しない。 授業の資料はWebClassに掲載する。					
履修条件・ 関連科目	健康教育学特講を履修していることが望ましい。			備考(教員メッ セージ含む)	講義は質問や討論を行いながら進める。心理テストは全員行い、その評価と分析を行う。生理的検査機器は数に限りがあるため、受講生数に応じてグループを組んで測定と分析を行う。	
オフィス・アワー	健康行動学実験室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	安田 修	健康行動と動機づけ			WebClassによる予習と復習 1時間	
2	〃	心身症、心療内科について			WebClassによる予習と復習 1時間	
3	〃	調査・研究法：心理テストについて			WebClassによる予習と復習 1時間	
4	〃	心理テスト 実践 1			WebClassによる予習と復習 1時間	
5	〃	心理テスト 実践 2			WebClassによる予習と復習 1時間	
6	〃	心理テスト 実践 3			WebClassによる予習と復習 1時間	
7	〃	心理テスト 実践 4			WebClassによる予習と復習 1時間	
8	〃	SF36による健康関連QOLの評価とその解釈			WebClassによる予習と復習 1時間	
9	〃	睡眠障害とその評価			WebClassによる予習と復習 1時間	
10	〃	身体活動と睡眠・覚醒リズム			WebClassによる予習と復習 1時間	
11	〃	自律神経の働きと自律神経機能検査			WebClassによる予習と復習 1時間	
12	〃	自律神経機能検査の実際：心拍変動解析			WebClassによる予習と復習 1時間	
13	〃	スポーツに関連する心身症：摂食障害			WebClassによる予習と復習 1時間	
14	〃	心身症：疼痛			WebClassによる予習と復習 1時間	
15	〃	健康行動研究について討論			課題レポートによるまとめ 2時間	

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動処方論特講演習 (224B2-2304)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	藤田 英二				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	運動処方あるいはそれらに関連する科学的エビデンスを精査しながら、それぞれの運動の特性やその運動が持つ効果について議論する。また、文献調査・実験立案・データ採取と分析・結果発表・ディスカッションを繰り返しながら研究の方向性を確立し、科学的エビデンスを公表する能力の向上を目指す。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（ ％） ■授業への取り組み状況（40％）■レポート等の提出状況（60％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み、発表要旨・プレゼンテーションの内容とその「できばえ」、ディスカッションへの参加および質疑応答の的確さ等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	国内外の学会誌等に掲載されている運動処方およびトレーニング科学に関連する論文					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時：まずはメールで相談を（fujita@nifs-k.ac.jp）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	藤田 英二	オリエンテーション				
2	〃	運動処方に関する研究レビュー・実験デザインについて			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
3	〃	有酸素運動の処方とその評価法			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
4	〃	レジスタンス運動の処方とその評価法			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
5	〃	柔軟運動の処方とその評価法			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
6	〃	バランス運動の処方とその評価法			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
7	〃	骨密度を高める運動の処方とその評価法			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
8	〃	実験1			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
9	〃	実験1のプレゼンテーションとディスカッション			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
10	〃	実験2			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
11	〃	実験2のプレゼンテーションとディスカッション			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
12	〃	実験3			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
13	〃	実験3のプレゼンテーションとディスカッション			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
14	〃	実験4			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
15	〃	実験4のプレゼンテーションとディスカッション			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
16	〃	試験は実施しない				

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学特講演習（メンタルトレーニング論） (224B2-2305)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	中本 浩揮・幾留 沙智				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	研究を通して得られるものにはデータを測定する科学的手法のほか、データに基づき自分自身の意見・主張を形成し、わかりやすく表現するスキルが挙げられる。本演習では、受講生各自が進める研究内容を題材に、最も大事な点は何か、聴き手が知りたいことは何かなどを整理し、意見・主張とその元となる根拠を適切な順序で伝えるなど、思考のパラグラフ化の練習課題を中心に行う。授業の達成目標は、思考のパラグラフ化を身に付け、自身の研究内容を他者に魅力的に伝えられるようになること、また他者の研究内容を同様の視点で聞き、問題点や疑問点を指摘できるようになることとする。					
成績評価の方法	授業への主体性・取り組み状況(50%)、課題達成状況(50%)を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組みとして、質問への応答、課題への積極的な取り組み、討議への積極的な参加を重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	テキスト：研究的思考法 想いを伝える技術 三輪書店					
履修条件・ 関連科目	トレーニング科学特講			備考(教員メッセージ含む)	授業時間外の課題実施がある。	
オフィス・アワー	随時					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	中本 浩揮 幾留 沙智	オリエンテーション（授業方針、取り扱い内容の説明）			前期トレーニング科学論特講の講義内容について 復習(30分)	
2	〃	研究の想いを明確にする			授業内容で配布したスライドをもとに復習(1時間)	
3	〃	研究の仮説を明確にする			授業内容で配布したスライドをもとに復習(1時間)	
4	〃	研究の目的を説明する際の「解説」の重要性を理解する			授業内容で配布したスライドをもとに復習(1時間)	
5	〃	研究の目的と解説を作成する			授業で作成した内容を整理し、次週に向けての発表準備（1時間）	
6	〃	発表&ディスカッション（目的と解説）			ディスカッションを受け、目的と解説の修正（1時間）	
7	〃	数値がもつ意味の解説の重要性を理解する			授業内容で配布したスライドをもとに復習(1時間)	
8	〃	結果（数値）とその意味の解説を作成する			授業で作成した内容を整理し、次週に向けての発表準備（1時間）	
9	〃	発表&ディスカッション（結果とその意味）			ディスカッションを受け、結果とその意味の修正（1時間）	
10	〃	大事な意見を先に伝えることの幅を理解する			授業内容で配布したスライドをもとに復習(1時間)	
11	〃	先行研究の要旨を「大事な意見を先に伝える」の視点で添削する			授業で行った添削を整理し、次週に向けての発表準備（1時間）	
12	〃	発表&ディスカッション（先行研究の要旨添削）			ディスカッションを受け、添削の修正（1時間）	
13	〃	先行研究の序論を添削する			授業で行った添削作業を進める（1時間）	
14	〃	先行研究の序論を添削する			授業で行った添削を完成させ、次週に向けての発表準備（1時間）	
15	〃	発表&ディスカッション（先行研究の序論添削）			ディスカッションを受け、添削の修正、授業で身に付けた内容の振り返り（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学特講演習（トレーニング科学） (224B2-230G)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	高井 洋平・山本 正嘉				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	山本：トレーニング科学の分野において、自分が興味を持つテーマについて修士論文作成のシミュレーションを行う。課題は、「過去と現在における研究状況をふまえて、研究目的に当たる部分を「起承転結」の4パラグラフで表現する」とする。自分が参考とする先行研究の緒言についても、同様に4パラグラフに構造分けしてみる。これを持ち回りで発表し、それをもとに全員で討議する。座長も持ち回りで行う。 高井：トレーニング科学分野の論文を作成するシュミレーションを行う。“トレーニング”をキーワードに、各自が興味あるテーマを題材に、研究の目的・仮説の設定、方法および予想される結果について発表し、それについて全員で討議する。					
成績評価の方法	授業への取り組み状況（70％） レポート等の提出状況（30％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に判断・評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて、授業の際に参考図書を紹介する 山本：「アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学」（市村出版）をテキストとして用いる					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)	発表はパワーポイントで行うこととする。	
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 (山本：スポーツトレーニング教育研究センター2階・センター長室、yamamoto@nifs-k.ac.jp) (高井：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高井 洋平 山本 正嘉	オリエンテーション (トレーニング科学の研究をするための方法論について)				
2	山本 正嘉	課題の説明（自分の研究分野での過去と現在の研究状況をふまえて、自身の研究の「目的」を起承転結の4パラグラフで表す）			関連の参考書に目を通しておく（1時間）	
3	〃	例) 専門種目のトレーニング1（陸上競技、水泳、自転車競技、水上競技など）			当該分野での過去と現在の研究状況やその変遷を調べ、まとめておく（1時間）	
4	〃	例) 専門種目のトレーニング2（球技、武道、採点競技など）			当該分野での過去と現在の研究状況やその変遷を調べ、まとめておく（1時間）	
5	〃	例) 基礎体力のトレーニング（力、スピード、持久力、バネなど）			当該分野での過去と現在の研究状況やその変遷を調べ、まとめておく（1時間）	
6	〃	例) スキル面のトレーニング、メンタル面のトレーニングなど			当該分野での過去と現在の研究状況やその変遷を調べ、まとめておく（1時間）	
7	〃	例) リハビリテーショントレーニングなど			当該分野での過去と現在の研究状況やその変遷を調べ、まとめておく（1時間）	
8	高井 洋平	トレーニング実験の課題の説明（以下の点に着目し、研究の目的、方法、予想される結果をプレゼンテーションする）			関連する先行研究を調べ、以下の点に注意してその内容を調べておく（1時間）	
9	〃	・トレーニング実験を行う際の仮説の立て方			先行研究の緒言の構成を調べておく（1時間）	
10	〃	・トレーニング実験を計画する際の留意点			先行研究の緒言と方法を整理しておく（1時間）	
11	〃	・仮説の検証方法（実験プロトコルなど）			先行研究の方法（実験プロトコル）を調べておく（1時間）	
12	〃	・トレーニング実験のデータの採取と分析			先行研究のデータ取得の手法を調べておく（1時間）	
13	〃	・図表の作成技術			先行研究の図表のレイアウトを調べておく（1時間）	
14	〃	・プレゼンテーション技術			プレゼンテーションに関する注意点を調べておく（1時間）	
15	〃	・パワーポイントの作成			パワーポイントの作成に関する注意点を調べておく（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講演習（陸上競技（トラック）） (224B1-2307)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	松村 勲・永原 隆				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	若干名
授業の概要 及び達成目標	陸上競技トラック・ロード種目のコーチング場面につながるさまざまな知見を取り上げ、議論していくことにより、多角的で体系的にコーチング論を整理することを、本授業の目的とする。このことにより、陸上競技トラック・ロード種目のコーチングにおける高度なコーチングの基礎を身に着けることが期待される。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（0%） ■授業への取り組み状況（80%） ■レポート等の提出状況（20%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	各授業での発表やディスカッションの内容およびレポートの内容を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	授業時間毎に必要なに応じて資料等を配付する。					
履修条件・ 関連科目	陸上競技のトラック・ロード種目を専門とする者。※競技者として、研究対象としてのいずれか。			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	松村：月～木の12：00～15：30、研究等3階310研究室 永原：随時、大学院棟3階研究室1					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	松村 勲 永原 隆	オリエンテーション、陸上競技のコーチングについて				
2	〃	陸上競技中距離走についての先行研究等を探る			事前に図書館等で興味のある文献等を探す（2時間）	
3	〃	陸上競技中距離走の先行研究等についてまとめる			事前に図書館等で興味のある文献等を探す（1時間）	
4	〃	陸上競技中距離走の先行研究等について議論する			議論に基づく内容をまとめる（1時間）	
5	〃	陸上競技長距離走についての先行研究等を探る			事前に図書館等で興味のある文献等を探す（2時間）	
6	〃	陸上競技長距離走の先行研究等についてまとめる			事前に図書館等で興味のある文献等を探す（1時間）	
7	〃	陸上競技長距離走の先行研究等について議論する			議論に基づく内容をまとめる(1時間)	
8	〃	陸上競技中長距離走のコーチング			事前に図書館等で興味のある文献等を探す（2時間）	
9	〃	陸上競技短距離走コーチングための運動構造理解			事前に図書館等で興味のある文献等を探す等	
10	〃	陸上競技短距離走コーチングのための科学的基礎			事前に図書館等で興味のある文献等を探す等	
11	〃	陸上競技短距離走コーチングのためのトレーニング手段と方法			事前に図書館等で興味のある文献等を探す等	
12	〃	陸上競技短距離走コーチングのためのトレーニング計画			事前に図書館等で興味のある文献等を探す等	
13	〃	陸上競技トラック種目における コーチング方法を発表し、ディスカッションする①			事前にパワーポイントで資料を作成しておく(2時間)	
14	〃	陸上競技トラック種目における コーチング方法を発表し、ディスカッションする②			事前にパワーポイントで資料を作成しておく(2時間)	
15	〃	陸上競技トラック種目における コーチング方法を発表し、ディスカッションする③			事前にパワーポイントで資料を作成しておく(2時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講演習（陸上競技（フィールド）） (224B1-2308)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)	
担当教員名	瓜田 吉久・小森 大輔				補助担当者名		
単位数	2 単位		履修年次	－		受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	競技コーチングにおいては、コーチング実践の場における多角的・体系的アプローチが必要となる。本授業では、主に陸上競技のフィールド種目を題材にして、試合で結果を出すためのトレーニングやコンディショニングをどのように考えるか、また、体力並びに技術トレーニングの方法論などについて教授する。さらに、コーチング実践の場における様々な取り組みについて具体例をもとに講義し、コーチング体験並びに経験を通して発生した諸問題を論考していく。これらにより、陸上競技フィールド種目のコーチングを多角的・体系的に捉え、高度なコーチングを実践していくための能力が身につくことが期待される。						
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％）を総合的に評価する。						
成績評価の基準	授業の中で行われた発表や討論、さらには提出されたレポートなどをもとに、陸上競技フィールド種目を体系的に捉え、高度なコーチングを実践するための能力が身に付いているかを総合的に評価する。						
テキスト、教材 参 考 書	【参考書】 1）スポーツ・トレーニング理論：村本征人著、ブックハウスエイチディ 2）陸上競技のコーチングⅡ：金原勇著、大修館書店 3）現代スポーツコーチング実践講座 2 陸上競技：大石三四郎・浅田隆夫著、ぎょうせい 4）その他必要に応じて講義毎に配布又は指示する。						
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	レポート等の提出有り			
オフィス・アワー	瓜田：月曜日 14時～15時 研究棟8階802教員研究室 小森：月曜日 14時～15時 研究棟8階805教員研究室						
授業計画							
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	瓜田 吉久	授業のガイダンス(講義の概要、成績評価等)、陸上競技フィールド種目の特性			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）		
2	瓜田 吉久 小森 大輔	試合で結果をだすために トレーニングの計画と評価ー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）		
3	〃	試合で結果をだすために ー試合に向けてのコンディショニングー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）		
4	瓜田 吉久	コーチングを知る① ー投擲種目における体力トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）		
5	小森 大輔	コーチングを知る② ー跳躍種目における体力トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。		
6	瓜田 吉久	コーチングを知る③ ー砲丸投げの技術トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）		
7	〃	コーチングを知る④ ー円盤投げの技術トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）		
8	〃	コーチングを知る⑤ ー槍投げの技術トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）		
9	〃	コーチングを知る⑥ ーハンマー投げの技術トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）		
10	小森 大輔	コーチングを知る⑦ ー走り幅跳びの技術トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。		
11	〃	コーチングを知る⑧ ー三段跳びの技術トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。		
12	〃	コーチングを知る⑨ ー走り高跳びの技術トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。		
13	〃	コーチングを知る⑩ ー棒高跳びの技術トレーニングについてー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。		
14	瓜田 吉久 小森 大輔	コーチングを探るーコーチング実践の場における取り組み事例ー			授業内容を復習（レポート等の作成）すると共に、次回の課題に対する予習（自分の考えなどをまとめる）をしておく。（1時間）		
15	〃	コーチングを考えるーコーチング実践の場における諸問題の整理と解決法ー			授業内容を復習し、コーチングに関する総括レポートを作成する。（1時間）		

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講演習（水泳） (224B1-2309)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	萬久 博敏				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	8
授業の概要 及び達成目標	水泳競技の力学・生理学・心理学的原則について理解し、コーチング法、指導法、トレーニング計画等に関する知識を身に着ける。また、国内外の水泳研究に関する資料、文献、論文の収集、抄読を通して、研究計画の立案やデータ処理、論文作成の能力向上を目指す。					
成績評価の方法	■授業への取り組み状況（70%）■レポート等の提出状況（30%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への意欲、情報の収集および発表能力、レポート等により総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜紹介・配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)	水泳に対する幅広い探究心を持つ人の受講を望みます。	
オフィス・アワー	適宜（実験プール教習室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	萬久 博敏	オリエンテーション				
2	〃	水の特性と水泳・水中運動			参考資料、関連論文のまとめ（1時間）	
3	〃	水中安全指導と救助法			参考資料、関連論文のまとめ（1時間）	
4	〃	水泳の指導法①			水泳トレーニングの見学（2時間）	
5	〃	水泳の指導法②			水泳トレーニングの見学（2時間）	
6	〃	水泳の指導法③			水泳の指導プログラムに関するレポート（30分）	
7	〃	水泳のトレーニングと運動強度			参考資料、関連論文のまとめ（30分）	
8	〃	水泳の経済性・有効性・効率			参考資料、関連論文のまとめ（30分）	
9	〃	競泳競技におけるトレーニング周期と計画			参考資料、関連論文のまとめ（30分）	
10	〃	競泳競技におけるトレーニングメニュー立案			参考資料、関連論文のまとめ（30分）	
11	〃	競泳競技における技術トレーニング			技術トレーニングに関するレポート（1時間）	
12	〃	泳パフォーマンスの評価と分析			データ分析と資料作成（1時間）	
13	〃	水泳に関する研究の計画立案、実験方法、分析方法			水泳に関する論文の検索・要約（30分）	
14	〃	水泳に関する研究の論文作成、まとめ方			発表資料作成・準備（1時間）	
15	〃	まとめ			最終レポート（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講演習（体操競技） (224B1-2310)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	村田 憲亮				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	体操競技における器具特性や技の表記、運動特性を踏まえ、各技に応じた指導がどのような状況でも出来るように、コーチングスキルを向上させる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	通常の演習において適切な助言や指導がなされているか。採点規則に則って適切な時間で採点ができるか。レポートはきちんと書かれているか。この3点を基準として評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	体操競技のコーチング（大修館書店）金子明友著、スポーツ運動学（大修館書店）マイネル著・金子明友訳他					
履修条件・ 関連科目	体操競技に精通していること。		備考(教員メッ セージ含む)	全員が試合などで同じ宿舎に泊まる場合に学外で演習を行う場合がある（年に数回）。		
オフィス・アワー	随時 801教員研究室 内線4969					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	村田 憲亮	コーチング全般の諸注意事項について学ぶ。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
2	〃	運動モルフォロジーについて。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
3	〃	運動経過における局面について。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
4	〃	運動リズム、運動伝導、運動流動について。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
5	〃	運動弾性、運動の先取り、運動の正確さについて。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
6	〃	運動の調和について。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
7	〃	採点規則の概要について学ぶ。			レポート資料作成（60分）	
8	〃	採点規則のEスコアについて。			採点演習資料作成（60分）	
9	〃	採点規則のDスコアについて。			採点演習資料作成（60分）	
10	〃	演技の実採点を行う（DスコアとEスコアの両立）。			採点演習資料作成（60分）	
11	〃	補強運動について。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
12	〃	運動の心的作用について（1）。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
13	〃	運動の心的作用について（2）。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
14	〃	運動の心的作用について（3）。			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講演習（サッカー） (224B1-2311)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	塩川 勝行				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	サッカー競技を中心に技術・戦術・体力のコーチング法、評価方法を中心に、チームマネジメント及びトレーニング計画等を研究討議する。また、育成年代（小学生～高校生）までの長期展望に立った一貫指導についての指導方法を実践研究する。 サッカーのゲームを構成する技術・戦術・体力を理解し、各年代のコーチング論及びコーチング法を習得することを目標とする。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業での課題、レポート総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書 サッカー勝利への技術・戦術（チャールズ・ヒューズ、大修館書店、1996.@3,200） 指導者のためのサッカー強化書（ゲロ・ビザンツ、ベースボールマガジン社、1997.@2,800） フランスサッカーのプロフェッショナル・コーチング（ジェラルド・ウリエ、大修館書店、2000.@2,500）					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時 810教室 事前にアポイントメントを取ること（shiokawa@nifs-k.ac.jp）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	塩川 勝行	オリエンテーション、サッカーの歴史と競技特性			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
2	〃	サッカーにおける技術・戦術論（1）			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
3	〃	サッカーにおける技術・戦術論（2）			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
4	〃	サッカーにおけるゲーム分析（1）			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
5	〃	サッカーにおけるゲーム分析（2）			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
6	〃	サッカーにおけるプランニング（1）			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
7	〃	サッカーにおけるプランニング（2）			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
8	〃	サッカーにおけるトレーニング＆コーチング（1）			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
9	〃	サッカーにおけるトレーニング＆コーチング（2）			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
10	〃	サッカーにおけるフィジカルトレーニング			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
11	〃	チーム作りとトレーニング計画			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
12	〃	チームマネジメント			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
13	〃	育成年代の指導方法（1）			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
14	〃	育成年代の指導方法（2）			小レポート及びディスカッション資料作成（60分）	
15	〃	まとめ			レポート作成（60分）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講演習（バスケットボール） (224B1-2312)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	三浦 健				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	バスケットボールへの関わり方において、プレーヤーとは異なる立場、主に指導、審判、運営、トレーナーという側面についてのテーマに関する情報媒体を取り上げる。これらの抄読・鑑賞・ディスカッションを繰り返すことにより、各人の将来に対するバスケットボール人としての位置づけ（指針）をサポートする。					
成績評価の方法	授業への取り組み状況、レポート等の提出状況を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業で取り上げたテーマに関して、教わったことばかりでなく、自分自身の考えを構築し、ディスカッションの場で発言できるかを評価の最大のポイントとする。					
テキスト、教材 参 考 書	バスケットボールのルールと審判法 阿部・木葉 大修館書店 必要に応じて資料を配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	随時 総合体育館教員室（三浦）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	三浦 健	オリエンテーション、球技における技術向上の実践研究に関する文献講読			配布資料を復習する。（15分）	
2	〃	球技における戦術行動の実践研究に関する文献講読			配布資料を復習する。（15分）	
3	〃	球技におけるコーチング実践研究に関する文献講読			配布資料を復習する。（15分）	
4	〃	球技における競技運営の実践研究に関する文献講読			配布資料を復習する。（15分）	
5	〃	けがからの回復トレーニングの実践研究に関する文献講読			配布資料を復習する。（15分）	
6	〃	けがを予防するトレーニング方法に関する文献講読			配布資料を復習する。（15分）	
7	〃	体力（跳躍力）を高めるトレーニング方法に関する文献講読			配布資料を復習する。（15分）	
8	〃	体力（瞬発力）を高めるトレーニング方法に関する文献講読 まとめ			小レポート提出（1時間）	
9	〃	指導者、観客の目から見たルールと審判法			バスケットボールのルールと審判法 予習（15分）	
10	〃	バスケットボールの戦術論①オフェンス（速攻法）			配布資料を復習する。（15分）	
11	〃	バスケットボールの戦術論②オフェンス（フリーランス）			配布資料を復習する。（15分）	
12	〃	バスケットボールの戦術論③オフェンス（パターン）			配布資料を復習する。（15分）	
13	〃	バスケットボールの戦術論④ディフェンス（マンツーマン）			配布資料を復習する。（15分）	
14	〃	バスケットボールの戦術論⑤ディフェンス（ゾーン）			配布資料を復習する。（15分）	
15	〃	まとめ			小レポート提出（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講演習 (テニス) (224B1-2313)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	高橋 仁大・村上 俊祐				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	球技ならびにテニスにおけるコーチングを行うために考えるべき原理・原則から、テニスのコーチング学に関する文献講読、映像を活用した技術のコーチング、ゲーム・戦術のコーチングなど、テニスを切り口に球技およびスポーツ全般に関わるコーチング学を展開する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績 (%) ■授業への取り組み状況 (50%) ■レポート等の提出状況 (50%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	講義内での発表状況と発表内容、演習への取組状況や積極性、期末レポートの内容と完成度を評価の基準とする。					
テキスト、教材 参 考 書	The Essentials of Performance Analysis, M. Hughes and I. Franks, Routledge. Routledge Handbook of Sports Performance Analysis, T. McGarry, P. O'Donoghue and J. Sampaio, Routledge 体育・スポーツに分野における実践研究の考え方と論文の書き方、福永哲夫・山本正嘉編、市村出版 コーチング学への招待、日本コーチング学会編、大修館書店 球技のコーチング学、日本コーチング学会編、大修館書店					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)	コンピュータで映像を操作することの基本的技能を備えていることを前提とする。また学内外で開催される各種講習会やセミナーへの参加を奨励する。 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。	
オフィス・アワー	随時 事前にアポイントをとること 高橋 (研究棟8階809教員研究室またはスポーツパフォーマンス研究センター) 村上 (研究棟8階806教員研究室)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高橋 仁大 村上 俊祐	スポーツコーチング学の原理・原則			講義内容の予習と復習 (1時間)	
2	〃	テニスのコーチング学に関する文献講読①			講義内容の予習と復習 (1時間)	
3	〃	テニスのコーチング学に関する文献講読②			講義内容の予習と復習 (1時間)	
4	〃	テニスのコーチング学に関する文献講読③			講義内容の予習と復習 (1時間)	
5	〃	テニスのコーチングにおける映像活用演習 技術指導での活用①			講義内容の予習と復習 (1時間)	
6	〃	テニスのコーチングにおける映像活用演習 技術指導での活用②			講義内容の予習と復習 (1時間)	
7	〃	テニスのコーチングにおける映像活用演習 技術指導での活用③			講義内容の予習と復習 (1時間)	
8	〃	テニスのコーチングにおける映像活用演習 技術指導での活用④			講義内容の予習と復習 (1時間)	
9	〃	テニスのコーチングにおける映像活用演習 ゲーム・戦術指導での活用①			講義内容の予習と復習 (1時間)	
10	〃	テニスのコーチングにおける映像活用演習 ゲーム・戦術指導での活用②			講義内容の予習と復習 (1時間)	
11	〃	テニスのコーチングにおける映像活用演習 ゲーム・戦術指導での活用③			講義内容の予習と復習 (1時間)	
12	〃	テニスのコーチングにおける映像活用演習 ゲーム・戦術指導での活用④			講義内容の予習と復習 (1時間)	
13	〃	スポーツのコーチング学に関する文献講読①			講義内容の予習と復習 (1時間)	
14	〃	スポーツのコーチング学に関する文献講読②			講義内容の予習と復習 (1時間)	
15	〃	スポーツコーチング論の構築に向けて			レポート (2時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講演習（バレーボール） (224B1-2314)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	濱田 幸二・坂中 美郷				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	ボールゲームの研究発展史、国際大会の競技力構造、トレーニングとコーチング、戦術分析、チームマネジメントを基礎理論とし、特にチームゲームの専門的指導理論を検討する。 バレーボールにおける種目特性に応じた技術・戦術のトレーニング、実践的な体力、精神力の強化策をトータルに論じて、現場へのフィードバック法を実際に年齢別（ユース・ジュニア・シニア）、レベル別（初級・中級・上級）にコーチングを行う。 トレーニング計画を企てることが出来、実際に対象者別にコーチングを行うことが出来るようになる。					
成績評価の方法	■学期末試験の成績（30%） ■授業への取り組み状況（40%） ■レポート等の提出状況（30%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	毎回レポート提出と発表（ディスカッション及ディベート）を行い、コーチングに関して演習形式を現場（体育館等）で行い成績評価とする。					
テキスト、教材 参 考 書	G、シューテラー、唐木國彦訳「ボールゲーム辞典」大修館書店 Coaching Playing Volleyball コーチング学研究及びパフォーマンス研究 随時配布					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時：808教員室（濱田）・601教員室（坂中）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	濱田 幸二	ボールゲームの分類と研究発展史			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
2	〃	ボールゲームの国際競技力比較			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
3	〃	ボールゲームの技術・戦術分析と最先端のアナライズ法			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
4	〃	バレーボールのコーチング課題			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
5	〃	バレーボールの技術的・戦術的能力の定義			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
6	坂中 美郷	バレーボールの攻撃力と防御力			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
7	〃	メンタルとフィジカルの強化策			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
8	〃	トレーニングと試合のマネジメント			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
9	〃	目標設定とトレーニング計画			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
10	〃	競技選手の心理的及び身体的測定評価			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
11	濱田 幸二 坂中 美郷	バレーボールのスкауティング、ゲーム分析とその解析			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
12	〃	バレーボールのCoordination調整力のトレーニング			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
13	〃	チームスポーツのコーチングスキル			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
14	〃	球技トレーニングの日本的課題			講義内容の予習と復習・レポート（1時間）	
15	〃	球技種目の発展方向とシュミレーション			総合的レポート作成（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツコーチング学特講演習（海洋スポーツ） (224B1-2315)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	中村 夏実・榮楽 洋光				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	現在、海洋スポーツにおける普及振興の分野では、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。また、競技スポーツの分野では、海上および水上環境であってもテクノロジーを活用したコーチングが可能となってきた。加えて、現在の日本社会において、「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民の海洋への理解を深めるためにも、海洋スポーツ活動や水辺活動に造詣の深い人材が求められている。 本授業では、このような社会的なニーズに応えられる、実践力を養うため、以下の内容を中心に演習を行う。 ○海洋スポーツ種目（セーリング、ローイング）の競技力向上のためのパフォーマンス研究を実践する。 ○海洋スポーツ種目（セーリング、ローイング、スキューバダイビング）の技術向上のための、指導法や安全管理についての問題点を探求する。 ○海洋スポーツ行事・イベントの企画と運営に参画することにより海洋スポーツの意義と課題を考察する。 ○海洋スポーツコーチングに関する国内及び海外の文献講読を行う。 ○海洋スポーツにおける調査・実験研究の方法を実習し、エビデンスを用いたコーチング方法を演習する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み状況については1回の授業で4点（合計60点、第1回オリエンテーション除く）、レポートについては40点で評価し、総点60点以上を合格とする。					
テキスト、教材 参 考 書	海洋スポーツ指導者のための安全ハンドブック他、必要に応じて教材・資料を配付する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	荒天時の対応に備えて、連絡先等の個人情報をお聞きします。 医師により、水中での活動を控えるように指示されている方は、受講前に必ずご相談ください。		
オフィス・アワー	中村・榮楽 随時 事前に海洋スポーツセンター0994-47-2758に電話連絡または natsumi@nifs-k.ac.jp； eiraku@nifs-k.ac.jp にメールをお願いします					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	中村 夏実 榮楽 洋光	オリエンテーション、海洋スポーツ総論			参考書・資料等の復習 (1時間)	
2	〃	総合学習（海洋スポーツ教室・イベントの企画と実際）			天候等により変更あり 参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
3	〃	総合学習（海洋スポーツ教室・イベントの企画と実際）			天候等により変更あり 参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
4	〃	総合学習（海洋スポーツ教室・イベントの企画と実際）			天候等により変更あり	
5	〃	総合学習（海洋スポーツ教室・イベントの企画と実際）			天候等により変更あり 参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
6	〃	総合学習（海洋スポーツ教室・イベントの企画と実際）			天候等により変更あり 参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
7	〃	総合学習（海洋スポーツ教室・イベントの企画と実際）			天候等により変更あり 課題提出（レポート1回目） レポートの作成（2時間）	
8	〃	海洋スポーツに関するコーチングのための文献購読			文献購読および抄録作成（2時間）	
9	〃	海洋スポーツに関するコーチングのための文献購読			文献購読および抄録作成（2時間）	
10	〃	海洋スポーツに関するコーチングのためのデータ収集・分析			天候により変更あり 機器操作方法の自主練習や授業内で収集したデータの整理（2時間）	
11	〃	海洋スポーツに関するコーチングのためのデータ収集・分析			天候により変更あり 機器操作方法の自主練習や授業内で収集したデータの整理（2時間）	
12	〃	海洋スポーツに関するコーチングのための文献購読			文献購読および抄録作成（2時間）	
13	〃	海洋スポーツに関するコーチングのための文献購読			文献購読および抄録作成（2時間）	
14	〃	海洋スポーツに関するコーチングのためのデータ収集・分析			天候により変更あり 機器操作方法の自主練習や授業内で収集したデータの整理（2時間）	
15	〃	海洋スポーツに関するコーチングのためのデータ収集・分析			天候により変更あり 機器操作方法の自主練習や授業内で収集したデータの整理（2時間）	
16	〃	まとめ			課題提出（レポート2回目） レポートの作成（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道指導論特講演習（剣道） (224B1-2316)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	前阪 茂樹・竹中 健太郎				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	剣道に関する文献・資料・映像などを分析し、技術の構造についての講義及び演習を進める。その中で、剣道の持つ歴史性・文化的特性・求道性・競技性などを俯瞰しながら、剣道の持つ教育的特性を考究し、それに関する高度な専門知識・技術・指導の教育研究能力を身につけることを目標とする。					
成績評価の方法	■授業への取り組み状況（80％） ■レポート等の提出状況（20％）					
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	近代剣道名著大系全集（同朋舎出版） 近代剣道書選集(本の友社) 武道学研究（日本武道学会）					
履修条件・ 関連科目	内容がより専門的になるため、剣道有段者・修行者に限る。			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	随時：506研究室（前阪）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	前阪 茂樹	イントロダクション 剣道史の俯瞰			授業の振り返り（30分）	
2	〃	打突技術の構造論1			授業の振り返り（30分）	
3	〃	打突技術の構造論1（発表と討議）			レポート1作成（2時間）	
4	竹中 健太郎	打突技術の構造論2			授業の振り返り（30分）	
5	〃	打突技術の構造論2（発表と討議）			レポート2作成（2時間）	
6	〃	現代剣道の稽古論			授業の振り返り（30分）	
7	〃	現代剣道の稽古論（発表と討議）			レポート3作成（2時間）	
8	〃	現代剣道の文化性と競技性について			授業の振り返り（30分）	
9	〃	応用技能実践演習1			対人稽古1時間	
10	〃	応用技能実践演習2			対人稽古1時間	
11	前阪 茂樹	剣道形実践演習1			形稽古1時間	
12	〃	剣道形実践演習2			形稽古1時間	
13	〃	剣道形実践演習3			形稽古1時間	
14	〃	日本刀及び模擬刀の取り扱いに関する講義と演習			レポート作成（2時間）	
15	〃	授業の総括と討論形式での評価				

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道指導論特講演習（柔道） (224B1-2317)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)	
担当教員名	小澤 雄二				補助担当者名		
単位数	2 単位		履修年次	－		受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	武道（柔道）の指導に必要な理論について、柔道論、指導方法論、技術論、心理学、体力トレーニング学、スポーツ医学等の各側面から演習し理解を深める。						
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） □出席状況（％） □授業への取り組み状況（70％） □レポート等の提出状況（30％） を総合的に評価する。						
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に評価する。						
テキスト、教材 参 考 書	随時資料を配布する。						
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	授業の進捗状況によって、内容の変更もある。			
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 502研究室（小澤）						
授業計画							
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	小澤 雄二	オリエンテーション：演習の進め方、評価の仕方等			予習30分		
2	〃	柔道論①			予習復習30～60分		
3	〃	柔道論②			予習復習30～60分		
4	〃	柔道の指導方法論①			予習復習30～60分		
5	〃	柔道の指導方法論②			予習復習30～60分		
6	〃	柔道の心理学①			予習復習30～60分		
7	〃	柔道の心理学②			予習復習30～60分		
8	〃	柔道の技術論①			予習復習30～60分		
9	〃	柔道の技術論②			予習復習30～60分		
10	〃	柔道の体力トレーニング学①			予習復習30～60分		
11	〃	柔道の体力トレーニング学②			予習復習30～60分		
12	〃	柔道のスポーツ医学①			予習復習30～60分		
13	〃	柔道のスポーツ医学②			予習復習30～60分		
14	〃	発表①			発表の準備60分以上		
15	〃	発表②			発表の準備60分以上		

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツパフォーマンス学特講演習 (224B1-2318)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	高橋 仁大・前田 明・金高 宏文・竹中 健太郎・藤井 雅文・山口 大貴				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	スポーツパフォーマンス学とは何かを理解し、自身でも論文の作成ができるようになるための方法論を学ぶ。当該研究の発表の場である『スポーツパフォーマンス研究』に掲載された過去の論文をふまえ、実際にスポーツパフォーマンスの測定・調査や分析を行い、自身のデータをもとに実践研究の論文としてまとめる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への積極的な参加態度および実践研究論文の達成度から総合的に評価する。『スポーツパフォーマンス研究』をはじめとする実践的な研究論文を掲載する雑誌への執筆・投稿を目指し、成果があればそれも評価に加える。					
テキスト、教材 参 考 書	テキスト：『体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方』福永哲夫・山本正嘉編著、市村出版（2018） 参考書：『アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学』山本著（市村出版、2021）、『スポーツパフォーマンス研究』（http://www.sports-performance.jp/）にこれまでに掲載された研究論文					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	随時 事前にアポイントをとること 高橋（研究棟8階809教員研究室またはスポーツパフォーマンス研究センター） 金高（大学院棟3階 4教員室） 竹中（研究棟5階507教員研究室） 藤井（研究棟8階804教員研究室） 山口（研究棟8階803教員研究室） 前田（研究棟4階405教員研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高橋 仁大	実践研究における論文執筆のオリエンテーション			授業内容の予習と復習（60分）	
2	金高 宏文 山口 大貴	実践研究の論文テーマを検討する①			授業の振り返りとテーマの検討・プレゼン用意（60分）	
3	〃	実践研究の論文テーマを検討する②			授業の振り返りとテーマの検討とプレゼン用意（60分）	
4	〃	実践研究の論文テーマを検討する③			授業の振り返りとテーマの整理（60分）	
5	山口 大貴	実践研究の論文構成を検討する①			授業内容の予習と復習（60分）	
6	〃	実践研究の論文構成を検討する②			授業内容の予習と復習（60分）	
7	〃	実践研究の論文構成を検討する③			授業内容の予習と復習（60分）	
8	高橋 仁大 前田 明 金高 宏文 竹中 健太郎 藤井 雅文 山口 大貴	中間発表会			中間発表の準備(予習)と復習（60分）	
9	竹中 健太郎 藤井 雅文	実践研究のデータを測定・分析する①			授業内容の予習と復習（60分）	
10	〃	実践研究のデータを測定・分析する②			授業内容の予習と復習（60分）	
11	〃	実践研究のデータを測定・分析する③			授業内容の予習と復習（60分）	
12	藤井 雅文	実践研究成果のまとめ①			授業の振り返りとテーマの検討・プレゼン用意（60分）	
13	〃	実践研究成果のまとめ②			授業の振り返りとテーマの検討・プレゼン用意（60分）	
14	〃	実践研究成果のまとめ③ 最終発表準備			プレゼンテーションの作成（60分）	
15	高橋 仁大 前田 明 金高 宏文 竹中 健太郎 藤井 雅文 山口 大貴	最終発表会			最終発表の準備（予習）と復習（60分）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学特講演習【夜間】		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	高井 洋平・山本 正嘉				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	トレーニング科学領域の学術論文に基づき、先行研究において採用されている実験デザイン、データの取得と分析の方法およびその解釈について、プレゼンテーションおよびディスカッションを繰り返しながら、研究成果を公表する能力の向上をめざす。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） □出席状況（％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み、発表要旨・プレゼンテーションの内容とその「できばえ」、ディスカッションへの参加および質疑応答の的確さ等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	国内外の学会誌等に掲載されているトレーニング科学領域の関連論文 山本：山本正嘉 著「アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学」（市村出版）をテキストとして用いる。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 (山本：スポーツトレーニング教育研究センター2階・センター長室、yamamoto@nifs-k.ac.jp) (高井：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高井 洋平 山本 正嘉	オリエンテーション			資料等の復習および予習（1時間）	
2	〃	トレーニングプログラム立案の原理・原則①			資料等の復習および予習（1時間）	
3	〃	トレーニングプログラム立案の原理・原則②			資料等の復習および予習（1時間）	
4	〃	実験デザイン①身体組成のトレーニング			資料等の復習および予習（1時間）	
5	〃	実験デザイン②呼吸循環機能のトレーニング			資料等の復習および予習（1時間）	
6	〃	実験デザイン③筋機能のトレーニング			資料等の復習および予習（1時間）	
7	〃	実験デザイン④運動機能のトレーニング			資料等の復習および予習（1時間）	
8	〃	実験デザイン⑤複合的トレーニング			資料等の復習および予習（1時間）	
9	〃	実験デザイン⑥ピリオダイゼーションの応用			資料等の復習および予習（1時間）	
10	〃	データの取得・分析①身体組成			資料等の復習および予習（1時間）	
11	〃	データの取得・分析②呼吸循環機能・柔軟性			資料等の復習および予習（1時間）	
12	〃	データの取得・分析③筋機能・運動機能			資料等の復習および予習（1時間）	
13	〃	データのまとめと論文の構成①			資料等の復習および予習（1時間）	
14	〃	データのまとめと論文の構成②			資料等の復習および予習（1時間）	
15	〃	データのまとめと論文の構成②			資料等の復習および予習（1時間）	
16	〃	試験は実施しない				

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特講演習【夜間】		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	永原 隆・下川 美佳・村田 憲亮				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	コーチングの概念や必要となる知識・理論について確認し、武道・陸上・体操競技のコーチングにおける理論と実際を例として学ぶことで、幅広いコーチングの知識や理論、問題点を理解するとともに、多角的なコーチング実践能力に必要な基礎を身に付ける。また、自身が受けたコーチング経験や自身のコーチング実践を振り返り、考察することで、高度なコーチング実践能力の獲得を目指す。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	講義内での発表状況と発表内容、演習への取組状況や積極性、課題の内容と完成度を評価の基準とする。					
テキスト、教材 参 考 書	その都度、教員または受講生が準備する。必要とする参考資料は随時紹介、配布する。詳しい資料は「WebClass」より授業後にダウンロードすること。 参考図書として「Reference Book(日本印刷株式会社、@4,000円)」					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 永原：随時 大学院棟3階 教員室1 下川：随時 研究棟 5F 505教員研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	永原 隆 下川 美佳	オリエンテーション				
2	〃	コーチングを理解する			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
3	〃	グッドコーチに求められる匠・科学的知識			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
4	〃	現場・環境に応じたコーチング			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
5	〃	武道のコーチングにおける理論と実際①			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
6	〃	武道のコーチングにおける理論と実際②			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
7	〃	武道のコーチングにおける理論と実際③			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
8	〃	陸上競技のコーチングにおける理論と実際①			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
9	〃	陸上競技のコーチングにおける理論と実際②			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
10	〃	陸上競技のコーチングにおける理論と実際③			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
11	〃	体操競技のコーチングにおける理論と実際①			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
12	〃	体操競技のコーチングにおける理論と実際②			予習(授業内容に関する自身の意見をまとめる・30分)	
13	〃	体操競技のコーチングにおける理論と実際③			発表資料作成および準備(60分)	
14	〃	コーチング実践に向けたディスカッション			発表資料作成および準備(60分)	
15	〃	補足とまとめ			授業の振り返りと総括レポートの作成(60分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ史・運動文化論特講演習 (225B3-2300)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	山田 理恵・中村 勇				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	演習形式で行われる本授業では、スポーツ史研究および近接分野のスポーツ文化人類学的研究に関連する国内外の著名な文献を講読し、問題の設定、史料収集と吟味、現地調査、叙述の進め方など、スポーツ史研究の方法と、近接分野の研究手法の援用法を修得する。 それらによって、スポーツの歴史学的研究、運動文化論的研究の方法論および専門的知識を身につけることができる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70%） ■レポート等の提出状況（30%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	随時課す課題および発表の成績、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書：阿部生雄・山田理恵他編「多様な身体への目覚め－身体訓練の歴史に学ぶ－」（アイオーエム、2006年） その他の参考書は適宜紹介する。必要に応じて資料を配付する。					
履修条件・ 関連科目	随時課す課題および発表の成績、授業に対する積極的な 取り組み方等を総合的に評価する。			備考(教員メッ セージ含む)	「スポーツ史・運動文化論特講」と併せて受講することが望ましい。	
オフィス・アワー	山田：随時（705研究室） 中村：随時（503研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	山田 理恵	スポーツ史研究の現状			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
2	〃	日本語文献・史料の調査・収集			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
3	〃	外国語文献・史料の調査・収集			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
4	〃	史料の吟味と叙述の進め方			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
5	〃	日本のスポーツ史研究に関連する学術書・学術論文の講読・討論①			参考書・資料等の予習および復習（240分以上）	
6	中村 勇	日本のスポーツ史研究に関連する学術書・学術論文の講読・討論②			参考書・資料等の予習および復習（240分以上）	
7	山田 理恵	外国のスポーツ史研究に関連する学術書・学術論文の講読・討論			参考書・資料等の予習および復習（240分以上）	
8	〃	スポーツ文化人類学的研究に関連する学術書・学術論文の講読・討論			参考書・資料等の予習および復習（240分以上）	
9	〃	現地調査と資料収集①			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
10	〃	現地調査と資料収集②			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
11	〃	研究実践のプレゼンテーション①			参考書・資料等の予習、プレゼンテーションの準備、復習（240分以上）	
12	〃	研究実践のプレゼンテーション②			参考書・資料等の予習、プレゼンテーションの準備、復習（240分以上）	
13	中村 勇	研究実践のプレゼンテーション③			参考書・資料等の予習、プレゼンテーションの準備、復習（240分以上）	
14	〃	研究実践のプレゼンテーション④			参考書・資料等の予習、プレゼンテーションの準備、復習（240分以上）	
15	山田 理恵	総括：スポーツ史研究の展望			参考書・資料等の予習および復習、まとめ（40分以上）	
16	〃	学期末試験は行わない。				

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道論特講演習 (225B1-2301)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	前阪 茂樹				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	日本の伝統文化である武道について、その理念や普遍性、修練の構造などの諸特性を前提に、武道のもつ様々な側面を演習形式で討議する。それによって武道の持つ文化的側面に関する高度な知識と研究の方法を追求し、学ぶことを目標とする。					
成績評価の方法	■授業への取り組み状況 (80%) ■レポート等の提出状況 (20%)					
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に判断、評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	事前に読んでおく参考書、文献等：武道学研究（日本武道学会）、今村嘉雄 編集『日本武道大系』（同朋舎）他、その都度提供する。					
履修条件・ 関連科目	武道の経験を有する者が望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	随時：506研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	前阪 茂樹	ガイダンス、授業の進め方			予習約30分	
2	”	武道修練の構造「稽古」と「練習」			復習及び発表レポートの作成（約2時間）	
3	”	発表・討論			予習約30分	
4	”	武道修練の構造「守破離」			復習及び発表レポートの作成（約2時間）	
5	”	発表・討論			予習約30分	
6	”	武道修練の構造「三磨之位」と「聞思修」			復習及び発表レポートの作成（約2時間）	
7	”	発表・討論			予習約30分	
8	”	武道修練の構造「事」と「理」			復習及び発表レポートの作成（約2時間）	
9	”	発表・討論			予習約30分	
10	”	稽古論 日本文化と「かた」			復習及び発表レポートの作成（約2時間）	
11	”	発表・討論			予習約30分	
12	”	武道学研究の動向その1 文献レビュー				
13	”	武道学研究の動向その2 文献レビュー				
14	”	武道用具（武具・刀剣類）と施設（道場）について			レポート作成（約1時間）	
15	”	本授業の総括（討論形式での振り返り）				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ法・倫理特講演習 (225B3-2302)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	森 克己				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	この演習では、スポーツにおける法的・倫理的問題であるスポーツ指導者による子どもへの体罰・虐待問題について取り上げ、日本における体罰の判例研究、英語文献の講読により考察する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業での発表状況、毎回の授業時に課されるレポートの取組状況を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書：(1)Paulo David., Human Rights in Youth Sport: A critical review of children’ s rights in competitive sports, Routledge, 2005 (2)UNICEFF,PROTECTING CHILDREN FROM VIOLENCE IN SPORT－A REVIEW WITH A FOCUS ON INDUSTRIALIZED COUNTRIES, 2010					
履修条件・ 関連科目	スポーツ指導者による体罰・虐待問題に関心があり、英語文献を講読するための英語力を備えていることが望まれます。		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 克己	全体のオリエンテーション：演習の進め方、評価の仕方など			履修要項・シラバスの予習（10分以上）	
2	”	体罰の判例研究①			体罰に関する判例の資料の予習（30分以上）	
3	”	体罰の判例研究②			体罰に関する判例の資料の予習・復習（30分以上）	
4	”	体罰の判例研究③			体罰に関する判例の資料の予習・復習（30分以上）	
5	”	体罰の判例研究④			体罰に関する判例の資料の予習・復習（30分以上）	
6	”	競争的スポーツにおける子どもの人権に関する文献の講読①			Paulo Davidの本の予習（30分以上）	
7	”	競争的スポーツにおける子どもの人権に関する文献の講読②			Paulo Davidの本の予習（30分以上）	
8	”	競争的スポーツにおける子どもの人権に関する文献の講読③			Paulo Davidの本の予習（30分以上）	
9	”	競争的スポーツにおける子どもの人権に関する文献の講読④			Paulo Davidの本の予習（30分以上）	
10	”	競争的スポーツにおける子どもの人権に関する文献の講読⑤			Paulo Davidの本の予習（30分以上）	
11	”	ユニセフ報告書の講読①			ユニセフ報告書の予習（30分以上）	
12	”	ユニセフ報告書の講読②			ユニセフ報告書の予習・復習（30分以上）	
13	”	ユニセフ報告書の講読③			ユニセフ報告書の予習・復習（30分以上）	
14	”	ユニセフ報告書の講読④			ユニセフ報告書の予習・復習（30分以上）	
15	”	ユニセフ報告書の講読⑤			ユニセフ報告書の予習・復習（30分以上）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ学特講演習 (225B3-2303)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	前田 博子・北村 尚浩				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	生涯スポーツについての研究方法論について総合的に考究する。具体的には、生涯スポーツに関することについての研究論文・文献の抄読発表会を行い、今後の生涯スポーツ振興政策や健康づくりに関した研究法の習得を目標とする。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70%） ■レポート等の提出状況（30%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業時の課題発表とレポートを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	授業時配布の各種資料					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	前田：6 0 6 研究室、北村：6 1 0 研究室 （随時）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	前田 博子 北村 尚浩	生涯スポーツ政策・クラブ・スポーツ行動・マネジメントに関する論文・文献紹介 (1)			シラバスによる予習（1時間）講義内容の復習（1時間）	
2	”	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
3	”	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
4	”	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
5	”	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
6	”	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
7	”	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
8	”	生涯スポーツ政策・クラブ・スポーツ行動・マネジメントに関する論文・文献紹介 (2)			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
9	”	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
10	”	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
11	”	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
12	”	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
13	”	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
14	”	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
15	”	まとめ・定期レポート作成			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	野外教育論特講演習 (225B3-2304)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	坂口 俊哉				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	野外教育の中でのアクティビティーとして取り上げられる様々なアウトドア・スポーツに焦点を当てた人文・社会科学系の研究トピックについて紹介する。 文化・経済・環境・ツーリズムなど様々な研究トピックを取り上げる。また、各国の統計調査、白書データと二次データの収集と分析について紹介する。 授業の後半では野外教育の成果を評価する方法について実践的作業を行う。					
成績評価の方法	最終プレゼンテーション（20％） 授業への取り組み状況（40％） レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業での発表内容、配布資料の作成内容などについて総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じてプリントを配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時、事前にメールでアポイントを取ることをお勧めします。 E-mail:tsakaguc@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	坂口 俊哉	ガイダンス			アウトドア・スポーツ、レジャー、レクリエーション関連雑誌のタイトルを確認。リストを作成して提出。（60分）	
2	〃	アウトドア・スポーツ、レジャー、レクリエーション関連ジャーナルの論文収集			担当分野の論文収集、情報共有作業（60分）	
3	〃	文献抄読①			担当者発表①発表準備作業（120分）	
4	〃	文献抄読②			担当者発表②発表準備作業（120分）	
5	〃	文献抄読③			担当者発表③発表準備作業（120分）	
6	〃	文献抄読④			担当者発表④発表準備作業（120分）	
7	〃	文献抄読⑤			担当者発表⑤発表準備作業（120分）	
8	〃	レジャー・レクリエーション研究の目的と方法①目的とデータ収集			レジャー・レクリエーション研究の目的を、指定されたキーワードに基づいてヒットした研究について整理する（120分）	
9	〃	レジャー・レクリエーション研究の目的と方法②データの収集と分析手法			レジャー・レクリエーション研究のデータ収集方法を、指定されたキーワードに基づいてヒットした研究について整理する（120分）	
10	〃	レジャー・レクリエーション研究の目的と方法③分析結果の示し方			レジャー・レクリエーション研究の分析方法を、指定されたキーワードに基づいてヒットした研究について整理する（120分）	
11	〃	レジャー・レクリエーションの企画と実践①			組織化されたレジャー・レクリエーションプログラムやサービスについて詳細な情報を収集すること（60分）	
12	〃	野外教育の企画と実践②			組織化されたレジャー・レクリエーションプログラムやサービスについて詳細な情報を収集すること（60分）	
13	〃	野外教育の企画と実践③			組織化されたレジャー・レクリエーションプログラムやサービスについて詳細な情報を収集すること（60分）	
14	〃	野外教育の企画と実践④			組織化されたレジャー・レクリエーションプログラムやサービスについて詳細な情報を収集すること（60分）	
15	〃	野外教育の企画と実践⑤			組織化されたレジャー・レクリエーションプログラムやサービスについて詳細な情報を収集すること（60分）	
16	〃	実践例の評価レポートとプレゼンテーション			ツーリズムの視点から、大隅地域のレジャー・レクリエーション・プログラムのSWOT分析を行い、その結果をプレゼンテーションする準備を行うこと（120分）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ社会学特講演習 (225B3-2305)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	北村 尚浩				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	スポーツ社会学研究法について、これまでの研究成果について概観し、特に、調査研究と文献的研究法の諸外国や日本の研究課題と展望を考究する。 社会学的研究法の基礎を学ぶとともに、その研究法の現状と課題を習得する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出及び授業への取り組みを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	随時提供する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	北村：610研究室（要アポイントメント）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	北村 尚浩	スポーツ社会学的研究の必要性			文献抄読（1時間）	
2	〃	スポーツ行動研究			文献抄読（1時間）	
3	〃	スポーツ集団研究			文献抄読（1時間）	
4	〃	ライフスタイル研究			文献抄読（1時間）	
5	〃	QOL研究			文献抄読（1時間）	
6	〃	Aging研究			文献抄読（1時間）	
7	〃	プレゼンテーション			発表準備（1時間以上）	
8	〃	文献資料研究の方法と課題			文献抄読（1時間）	
9	〃	社会学的研究におけるスポーツ文化研究の方法			文献抄読（1時間）	
10	〃	社会学的研究におけるスポーツ社会史研究の方法			文献抄読（1時間）	
11	〃	日本のスポーツ社会文化研究の動向と課題			文献抄読（1時間）	
12	〃	諸外国のスポーツ社会文化研究と課題			文献抄読（1時間）	
13	〃	社会学的研究における事例研究調査Ⅰ			文献抄読（1時間）	
14	〃	社会学的研究における事例研究調査Ⅱ			文献抄読（1時間）	
15	〃	プレゼンテーション			発表準備（1時間以上）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コミュニティ・スポーツ論特講演習 (225B3-2306)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	前田 博子				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	コミュニティにおけるスポーツクラブを対象として演習を進める。 受講生は、まずコミュニティ・スポーツクラブの概要を理解する。 さらに、具体的な事例を見出し、それについて事例報告を行う。 各自の報告から、その現状を知り、課題を発見し、理解を深めていく。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	各回の授業で発表者を指定する。指定された回に作成した資料の出来栄と発表の状態に50点、その他の回での受講態度および議論への参加状況とその内容に対して50点を配分する。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜文献を指定もしくは配布する					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時（606研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	前田 博子	授業の概要、発表のための資料作成等の方法、発表の方法と参加方法			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
2	〃	コミュニティ・スポーツクラブについての文献を読む			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
3	〃	コミュニティ・スポーツクラブについての文献を読む			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
4	〃	コミュニティ・スポーツクラブについての文献を読む			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
5	〃	コミュニティ・スポーツクラブの概要報告①			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
6	〃	コミュニティ・スポーツクラブの概要報告②			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
7	〃	コミュニティ・スポーツクラブの概要報告③			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
8	〃	コミュニティ・スポーツクラブの概要報告④			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
9	〃	コミュニティ・スポーツクラブの概要報告⑤			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
10	〃	コミュニティ・スポーツクラブの現状と課題報告①			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
11	〃	コミュニティ・スポーツクラブの現状と課題報告②			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
12	〃	コミュニティ・スポーツクラブの現状と課題報告③			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
13	〃	コミュニティ・スポーツクラブの現状と課題報告④			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
14	〃	コミュニティ・スポーツクラブの現状と課題報告⑤			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
15	〃	全体のまとめ			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツマネジメント論特講演習 (225B3-2307)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	関 朋昭・隅野 美砂輝				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	スポーツマネジメント論特講等で学習した理論や内容を基礎に、スポーツ経営やマーケティングに関する実践的な事例を扱う。実際のスポーツ経営関係の研究テーマ・内容・方法を含めた現代のスポーツ経営の課題発見、また消費行動から戦略を含めたマーケティング事例の研究を行う。また、スポーツに関する事象を行動学、経済学、経営哲学における様々な理論や分析方法を使って解明していく。授業を通してスポーツ経営に関する研究課題を見付け出し、調査・研究方法を実践し、一つの課題に関する研究方法を習得する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（80%） ■レポート等の提出状況（20%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記評価の他、授業時間内の課題発表なども入れて総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	その都度指示する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	関：604教員室 隅野：501教員室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	隅野 美砂輝	オリエンテーション				
2	〃	スポーツマネジメントとスポーツマーケティング（基礎の振り返りと応用）			予習1時間、復習1時間	
3	〃	プロスポーツにおけるマーケットリサーチ			予習1時間、復習1時間	
4	〃	プロスポーツと消費者行動			予習1時間、復習1時間	
5	〃	プロスポーツにおける消費者行動研究1			予習1時間、復習1時間	
6	〃	プロスポーツにおける消費者行動研究2			予習1時間、復習1時間	
7	〃	プロスポーツにおける消費者行動研究3			予習1時間、復習1時間	
8	〃	プロスポーツにおける消費者行動研究4			予習1時間、復習1時間	
9	関 朋昭	知識経営に関する演習			予習1時間、復習1時間	
10	〃	意思決定に関する演習			予習1時間、復習1時間	
11	〃	人的資源を活用した演習			予習1時間、復習1時間	
12	〃	情報を活用した演習			予習1時間、復習1時間	
13	〃	スポーツの価値に関する演習			予習1時間、復習1時間	
14	〃	スポーツの原理に関する演習			予習1時間、復習1時間	
15	〃	スポーツの可能性に関する演習			予習1時間、復習1時間	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ史・運動文化論特講演習【夜間】		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	山田 理恵・森 克己・真田 久				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	演習形式で行われる本授業では、スポーツの歴史学、歴史人類学研究に関する文献を購読してその研究方法を修得するとともに、フィールドワークを行う。 それらによって、スポーツの歴史学的、歴史人類学的研究の方法論および専門的知識を身につけることができる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70%） ■レポート等の提出状況（30%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	随時課す課題および発表の成績、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書：寒川恒夫『遊びの歴史民族学』（明和出版、2003） その他の参考文献は適宜紹介する。必要に応じて資料を配布する。					
履修条件・ 関連科目	「スポーツ史・運動文化論特講【夜間】」とあわせて受講 することが望ましい。			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	真田：山田を通して調整 山田：随時（705研究室） 森 ：随時（506研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	真田 久	スポーツ歴史人類学の研究方法			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
2	〃	スポーツ歴史人類学の研究文献の購読①			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
3	〃	スポーツ歴史人類学の研究文献の購読②			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
4	〃	スポーツ歴史人類学の研究文献の購読③			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
5	山田 理恵	スポーツ歴史人類学の研究文献の購読④			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
6	森 克己	スポーツ歴史人類学の研究文献の購読⑤			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
7	〃	スポーツ歴史人類学の研究文献の購読⑥			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
8	〃	スポーツ歴史人類学の研究文献の購読⑦			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
9	真田 久	民族スポーツの歴史人類学的研究文献の購読①			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
10	山田 理恵	民族スポーツの歴史人類学的研究文献の購読②			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
11	〃	民族スポーツの歴史人類学的研究文献の購読③			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
12	真田 久	民族スポーツのフィールドワーク①			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
13	〃	民族スポーツのフィールドワーク②			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
14	山田 理恵	民族スポーツのフィールドワーク③			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
15	〃	まとめ			参考書・資料等の予習および復習、まとめ（40分以上）	
16	〃	学期末試験は行わない。				

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ学特講演習【夜間】		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	前田 博子・北村 尚浩・宮地 元彦				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	生涯スポーツについての研究方法論について総合的に考究する。具体的には、生涯スポーツに関することについての研究論文・文献の抄読発表会を行い、今後の生涯スポーツ振興政策や健康づくりに関した研究法の習得を目標とする。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業時の課題発表とレポート内容を評価。					
テキスト、教材 参 考 書	授業時配布の各種資料					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	前田：研究棟6階 606研究室（予約制） 前田：研究棟6階 610研究室（予約制）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	前田 博子 北村 尚浩	生涯スポーツ政策・クラブ・スポーツ行動・マネジメントに関する論文・文献紹介			シラバスによる予習（1時間）講義内容の復習（1時間）	
2	〃	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
3	〃	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
4	〃	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
5	〃	文献レビューの方法と評価			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
6	宮地 元彦	生涯スポーツ研究課題の設定			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
7	〃	既存統計を活用の実際			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
8	〃	システマティックレビューの方法と実際			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
9	〃	論文文献抄読			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
10	〃	論文文献抄読			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
11	〃	論文文献抄読			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
12	〃	メタ解析の方法と実際			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
13	〃	メタ解析演習			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
14	〃	メタ解析演習			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
15	〃	発表演習			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	
16	〃	総括			課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ社会学特講演習【夜間】		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	北村 尚浩				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	スポーツ社会学研究法について、これまでの研究成果について概観し、特に、調査研究と文献的研究法の諸外国や日本の研究課題と展望を考究する。 社会学的研究法の基礎を学ぶとともに、その研究法の現状と課題を習得する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出及び授業への取り組みを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	随時提供する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	北村：610研究室（要アポイントメント）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	北村 尚浩	スポーツ社会学的研究の必要性			文献抄読（1時間）	
2	〃	スポーツ行動研究			文献抄読（1時間）	
3	〃	スポーツ集団研究			文献抄読（1時間）	
4	〃	ライフスタイル研究			文献抄読（1時間）	
5	〃	QOL研究			文献抄読（1時間）	
6	〃	Aging研究			文献抄読（1時間）	
7	〃	プレゼンテーション			発表準備（1時間以上）	
8	〃	文献資料研究の方法と課題			文献抄読（1時間）	
9	〃	社会学的研究におけるスポーツ文化研究の方法			文献抄読（1時間）	
10	〃	社会学的研究におけるスポーツ社会史研究の方法			文献抄読（1時間）	
11	〃	日本のスポーツ社会文化研究の動向と課題			文献抄読（1時間）	
12	〃	諸外国のスポーツ社会文化研究と課題			文献抄読（1時間）	
13	〃	社会学的研究における事例研究調査Ⅰ			文献抄読（1時間）	
14	〃	社会学的研究における事例研究調査Ⅱ			文献抄読（1時間）	
15	〃	プレゼンテーション			発表準備（1時間以上）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツマネジメント論特講演習【夜間】		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	関 朋昭・隅野 美砂輝				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	スポーツマネジメント論特講等で学習した理論や内容を基礎に、スポーツ経営やマーケティングに関する実践的な事例を扱う。実際のスポーツ経営関係の研究テーマ・内容・方法を含めた現代のスポーツ経営の課題発見、また消費行動から戦略を含めたマーケティング事例の研究を行う。また、スポーツに関する事象を行動学、経済学、経営哲学における様々な理論や分析方法を使って解明していく。授業を通してスポーツ経営に関する研究課題を見付け出し、調査・研究方法を実践し、一つの課題に関する研究方法を習得する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（80%） ■レポート等の提出状況（20%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記評価の他、授業時間内の課題発表なども入れて総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	その都度指示する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	関：604教室 隅野：501教員室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	隅野 美砂輝	オリエンテーション				
2	〃	スポーツマネジメントとスポーツマーケティング（基礎の振り返りと応用）			予習1時間、復習1時間	
3	〃	プロスポーツにおけるマーケットリサーチ			予習1時間、復習1時間	
4	〃	プロスポーツと消費者行動			予習1時間、復習1時間	
5	〃	プロスポーツにおける消費者行動研究1			予習1時間、復習1時間	
6	〃	プロスポーツにおける消費者行動研究2			予習1時間、復習1時間	
7	〃	プロスポーツにおける消費者行動研究3			予習1時間、復習1時間	
8	〃	プロスポーツにおける消費者行動研究4			予習1時間、復習1時間	
9	関 朋昭	知識経営に関する演習			予習1時間、復習1時間	
10	〃	意思決定に関する演習			予習1時間、復習1時間	
11	〃	人的資源を活用した演習			予習1時間、復習1時間	
12	〃	情報を活用した演習			予習1時間、復習1時間	
13	〃	スポーツの価値に関する演習			予習1時間、復習1時間	
14	〃	スポーツの原理に関する演習			予習1時間、復習1時間	
15	〃	スポーツの可能性に関する演習			予習1時間、復習1時間	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ心理学特講演習 (226B3-2300)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	森 司朗				補助担当者名	亀井 誠生
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	体育・スポーツ場面における運動のメカニズムに関して、スポーツ心理学の研究法を用いて、明らかにしていく方略を学習する。研究テーマに関する論文を読み、実験計画を立て、実験を行い、結果の分析考察を行い、最終的にはその研究結果に関してプレゼンテーションを行なうことを課題とする。 授業は実験・演習形式で授業で行なう。 本演習の達成目標はスポーツ心理学における基礎的な実験方法を理解・習得することである。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40%） ■レポート等の提出状況（60%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	スポーツ心理学研究法の考え方の理解と実践能力の程度及び結果の分析、プレゼンテーション能力を評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	適時配布予定					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時：702研究室、体育心理学実験室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗	オリエンテーション			文献講読予習（1時間）	
2	〃	スポーツ心理学に関する文献講読 1			文献講読予習（1時間）	
3	〃	スポーツ心理学に関する文献講読 2			文献講読予習（1時間）	
4	〃	スポーツ心理学に関する文献講読 3			文献講読予習（1時間）	
5	〃	実験計画の作成 1			実験計画書の作成（1時間）	
6	〃	実験計画の作成 2			実験計画書の修正（1時間）	
7	〃	予備実験（実験方法の確認）			予備実験の結果のまとめレポート（1時間）	
8	〃	本実験 1			実験記録のまとめ（1時間）	
9	〃	本実験 2			実験記録のまとめ（1時間）	
10	〃	本実験 3			実験記録のまとめ（1時間）	
11	〃	結果の分析 1			結果のまとめ（1時間）	
12	〃	結果の分析 2			結果のまとめ（1時間）	
13	〃	考察1(結果に関する討論)			考察のまとめ（1時間）	
14	〃	考察2（討論のまとめ・プレゼンテーションの内容確認）			プレゼンテーションの作成（1時間）	
15	〃	プレゼンテーション			実験のまとめのレポート作成（1時間）	
16	〃	レポート提出				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ医科学特講演習 (226B2-2301)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	安田 修・廣津 匡隆				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	運動が心肺機能や自律神経に及ぼす影響を心電図, 超音波装置, 心肺機能測定装置などを実際に用いて学ぶ。(双方型)					
成績評価の方法	□学期末試験の成績(%) ■授業への取り組み状況(80%) ■レポート等の提出状況(20%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記を合計して判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	特になし(その都度プリントを渡す。)					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	火曜日 10時～11時30分 保健管理センター					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	安田 修 廣津 匡隆	安静時心電図:お互いの心電図を実際に記録する。			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
2	〃	運動負荷心電図:トレッドミルを用いる。記録及び解析			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
3	〃	ホルター心電図 1:機器の取り扱いの説明及びホルターの装着 ホルター心電図 2:記録及び解析			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
4	〃	ベクトル心電図:PREDICTOR IIを用いて記録及び解析			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
5	〃	ヒス心電図:PREDICTOR IIを用いて記録及び解析			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
6	〃	体表面電位図:PREDICTOR IIを用いて記録及び解析(レートポテンシャルの有無など)			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
7	〃	自律神経機能検査 1:R-R間隔変動係数を用いる。 自律神経機能検査 2:PREDICTOR IIによるR-R間隔のスペクトル解析(LF/HF)			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
8	〃	自律神経機能検査 3:ダイビング反射試験のR-R間隔変動について検討する。			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
9	〃	自律神経機能検査 4:運動及び自律訓練のR-R間隔変動係数への影響を検討する。			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
10	〃	心エコー図 1:お互いの心エコー図をMモード法を用いて記録			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
11	〃	心エコー図 2:お互いの心エコー図を断層法を用いて記録			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
12	〃	心エコー図 3:お互いの左室流入血量などをドップラー法を用いて記録			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
13	〃	頸動脈エコー図 1:ドップラー法を用いて血流を測定する。 上腕動脈エコー図:阻血による直径の変化を測定し、内皮機能を検査する。			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
14	〃	心機能評価:実際に記録したエコー図を用いて心拍出量などを測定 運動負荷・心エコー図:トレッドミルを用いる。記録及び測定			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
15	〃	自身の心エコー図よりの計測および以上の実習で得た知識で研究プランを立てる。			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ生理学特講演習 (226B2-2302)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	堀内 雅弘				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	運動・トレーニングを行ったり、特殊環境に曝露されると、生体における諸生理機能は、合目的に亢進、あるいは抑制され、生体内の恒常性を維持しようと作用する。この様な諸機能の応答・適応は、動員された身体部位において局所的に起こるもの、あるいは全身の諸機能が巧みな連携をみせて起こるもの様々である。これらの局所、及び全身の応答・適応のメカニズムを理解することは、効果的に生体機能を改善、向上させる意味でも大きな意味を持つ。本演習では、身体運動時、運動トレーニング、特殊環境などに対する生理応答・適応に関する基礎的情報を教授するとともに、受講生が興味を抱くそれぞれのテーマにそった最新のトピックス、論文などを取り上げ、相互に発表、議論を進めながら、運動・スポーツ生理学に関する幅広い理解と未解明点を明確にする。それにより、自らの専門分野に対する理解を深め、学会等でも通用する発表、議論能力を習得することが期待できる。また、場合によっては全員でテーマを定め、学生主導で実験を行い、その成果を学会等で発表できるようにまとめることとする。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	シラバスに記載されているような特殊環境下における生体応答、トレーニングに対する特異的な生理適応、パフォーマンスに影響する外的要因などについて、幅広く理解していることを評価の基準とし、授業での発表態度・内容、レポートなどから総合的に評価する。 尚、スポーツ生理学、トレーニング科学など関連学会で発表する、あるいは学術誌へ投稿した論文が受諾掲載された場合は、上記のレベルにあるとみなす。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書 運動生理学の基礎と発展（春日規克・竹倉宏明編著、フリースペース、2300円） 運動生理学概論（浅野勝巳編著、杏林書院、2800円） 新運動生理学上・下巻（宮村実晴編、真興交易（株）医書出版部、各13000円） パワーズ運動生理学（内藤久ら日本語監修、メディカル・サイエンスインターナショナル、10000円） その他随時紹介					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)	スポーツ生理学特講と合わせて履修することが望ましい		
オフィス・アワー	あらかじめ連絡をしてもらえれば随時対応。 研究棟3階 303研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	堀内 雅弘	オリエンテーション（授業の説明と発表内容・順番の確認、あるいは実験テーマ決め）			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる（2時間）	
2	〃	運動への生理的応答（1）運動スキルと神経系の関係			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる（2時間）	
3	〃	運動への生理的応答（2）運動と筋疲労			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる。	
4	〃	運動への生理的応答（3）全身運動時と局所運動時の呼吸循環系調節機序			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる（2時間）	
5	〃	運動への生理的応答（4）特殊環境下における生理的応答			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる（2時間）	
6	〃	運動パフォーマンス（1）スポーツ活動と筋線維タイプ			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる（2時間）	
7	〃	運動パフォーマンス（2）持続的運動と間欠的運動時のエネルギー代謝特性			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる（2時間）	
8	〃	運動パフォーマンス（3）パフォーマンスの限定要因－発揮パワー特性との関連から－			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる（2時間）	
9	〃	運動パフォーマンス（4）エルゴジェニックエイドの影響			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる（2時間）	
10	〃	トレーニング（1）トレーニングによる筋線維タイプの変化			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる（2時間）	
11	〃	トレーニング（2）トレーニングによる筋疲労遅延のメカニズム			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる（2時間）	
12	〃	トレーニング（3）トレーニング強度とトレーニング効果			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる（2時間）	
13	〃	トレーニング（4）トレーニングによる呼吸循環機能の変化			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる（2時間）	
14	〃	トレーニング（5）トレーニングによる神経系の変化			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる（2時間）	
15	〃	トレーニング（6）特殊環境下でのトレーニング－最新トレーニング法－			ひとつテーマを定め、レポートにまとめる（3時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体科学論特講演習 (体力科学) (226B2-2303)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	村田 宗紀				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツバイオメカニクス特講で得た知識を基に、研究の推進に必要なとなる研究の立案、方法の選択、解析、研究成果の公表に関する技術を習得する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績 (0%) ■授業への取り組み状況 (20%) ■レポート等の提出状況 (80%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	課題の発表内容、議論への参加、課題などの提出を基に総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考図書 (購入する必要はない) スポーツバイオメカニクス20講 (阿江通良, 藤井範久, 朝倉書店) バイオメカニクス 人体運動と力学の制御 (David A. Winter(著), 長野明紀(訳), 吉岡伸輔(訳), ラウンドフラット) バイオメカニクスと動作分析の原理 (IwanW. Griffiths(著), 石毛勇介(翻訳), 川本 竜史(翻訳), ナップ)					
履修条件・ 関連科目	スポーツバイオメカニクス特講と合わせて履修することが望ましい。 初回授業時までに各自MathWorksアカウント (スポ情HP参照) を作成しておくこと。			備考(教員メッセージ含む)	分析に要求される数学 (微積分, 線形代数), 古典力学の基礎知識を学習していること (学習済みであることを想定して授業を行う)。また, 参考図書に挙げているものに限らず, バイオメカニクスに関する参考図書に示した書籍を一読するが望ましい。 演習形式のため, 履修人数や受講者の能力に応じて内容は柔軟に対応する。	
オフィス・アワー	随時 404研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	村田 宗紀	オリエンテーション			研究テーマの立案 (1時間)	
2	〃	研究テーマの検討および研究計画			議論の内容の復習および課題の検討 (3時間)	
3	〃	研究テーマの検討および研究計画			議論の内容の復習および課題の検討 (3時間)	
4	〃	研究テーマの検討および研究計画			議論の内容の復習および課題の検討 (3時間)	
5	〃	研究テーマの検討および研究計画			議論の内容の復習および課題の検討 (3時間)	
6	〃	データ測定およびデータ処理・解釈			データ処理およびデータを解釈し考察する (3時間)	
7	〃	データ測定およびデータ処理・解釈			データ処理およびデータを解釈し考察する (3時間)	
8	〃	データ測定およびデータ処理・解釈			データ処理およびデータを解釈し考察する (3時間)	
9	〃	データ測定およびデータ処理・解釈			データ処理およびデータを解釈し考察する (3時間)	
10	〃	データ測定およびデータ処理・解釈			データ処理およびデータを解釈し考察する (3時間)	
11	〃	データ測定およびデータ処理・解釈			データ処理およびデータを解釈し考察する (3時間)	
12	〃	データ測定およびデータ処理・解釈			データ処理およびデータを解釈し考察する (3時間)	
13	〃	データ測定およびデータ処理・解釈			データ処理およびデータを解釈し考察する (3時間)	
14	〃	データ測定およびデータ処理・解釈			データ処理およびデータを解釈し考察する (3時間)	
15	〃	まとめ			レポート作成 (3時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体科学論特講演習（生体ダイナミクス） (226B2-2304)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	田巻 弘之				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	本科目では、からだの動きの原理や運動刺激による生体応答メカニズムに関する専門的知識と研究法を備えるため、身体の動きに必要な運動器（骨格筋、骨、神経）の微細構造やはたらきについて、電気力学的に分析評価するとともに、組織染色や顕微鏡観察でイメージングする技法を知る。また文献のデータベース化と実用的な活用法について学ぶ。本授業により、組織・細胞のイメージングや機能構造解析を通して運動器のはたらきを調べることができる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（25％） □発表状況（％） ■ルーブリック達成状況（25％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	ルーブリック達成状況、質疑応答状況、課題等の提出等により加点して総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	(参考書) 1) 計測法入門―計り方、計る意味、内山 靖、協同医書出版社 (2001), ISBN:978-4763910301, 2) Fatigue, Gandevia SC編集, Plenum Publishing (1995), ISBN:978-0306451393, 3) 細胞・組織染色の達人, 大久保和央(著), 羊土社 (2018), ISBN:978-4758122375, 4) 新しい骨形態計測, 遠藤直人監修, ウィネット (2014), ISBN:978-4434190803, 5) Skeletal muscle damage and repair, Tiidus, PM編集, Human Kinetics (2008), ISBN:978-0736058674, 6) 神経科学, 加藤宏司監訳, 西村書店 (2007), ISBN:978-4890133567 （資料）適宜配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	田巻 弘之	オリエンテーション、生体ダイナミクスの概要、PubMed、EndNoteの使い方			参考書を一読する。またPubMed及びEndNoteの使い方について復習する。（2時間）	
2	〃	生体電気信号の記録：その原理と方法と波形の意味を知る			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
3	〃	筋電図記録とその応用：疲労やトレーニングの評価に応用する			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
4	〃	筋電図記録とその応用：動作分析に応用する、動かしているのか/勝手に動いているのか見極める			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
5	〃	骨格筋の収縮機構と張力測定：筋収縮の力学的特性の違いを可視化して、筋力・筋パワーの評価や筋力増強の処方に応用する			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
6	〃	骨格筋収縮の機能低下：筋疲労と筋持久力を定量化して、その評価に応用する			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
7	〃	筋収縮の力学と電気信号：筋出力と表面筋電図の関係を推察、議論し、プレゼンテーションする			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
8	〃	筋組織の微細構造：筋線維と筋膜（結合組織）の種類を分類し、不動や運動による特性の変化を調べる			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
9	〃	筋損傷の可視化：生体内での化学的現象を捉える染色法と顕微鏡観察から筋組織のトレーニング効果や萎縮、崩壊の現状を見極める			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
10	〃	骨格筋の再生、炎症と神経：筋サテライト細胞やマクロファージ、感覚神経等を可視化/定量化して、再生との関連性を調べる			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
11	〃	不動による骨格筋の萎縮と骨組織の脆弱化：運動・物理療法の効果を画像解析で可視化/定量化して、その評価に応用する方法			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
12	〃	骨強度の測定：骨の力学的特性を計測し、加齢による折れ方の違いを検証する方法。骨の粘性と弾性に及ぼす因子を探り、これらを改善する体力トレーニング法に応用する			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
13	〃	骨組織におけるメカノトランスダクション：運動効果とその評価方法。骨組織への力学的負荷が骨形成を促進するしくみ			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
14	〃	骨や骨格筋が分泌する生理活性物質とクロストークの実際：骨のひずみと筋収縮がヒトの健康増進に役立つしくみ			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
15	〃	筋骨格系の力学と神経系：骨格筋や骨組織と神経との関連性を力学的、組織細胞学的観点から推察、議論し、プレゼンテーションする			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体科学論特講演習（身体機能論） (226B2-2305)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	與谷 謙吾				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	本演習では、身体運動に関わる神経-筋機能の分野を中心に、それを評価する方法について国外の文献抄読を通じて理解を深める。また、プレゼンテーションを繰り返しながら研究の方向性を確立し、科学的なアプローチが行えることを目指す。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（80％） ■プレゼンテーション/レポート等の提出状況（20％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	担当する発表の内容、質疑応答、課題等の提出状況を加味して総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	資料：適宜配布する。					
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、運動生理学、バイオメカニクスの基礎知識を 備えていること。			備考(教員メッ セージ含む)	履修に関しては、事前に相談のこと。	
オフィス・アワー	與谷：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 306研究室 yotani@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	與谷 謙吾	オリエンテーション(授業の説明と発表内容・順番の確認)			発表者は次回のプレゼン資料を確認し、まとめる (1時間)	
2	〃	随意運動に伴う神経-筋機能に関する英文抄読の発表会①			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た 情報を整理する。(2時間)	
3	〃	随意運動に伴う神経-筋機能に関する英文抄読の発表会②			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た 情報を整理する。(2時間)	
4	〃	随意運動に伴う神経-筋機能に関する英文抄読の発表会③			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た 情報を整理する。(2時間)	
5	〃	随意運動に伴う神経-筋機能に関する英文抄読の発表会④			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た 情報を整理する。(2時間)	
6	〃	随意運動に伴う神経-筋機能に関する英文抄読の発表会⑤			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た 情報を整理する。(2時間)	
7	〃	運動学習に伴う神経-筋機能の適応に関する英文抄読の発表会①			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た 情報を整理する。(2時間)	
8	〃	運動学習に伴う神経-筋機能の適応に関する英文抄読の発表会②			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た 情報を整理する。(2時間)	
9	〃	運動学習に伴う神経-筋機能の適応に関する英文抄読の発表会③			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た 情報を整理する。(2時間)	
10	〃	運動学習に伴う神経-筋機能の適応に関する英文抄読の発表会④			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た 情報を整理する。(2時間)	
11	〃	外部刺激(光)に伴う神経系の応答に関する英文抄読の発表会①			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た 情報を整理する。(2時間)	
12	〃	外部刺激(音)に伴う神経系の応答に関する英文抄読の発表会②			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た 情報を整理する。(2時間)	
13	〃	外部刺激(電気)に伴う神経系の応答に関する英文抄読の発表会③			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た 情報を整理する。(2時間)	
14	〃	外部刺激(磁気)に伴う神経系の応答に関する英文抄読の発表会④			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た 情報を整理する。(2時間)	
15	〃	外部刺激(仮想現実-視覚)に伴う神経系の応答に関する英文抄読の発表会⑤			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た 情報を整理する。(2時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツバイオメカニクス特講演習 (226B2-2306)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	村田 宗紀・前田 明・和田 智仁				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	生物の運動を力学的に解析するバイオメカニクスは、スポーツ指導や臨床現場など、幅広い領域で活用される基礎分野である。本授業では履修生自身で動作課題を決定し、スポーツパフォーマンス研究センターが所有する機材の取り扱いを習得するとともに、動作分析を演習形式で学ぶ、なお、スポーツバイオメカニクス特講（修士1年前期）で学んだ動作分析の基礎を前提とする。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（0 %） ☐ 授業への取り組み状況（30 %） ☒ レポート等の提出状況（70 %）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポートによって評価する。議論の質および態度も評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	教科書 『スポーツバイオメカニクス20講』阿江通良，藤井範久，朝倉書店（2002） 参考書 『バイオメカニクスと動作分析の原理』【著】Iwan W. Griffiths【訳】石毛勇介，川本竜史，NAP（2008） 『バイオメカニクス 人体運動の力学と制御』【著】David A. Winter【訳】長野明紀，吉岡伸輔，ラウンドフラット（2011）					
履修条件・ 関連科目	スポーツバイオメカニクス特講とセットで受講することが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)	・授業で用いる数学・力学に関する知識が不足する場合は、授業時間外に各自で補うこと。 ・初回授業時までに各自MathWorksアカウント（スポ情HP参照）を作成しておくこと。	
オフィス・アワー	村田：随時 研究棟4階 404教員研究室 和田：事前連絡 研究棟4階 401研究室 前田：事前連絡 研究棟4階 405研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	村田 宗紀 和田 智仁	課題設定および測定技術①			授業内容についての予習・復習（1時間）	
2	〃	課題設定および測定技術②			授業の内容を再考すること（1時間）。	
3	〃	課題設定および測定技術③			授業の内容を再考すること（1時間）。	
4	〃	課題設定および測定技術④			授業の内容を再考すること（1時間）。	
5	〃	演習：データ測定および分析①			データ測定，分析，考察（1時間）。	
6	〃	演習：データ測定および分析②			データ測定，分析，考察（1時間）。	
7	〃	演習：データ測定および分析③			データ測定，分析，考察（1時間）。	
8	〃	演習：データ測定および分析④			データ測定，分析，考察（1時間）。	
9	〃	演習：データ測定および分析⑤			データ測定，分析，考察（1時間）。	
10	〃	演習：データ測定および分析⑥			データ測定，分析，考察（1時間）。	
11	〃	演習：データ測定および分析⑦			データ測定，分析，考察（1時間）。	
12	〃	演習：データ測定および分析⑧			データ測定，分析，考察（1時間）。	
13	村田 宗紀 前田 明 和田 智仁	分析結果の発表・まとめ①			レポート作成	
14	〃	分析結果の発表・まとめ②			レポート作成	
15	〃	分析結果の発表・まとめ③			レポート作成	

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動生化学・分子細胞生物学特講演習 (226B2-2307)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	吉田 剛一郎・町田 修一				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	(吉田担当分) 生体における化学的变化をよく理解し、からだの内部における生化学的な知識をより深める。実際には、生化学演習、分子細胞生物学演習をととして、特講で得られた知識の理解度を深める。最終的に、運動にともなうからだの変化について、生体内代謝に基づく科学的な考察が行えることを目標とする。 (町田担当分) 骨格筋に関する分子生物学・細胞生物学の基礎的理解をさらに発展させるために、解剖および組織染色等の実習を通してマクロからミクロレベルで骨格筋を観察し学習する。 授業の到達目標は、3つの領域ごとに以下のとおりとする。 ・認知的領域：特講で得られた基礎的知識をさらに発展させ、組織レベルでの表現型（適応現象）について説明できる。 ・情意的領域：演習の準備や片付けを意欲的に取り組み、実習での積極的な行動など、新しい技術や知識の獲得に努めようとする。 ・技能的領域：実習から得られた体験や知見をトレーニングや運動処方現場で応用できるようになる。					
成績評価の方法	(吉田担当分) □学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70％） ■レポート等の提出状況（30％）を総合的に評価する。 (町田担当分) ■認知的領域（20％）：授業、レポート、発表 ■情意的領域（40％）：授業 ■技能的領域（40％）：レポート、発表を総合的に評価する。					
成績評価の基準	(吉田担当分) 演習に取り組む姿勢を重視する。 (町田担当分) 実習の準備や片付けを意欲的に取り組み、積極的な行動によって新しい技術や知識の獲得に努めようとする。本演習で得られた体験や知見をトレーニングや運動処方現場で応用できるようになると判断できるプレゼンテーションやレポートが提出された場合は合格とする。					
テキスト、教材 参 考 書	(吉田担当分) ・演習テキスト（授業時に配布する） (町田担当分) 毎回、演習内容（パワーポイント）に関する資料を配付する。 参考書については、適宜紹介する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)	(吉田担当分) 必要に応じて論文抄読会を行う。 (町田担当分) 分子・細胞生物学の知識をスポーツ科学に生かせるようになってほしいです。	
オフィス・アワー	随時 307研究室（吉田） 集中講義期間中のお昼休みもしくは放課後（町田）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	吉田 剛一郎	代謝のあらまし			代謝のあらま시를復習する。（1時間）	
2	〃	運動と水分の出納・酸塩基平衡			運動と水分の出納・酸塩基平衡を復習する。（1時間）	
3	〃	酵素1（触媒作用と逸脱酵素）			触媒作用と逸脱酵素を復習する。（1時間）	
4	〃	酵素2（運動負荷にともなう活性調節）			運動負荷にともなう活性調節を復習する。（1時間）	
5	〃	ビタミンと補酵素1（運動負荷にともなう必要性）			運動負荷にともなう必要性を復習する。（1時間）	
6	〃	ビタミンと補酵素2（疲労の防止および回復）			疲労の防止および回復を復習する。（1時間）	
7	〃	無機質1（運動負荷にともなう必要性）			運動負荷にともなう必要性を復習する。（1時間）	
8	〃	無機質2（疲労の防止および回復）			疲労の防止および回復を復習する。（1時間）	
9	町田 修一	運動生化学・分子細胞生物学特講（町田担当分）の復習			前期の特講内容に関して復習する（1時間）	
10	〃	骨格筋を把握する1（写真、映像等を利用）			前期の特講内容に関して復習する（1時間）	
11	〃	骨格筋を把握する2（模型等を利用）			実験ノートを整理し、演習内容を復習する（1時間）	
12	〃	骨格筋を細胞レベルで見ると1（HE染色を顕微鏡で観察する）			実習の片付けと次回実験の準備（1時間）	
13	〃	骨格筋を細胞レベルで見ると2（筋線維の数や面積を評価する）			実習の準備をする（1時間）	
14	〃	筋線維タイプを細胞・分子レベルで見ると1（免疫組織染色を顕微鏡で観察し、筋線維タイプを把握する）			実験ノートを整理し、演習内容を復習する（1時間）	
15	〃	筋線維タイプを細胞・分子レベルで見ると2（筋線維タイプの構成比や個々の筋線維の面積を評価する）			実験ノートを整理し、演習内容を復習する（1時間）	
16	〃	プレゼンテーション、全体的な補足とまとめ（演習内容についてパワーポイントで発表、感想）			プレゼンテーションに関する技法を予習する（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ栄養学特講演習 (226B2-2308)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	吉田 剛一郎				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	スポーツ栄養学の知識を活用するための方法について演習を行う。生体内代謝に基づく科学的なアプローチが行えることを目標とする。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70%） ■レポート等の提出状況（30%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	演習に取り組む姿勢を重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	テキスト（演習時に配布する）					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	必要に応じて論文抄読会を行う。		
オフィス・アワー	随時307・302研究室・メール					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	吉田 剛一郎	糖質の利用			糖質の利用を復習する。（1時間）	
2	〃	脂質の利用			脂質の利用を復習する。（1時間）	
3	〃	タンパク質・アミノ酸の利用			タンパク質・アミノ酸の利用を復習する。（1時間）	
4		運動と活性酸素			運動と活性酸素について復習する（1時間）	
5	〃	運動と抗酸化力			運動と抗酸化力について復習する（1時間）	
6	〃	発育発達期の運動・栄養・休養			発育発達期の運動・栄養・休養を復習する。（1時間）	
7	〃	発育発達期の運動とは（討論）			発育発達期の運動とは（討論）を復習する。（1時間）	
8	〃	発育発達期の栄養とは（討論）			発育発達期の栄養とは（討論）を復習する。（1時間）	
9	〃	発育発達期の睡眠とは（討論）			発育発達期の睡眠とは（討論）を復習する。（1時間）	
10	〃	食事調査を行い自身の栄養摂取状況を知る			食事調査を行い自身の栄養摂取状況を知るを復習する。（1時間）	
11	〃	大学生の食生活の問題点とは（討論）			大学生の食生活の問題点とは（討論）を復習する。（1時間）	
12	〃	社会人の食生活の問題点とは（討論）			社会人の食生活の問題点とは（討論）を復習する。（1時間）	
13	〃	コンディショニングを把握する指標			コンディショニングを把握する指標を復習する。（1時間）	
14	〃	コンディショニングとデータ活用（討論）			コンディショニングとデータ活用（討論）を復習する。（1時間）	
15	〃	まとめ			まとめを復習する。（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ心理学特講演習【夜間】		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	森 司朗				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	体育・スポーツ場面における運動のメカニズムに関して、スポーツ心理学の研究法を用いて、明らかにしていく方略を学習する。研究テーマに関する論文を読み、実験計画を立て、実験を行い、結果の分析考察を行い、最終的にはその研究結果に関してプレゼンテーションを行なうことを課題とする。 授業は実験・演習形式で授業で行なう。 本演習の達成目標はスポーツ心理学における基礎的な実験方法を理解・習得することである。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40%） ■レポート等の提出状況（60%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	スポーツ心理学研究法の考え方の理解と実践能力の程度及び結果の分析、プレゼンテーション能力を評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	適時配布予定					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時：702研究室、体育心理学実験室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗	オリエンテーション			文献講読予習（1時間）	
2	〃	スポーツ心理学に関する文献講読 1			文献講読予習（1時間）	
3	〃	スポーツ心理学に関する文献講読 2			文献講読予習（1時間）	
4	〃	スポーツ心理学に関する文献講読 3			文献講読予習（1時間）	
5	〃	実験計画の作成 1			実験計画書の作成（1時間）	
6	〃	実験計画の作成 2			実験計画書の修正（1時間）	
7	〃	予備実験（実験方法の確認）			予備実験の結果のまとめレポート（1時間）	
8	〃	本実験 1			実験記録のまとめ（1時間）	
9	〃	本実験 2			実験記録のまとめ（1時間）	
10	〃	本実験 3			実験記録のまとめ（1時間）	
11	〃	結果の分析 1			結果のまとめ（1時間）	
12	〃	結果の分析 2			結果のまとめ（1時間）	
13	〃	考察1(結果に関する討論)			考察のまとめ（1時間）	
14	〃	考察 2（討論のまとめ・プレゼンテーションの内容確認）			プレゼンテーションの作成（1時間）	
15	〃	プレゼンテーション			実験のまとめのレポート作成（1時間）	
16	〃	レポート提出				

授業科目名 (ナンバリングコード)	体力科学特講演習【夜間】	授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	田巻 弘之・與谷 謙吾			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本科目では、スポーツ、健康づくりの実践に必要な体力構成要素についての基礎的な理論を応用実践できるようになるために、特に行動体力の基盤となる筋骨格系、神経系、呼吸循環器系等のトレーニングや測定・評価の方法を学ぶ。また、文献の抄読やプレゼンテーションを実施する。本授業により、行動体力に関する適切な測定・評価やトレーニング効果の検証について議論ができ、また文献のデータベース化とそれを実際に用いることができる。				
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70%） ■プレゼンテーション/レポート等の発表状況（30%）を総合的に評価する。				
成績評価の基準	発表内容や質疑応答、課題等の提出状況を総合評価する。				
テキスト、教材 参 考 書	（参考書）1) 健康・体力のための運動生理学, 石河利寛著, 杏林書院, ISBN:978-4764410435, 2) 計測法入門—計り方, 計る意味, 内山 靖, 協同医書出版社 (2001), ISBN:978-4763910301, (資料) 適宜配布する				
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	田巻：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです） 研究棟3階 305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp 與谷：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです） 研究棟3階 306研究室 yotani@nifs-k.ac.jp				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	與谷 謙吾	オリエンテーション		次回の予定確認と文献(英語)を整理し、発表資料を作成する。(2時間)	
2	〃	体力科学に関する論文紹介（抄読・プレゼンテーション）		文献(英語)を整理し、次回の発表資料を作成する。 (2時間)	
3	〃	体力科学に関する論文紹介（抄読・プレゼンテーション）		文献(英語)を整理し、次回の発表資料を作成する。 (2時間)	
4	〃	体力科学に関する論文紹介（抄読・プレゼンテーション）		文献(英語)を整理し、次回の発表資料を作成する。 (2時間)	
5	〃	体力科学に関する論文紹介（抄読・プレゼンテーション）		文献(英語)を整理し、次回の発表資料を作成する。 (2時間)	
6	〃	反応時間①：反応パフォーマンスに関連するPre-motor timeの評価		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	
7	〃	反応時間②：反応パフォーマンスに関連するVisuo-motor related timeの評価		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	
8	〃	反応時間③：筋系-動作系の時間要素の関連性		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	
9	〃	反応時間④：筋収縮と弛緩課題における時間評価		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	
10	〃	体力(敏捷性)に関する抄読・プレゼンテーションとまとめ		発表資料の作成、並びにこれまでの取組みを整理する。(2時間)	
11	田巻 弘之	オリエンテーション、体力の定義と構成要素、PubMed、EndNoteの使い方		参考書1を一読する。またPubMed及びEndNoteの使い方について復習する。(2時間)	
12	〃	生体電気信号の記録：筋電図 ～その原理と波形の意味とトレーニングへの応用～		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	
13	〃	骨格筋の随意収縮と電気刺激誘発筋収縮の測定：筋力増加のトレーニングへの応用		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	
14	〃	筋肥大と萎縮、筋損傷の可視化：筋組織の微細構造観察（顕微鏡観察）からみたトレーニング効果・脆弱性の判定		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	
15	〃	骨強度の測定：骨の破断強度試験から解析した骨力学的特性～特性改善の体力トレーニング法への応用～		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツバイオメカニクス特講演習【夜間】		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	村田 宗紀・前田 明・和田 智仁				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	生物の運動を力学的に解析するバイオメカニクスは、スポーツ指導や臨床現場など、幅広い領域で活用される基礎分野である。本授業では履修生自身で動作課題を決定し、スポーツパフォーマンス研究センターが所有する機材の取り扱いを習得するとともに、動作分析を演習形式で学ぶ、なお、スポーツバイオメカニクス特講（修士1年前期）で学んだ動作分析の基礎を前提とする。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（0％） ☐ 授業への取り組み状況（30％） ☒ レポート等の提出状況（70％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポートによって評価する。議論の質および態度も評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	教科書 『スポーツバイオメカニクス20講』阿江通良，藤井範久，朝倉書店（2002） 参考書 『バイオメカニクスと動作分析の原理』【著】Iwan W. Griffiths【訳】石毛勇介，川本竜史，NAP（2008） 『バイオメカニクス 人体運動の力学と制御』【著】David A. Winter【訳】長野明紀，吉岡伸輔，ラウンドフラット（2011）					
履修条件・ 関連科目	スポーツバイオメカニクス特講とセットで受講することが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)	・授業で用いる数学・力学に関する知識が不足する場合は、授業時間外に各自で補うこと。 ・初回授業時までに各自MathWorksアカウント（スポ情HP参照）を作成しておくこと。	
オフィス・アワー	村田：随時 研究棟4階 404教員研究室 和田：事前連絡 研究棟4階 401研究室 前田：事前連絡 研究棟4階 405研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	村田 宗紀 和田 智仁	課題設定および測定技術①			授業内容についての予習・復習（1時間）	
2	〃	課題設定および測定技術②			授業の内容を再考すること（1時間）。	
3	〃	課題設定および測定技術③			授業の内容を再考すること（1時間）。	
4	〃	課題設定および測定技術④			授業の内容を再考すること（1時間）。	
5	〃	演習：データ測定および分析①			データ測定，分析，考察（1時間）。	
6	〃	演習：データ測定および分析②			データ測定，分析，考察（1時間）。	
7	〃	演習：データ測定および分析③			データ測定，分析，考察（1時間）。	
8	〃	演習：データ測定および分析④			データ測定，分析，考察（1時間）。	
9	〃	演習：データ測定および分析⑤			データ測定，分析，考察（1時間）。	
10	〃	演習：データ測定および分析⑥			データ測定，分析，考察（1時間）。	
11	〃	演習：データ測定および分析⑦			データ測定，分析，考察（1時間）。	
12	〃	演習：データ測定および分析⑧			データ測定，分析，考察（1時間）。	
13	村田 宗紀 前田 明 和田 智仁	分析結果の発表・まとめ①			レポート作成	
14	〃	分析結果の発表・まとめ②			レポート作成	
15	〃	分析結果の発表・まとめ③			レポート作成	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ栄養学特講演習【夜間】		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	鈴木 志保子				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	食品の持つ特性や特徴を体感するとともに、調理科学を体験する。 食材による代謝への影響について考察していく。 食生活を行う上での衛生管理の必要性と対処法を学ぶ。 さまざまな疾病の基準と食生活の関係を理解する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（60%） ■レポート等の提出状況（40%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	測定・実習・調査の取り組み状況とそれに伴うレポートによって評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	授業中に配布する。					
履修条件・ 関連科目	スポーツ栄養学特講【TSC】を履修していること			備考(教員メッ セージ含む)	受講生の特性により、シラバスを変更することがある。	
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	鈴木 志保子	食生活を行う上での衛生管理の必要性と対処法			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
2	〃	〃			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
3	〃	さまざまな疾病の基準と食生活の特徴			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
4	〃	〃			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
5	〃	塩分による水の低温化と乳類のエマルジョンの特性を体験する（アイスクリーム・シャーベット作成）			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
6	〃	〃			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
7	〃	エマルジョンを体験するためマヨネーズを作成する・オイルの特性による作成時の状況や味を体験する			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
8	〃	〃			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
9	〃	カプサイシンによる特異動的作用の影響を測定する			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
10	〃	〃			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
11	〃	〃			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
12	〃	〃			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
13	〃	食事調査を行い自分の食事改善を試みる			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
14	〃	〃			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
15	〃	〃			レポート作成（1時間）	
16	〃	まとめ				

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特講演習Ⅰ【KR】 (226B2-2313)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	飯干 明・未 定・井福 裕俊・小澤 雄二・森 司朗・金高 宏文・山本 正嘉・萬久 博敏 ・中本 浩揮・藤田 英二・高井 洋平・塩瀬 圭佑・幾留 沙智・永原 隆・石走 知子				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1年次	受け入れ人数	5名
授業の概要 及び達成目標	「身体教育特講Ⅰ【KR】」で学んだ身体を教育するための様々な手段について、心・技・体に関する文献購読や調査・測定・討論等を通して理解を深め、生涯にわたって身体を育てていくための実践的な能力と指導力を身につける。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記の条件で総合的に評価する。授業への取り組み状況の評価は、自分の考えを適切に表現できるかを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	テキストは使用しない。資料を適宜、配布する。					
履修条件・ 関連科目	同時開講予定の「身体教育特講Ⅰ【KR】」を履修すること。			備考(教員メッセージ含む)	本演習は、連携教育プログラム履修生の必修科目。原則として夏期休業中の約1週間程度とし、開講時期については、連携プログラム履修生の都合を優先する。なお、演習の順序が変更になる場合もある。	
オフィス・アワー	集中講義の期間中に各教員が対応する。					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗	動機づけ等について			動機づけ等についての復習（30分以上）	
2	中本 浩揮 幾留 沙智	心のトレーニングについて			心のトレーニングについての復習（30分以上）	
3	飯干 明 金高 宏文 永原 隆	運動指導とバイオメカニクスとコツ・カンについて①			運動指導とバイオメカニクスとコツ・カンについての復習（30分以上）	
4	〃	運動指導とバイオメカニクスとコツ・カンについて②			運動指導とバイオメカニクスとコツ・カンについての復習（30分以上）	
5	小澤 雄二	運動指導とコツ・カンについて（柔道）			運動指導とコツ・カンについて（柔道）の復習（30分以上）	
6	井福 裕俊	体力について			体力についての復習（30分以上）	
7	高井 洋平	球技スポーツにおける攻防の評価について			球技スポーツにおける攻防の評価についての復習（30分以上）	
8	塩瀬 圭佑	健康と生活習慣について（調査と評価）			健康と生活習慣の調査と評価についての復習（30分以上）	
9	藤田 英二	健康づくりのための運動処方について			健康づくりのための運動処方についての復習（30分以上）	
10	萬久 博敏	運動指導とコツ・カンについて（水泳）			運動指導とコツ・カンについて（水泳）の復習（30分以上）	
11	未 定	栄養について（食事調査と栄養摂取状況の評価）			食事調査と栄養摂取状況についての復習（30分以上）	
12	石走 知子	休養について（調査と評価）			休養の調査と評価についての復習（30分以上）	
13	飯干 明	コンディショニングについて（調査と評価）			コンディショニングの調査と評価についての復習（30分以上）	
14	山本 正嘉	自然環境下での運動について			自然環境下での運動についての復習（30分以上）	
15	飯干 明	まとめ			課題レポートによるまとめ（3時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特講演習Ⅱ A 【KR】 (226B2-2314)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	井福 裕俊・坂本 将基				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	身体教育特講Ⅱ A の内容をふまえて、スポーツや運動を身体教育として捉え、かつそれらの分野に関する研究の視点を得るために、関連する著書や研究論文を抄読できるようになる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（ ％） ■授業への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート課題の成績と授業への取り組みから総合的に判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	論文等は事前に配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	担当教員ごとに要予約（相談）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	井福 裕俊 坂本 将基	オリエンテーション				
2	坂本 将基	随意運動制御の基礎（1）脊髄			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
3	”	随意運動制御の基礎（2）小脳			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
4	”	随意運動制御の基礎（3）大脳基底核			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
5	”	随意運動制御の基礎（4）骨格筋			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
6	”	随意運動制御の基礎（5）大脳皮質1			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
7	”	随意運動制御の基礎（6）大脳皮質2			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
8	”	随意運動制御の基礎（7）運動学習			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
9	井福 裕俊	運動時の循環調節の基礎（1）心臓			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
10	”	運動時の循環調節の基礎（2）血圧			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
11	”	運動時の循環調節の基礎（3）微小循環			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
12	”	運動時の循環調節の基礎（4）圧受容器反射			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
13	”	運動時の循環調節の基礎（5）セントラルコマンド			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
14	”	運動時の循環調節の基礎（6）運動昇圧反射			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
15	井福 裕俊 坂本 将基	総合討論				

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特講演習Ⅱ B 【KR】		授業形態	講義	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	塩瀬 圭佑				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	本講義では、身体教育特講Ⅱ B の内容を踏まえて、運動・食事・睡眠等の生活習慣と健康の関連についての著書や研究論文を抄読し、個人や集団の健康づくりに応用できる知識と技能を身につける。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） □出席状況（％） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	運動・食事・睡眠等の生活習慣と健康の関連について著書や研究論文を抄読し、内容を理解できている					
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて資料を配布・紹介する					
履修条件・ 関連科目				備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	適宜指定する					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	塩瀬 圭佑	オリエンテーション			文献の予習・復習（1.5時間程度）	
2	〃	運動・身体活動と健康に関する著書、論文の抄読Ⅰ			文献の予習・復習（1.5時間程度）	
3	〃	運動・身体活動と健康に関する著書、論文の抄読Ⅱ			文献の予習・復習（1.5時間程度）	
4	〃	運動・身体活動と健康に関する著書、論文の抄読Ⅲ			文献の予習・復習（1.5時間程度）	
5	〃	運動・身体活動と健康に関する著書、論文の抄読Ⅳ			文献の予習・復習（1.5時間程度）	
6	〃	運動・身体活動と健康に関する著書、論文の抄読Ⅴ			文献の予習・復習（1.5時間程度）	
7	〃	栄養・食事と健康に関する著書、論文の抄読Ⅰ			文献の予習・復習（1.5時間程度）	
8	〃	栄養・食事と健康に関する著書、論文の抄読Ⅱ			文献の予習・復習（1.5時間程度）	
9	〃	栄養・食事と健康に関する著書、論文の抄読Ⅲ			文献の予習・復習（1.5時間程度）	
10	〃	栄養・食事と健康に関する著書、論文の抄読Ⅳ			文献の予習・復習（1.5時間程度）	
11	〃	休養・睡眠と健康に関する著書、論文の抄読Ⅰ			文献の予習・復習（1.5時間程度）	
12	〃	休養・睡眠と健康に関する著書、論文の抄読Ⅱ			文献の予習・復習（1.5時間程度）	
13	〃	休養・睡眠と健康に関する著書、論文の抄読Ⅲ			文献の予習・復習（1.5時間程度）	
14	〃	休養・睡眠と健康に関する著書、論文の抄読Ⅳ			文献の予習・復習（1.5時間程度）	
15	〃	まとめ			文献の予習・復習（1.5時間程度）	